

男女共同参画社会づくり のための意識調査報告書

令和3年2月

岩出市

目次

1. 住民意識調査	2
1 調査概要	2
1 調査の目的	2
2 調査設計	2
3 回収結果	2
4 調査項目	2
5 報告書の見方	2
6 誤差	3
2 調査結果	5
1 あなたご自身のことについて	5
2 職業生活について	8
3 家庭生活や地域活動について	15
4 DV・ハラスメントについて	31
5 男女平等について	40
2. 意識調査（事業所）	50
1 調査概要	50
1 調査の目的	50
2 調査設計	50
3 回収結果	50
4 報告書の見方	50
2 調査結果	51
3. 自由記載欄ご意見	61
1 （住民意識調査）問 2 4	61
2 （事業所用）問 1 3	74

1. 住民意識調査

1 調査概要

1 調査の目的

岩出市では、平成 29 年 3 月に「第 4 次岩出市男女共同参画プラン」を策定し、「みんなが共に生きるまち」の実現をめざして、取り組みを進めています。現プランは、令和 3 年度で計画期間が終了することから、新たなプランの策定に向け、男女共同参画に対する市民の意識や実態を把握し、基礎資料とするために実施しました。

2 調査設計

項 目	内 容
調査地域	岩出市全域
調査対象	市内在住の 20 歳以上の男女
調査数	2,500 人
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	令和 2 年 9 月～11 月

3 回収結果

調査数	有効回収数	有効回収率
2,500	1,038	41.5%

4 調査項目

- ・回答者の属性 4 問
- ・職業生活 3 問・副 3 問
- ・家庭生活や地域活動 5 問・副 2 問
- ・DV・ハラスメント 6 問・副 3 問
- ・男女平等 5 問

5 報告書の見方

・設問によっては「単純集計」の結果の他、「男女別」、「年齢別」あるいは「他の設問」との「クロス集計」を記載しています。

・図中の N は、設問に対する回答者数のことです。

・回答比率は、回答者数（N）を 100% として算出し、小数点第 2 位を四捨五入して表示しています。

そのため、内訳の合計が計に一致しない場合があります。また、複数回答の設問の場合は、回答比率

(%) の計 100.0%を越えます。

- ・図中に次のような表示がある場合は、複数回答を依頼した質問です。

MA%：回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合

3LA%：回答選択肢の中からあてはまるものを 3 つ以内で選択する場合

2LA%：回答選択肢の中からあてはまるものを 2 つ以内で選択する場合

- ・図表の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、一部簡略化した表現を用いている場合もあります。

- ・「前回調査」とは、平成 27 年に実施した「岩出市男女共同参画に関する意識調査」、「前々回調査」とは、平成 22 年に実施した調査のことです。

6 誤差

性別構成

回答者の性別構成は、対象全体（令和 2 年 8 月 31 日現在 20 歳以上の住民基本台帳人口）に比べて、女性の割合が高いです。

【%（人）】

回答者（1,038）				対象全体（43,486）	
男性	女性	どちらともいえない	無回答	男性	女性
44.7（464）	54.6（567）	0.2（2）	0.5（5）	47.5（20,638）	52.5（22,848）

年齢別構成

回答者の年齢別構成は、対象全体に比べて 60 歳代の割合が高く、70 歳以上は少し高いです。その他の年齢層は対象全体より低くなっています。

【%（人）】

	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	無回答
回答者	10.2 (106)	12.6 (131)	16.2 (168)	15.6 (162)	23.0 (239)	21.9 (227)	0.5 (5)
対象全体	12.9 (5,596)	13.5 (5,873)	19.5 (8,499)	17.8 (7,733)	15.0 (6,508)	21.3 (9,277)	

誤差

集計で得られた回答割合 p（%）には、p と回答者数によって、異なった誤差が発生します。この誤差は下表のとおりです。（信頼度 95%で計算）

95%の信頼度とは、100 回同じように調査し、95 回同じ結果が得られるとの想定です。一般的な標本調査は、信頼水準 95%として調査の設計がされています。

【%】

p（%）	50	40 または 60	30 または 70	20 または 80	10 または 90
対象全体	3.0	2.9	2.8	2.4	1.8

p (%)	50	40 または 60	30 または 70	20 または 80	10 または 90
男性	4.5	4.4	4.1	3.6	2.7
女性	4.1	4.0	3.7	3.3	2.4
20 歳代	9.4	9.2	8.6	7.5	5.7
30 歳代	8.5	8.3	7.8	6.8	5.1
40 歳代	7.5	7.3	6.9	6.0	4.5
50 歳代	7.6	7.5	7.0	6.1	4.6
60 歳代	6.2	6.1	5.7	5.0	3.7
70 歳以上	6.4	6.3	5.9	5.1	3.9

(表の見方)

女性の回答割合が、40%（または 60%）となった場合、その誤差はプラスマイナス 4.0%です。ある質問の選択肢「そう思う」の女性の回答割合が 40%であるとすれば、女性の対象全体における回答割合としては、36.0%から 44.0%の間にあると 95%の確立で言えることを意味しています。

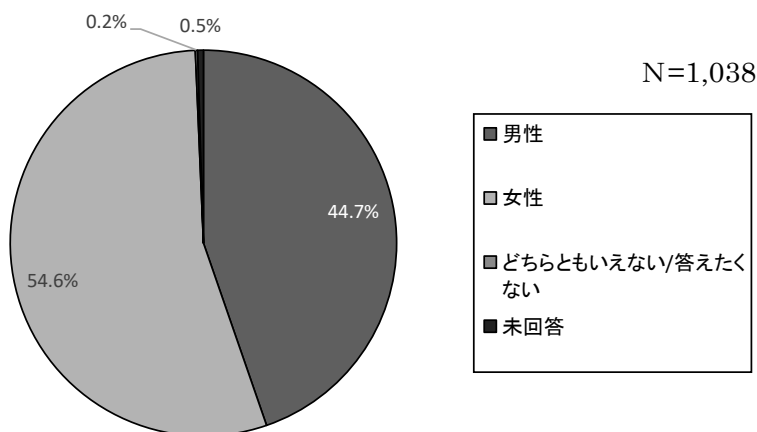
2 調査結果

1 あなたご自身のことについて

問1. あなたの性別は？（自認している性別1つだけに○を）

1 男性 2 女性 3 どちらともいえない/答えたくない

回答者の性別について、「男性」が44.7%、「女性」は54.6%です。「どちらともいえない/答えたくない」の割合は0.2%（2人）、回答のない方が0.5%（5人）です。

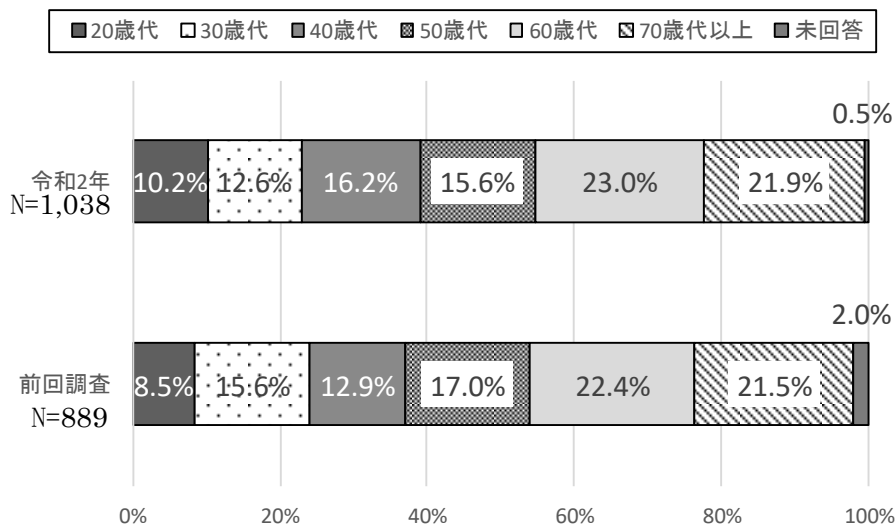


調査票では、「男性」「女性」「どちらともいえない/答えたくない」として尋ねました。
しかし、「どちらともいえない/答えたくない」と「未回答」は回答数が小さいため、以降のクロス集計については、基本的に「男性」「女性」のみを対象にしています。

問2. あなたの年齢は？（1つだけに○を）

1 20 歳代 2 30 歳代 3 40 歳代 4 50 歳代 5 60 歳代 6 70 歳代以上

回答者の年齢は、「60 歳代」が23.0%と最も高く、次いで「70 歳代以上」が21.9%です。60 歳以上の回答者が全体の44.9%を占めます。



年齢の「未回答」は5人、その内訳は、「男性」で2人、「女性」で2人、「性別の未回答」で1人です。回答数が小さいため、以降の「男性」「女性」を対象とした「年齢別」クロス集計については、年齢「未回答」のグラフを省略して表示します。

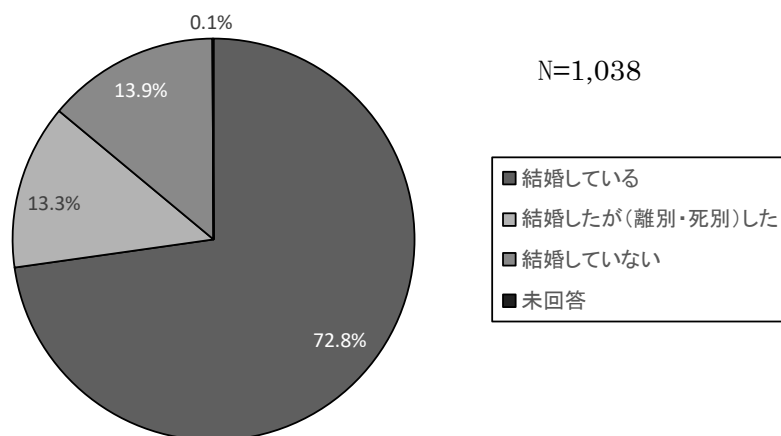
問3. あなたは結婚（事実婚を含む）していますか？（1つだけに○を）

1 結婚している

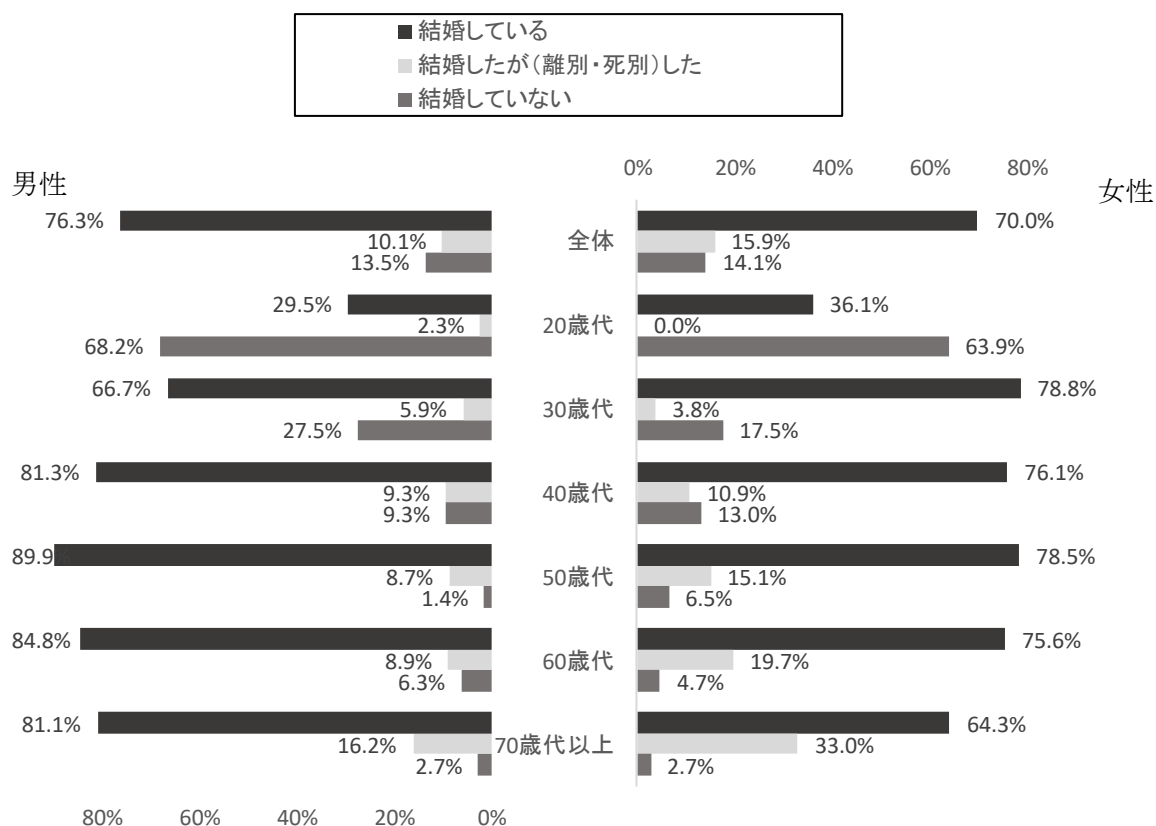
2 結婚したが（離別・死別）した

3 結婚していない

回答者全体では、「結婚している」割合は72.8%です。



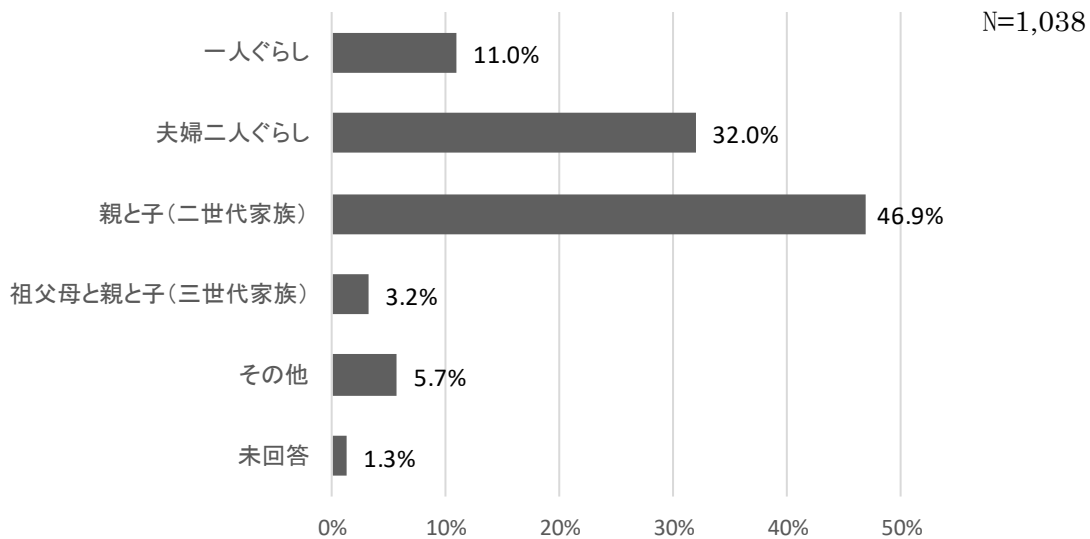
「結婚している」割合は、女性（70.0%）より男性（76.3%）の方が高いです。性別・年齢別では、「結婚している」の割合が最も高いのは、男性では50歳代、女性では30歳代です。男女とも「結婚していない」割合が高いのは20歳代です。



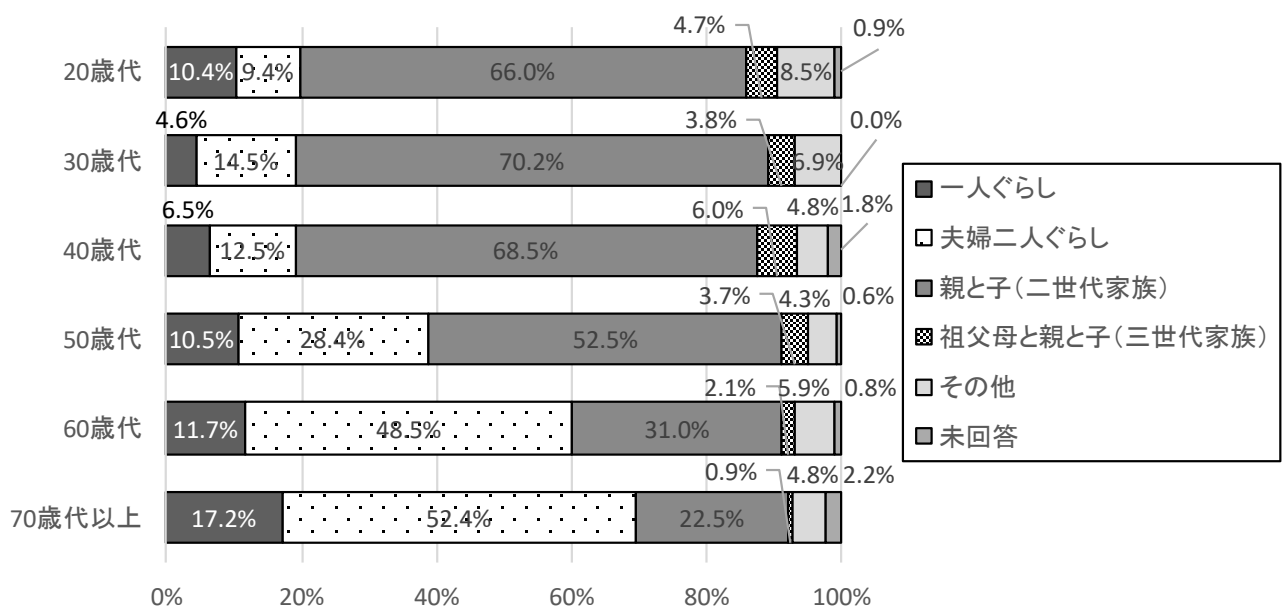
問4. あなたが現在生活しているご家庭の家族構成は？（1つだけに○を）

- 1 一人暮らし 2 夫婦二人暮らし 3 親と子（二世帯家族） 4 祖父母と親と子
5 その他

家族構成は、「親と子（二世帯家族）」が46.9%と最も多く、次いで「夫婦二人暮らし」32.0%、「一人暮らし」11.0%となっています。



年代別では、20歳代から50歳代までは、「親と子（二世帯家族）」が最も多く、60歳代と70歳代以上では、「夫婦二人暮らし」が最も多くなっています。

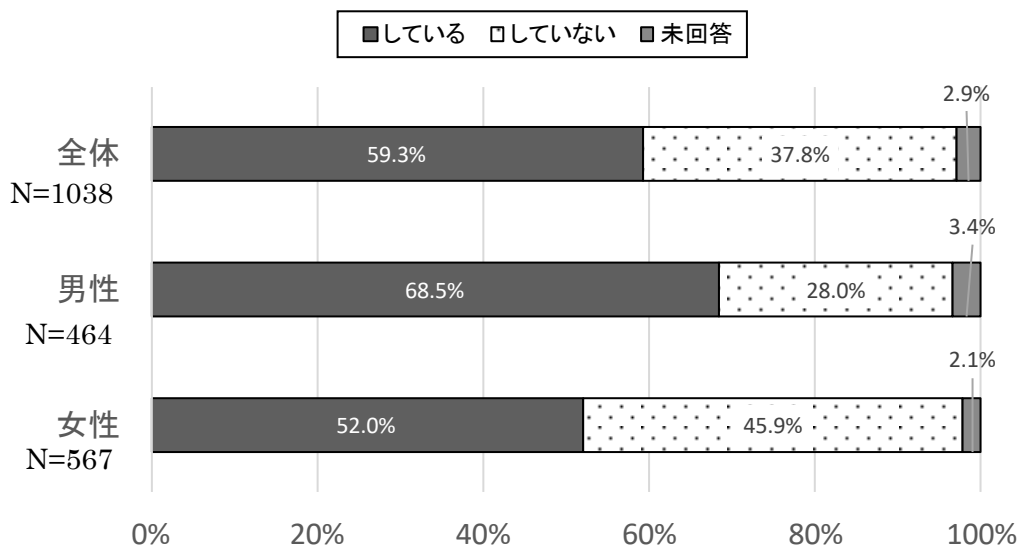


2 職業生活について

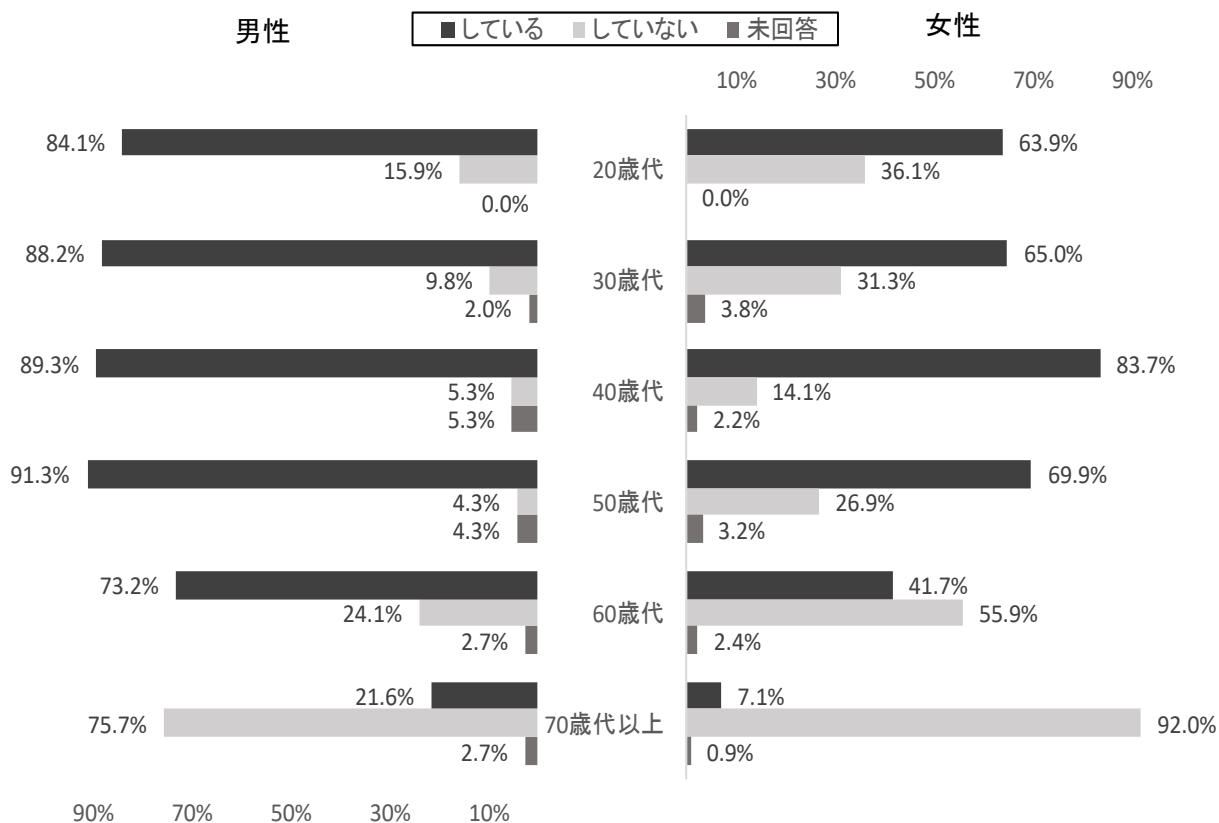
問5. あなたは、現在収入を得る仕事をしていますか？（1つだけに○を）

1 している（問5-1、5-2へ） 2 していない

就労状況について、全体の59.3%の方が収入を得る仕事をしています。



性別・年齢別では、「男性70歳代以上」と「女性60歳代」「女性70歳代以上」で、収入を得る仕事をしていない割合が高くなっています。その他の年代では、仕事をしている割合が高いです。

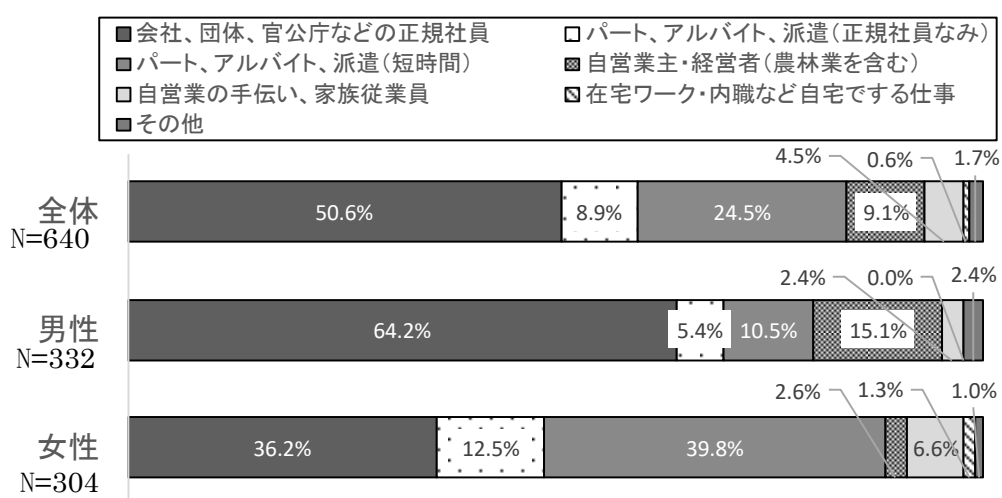


問5で「している」と回答された方におたずねします。

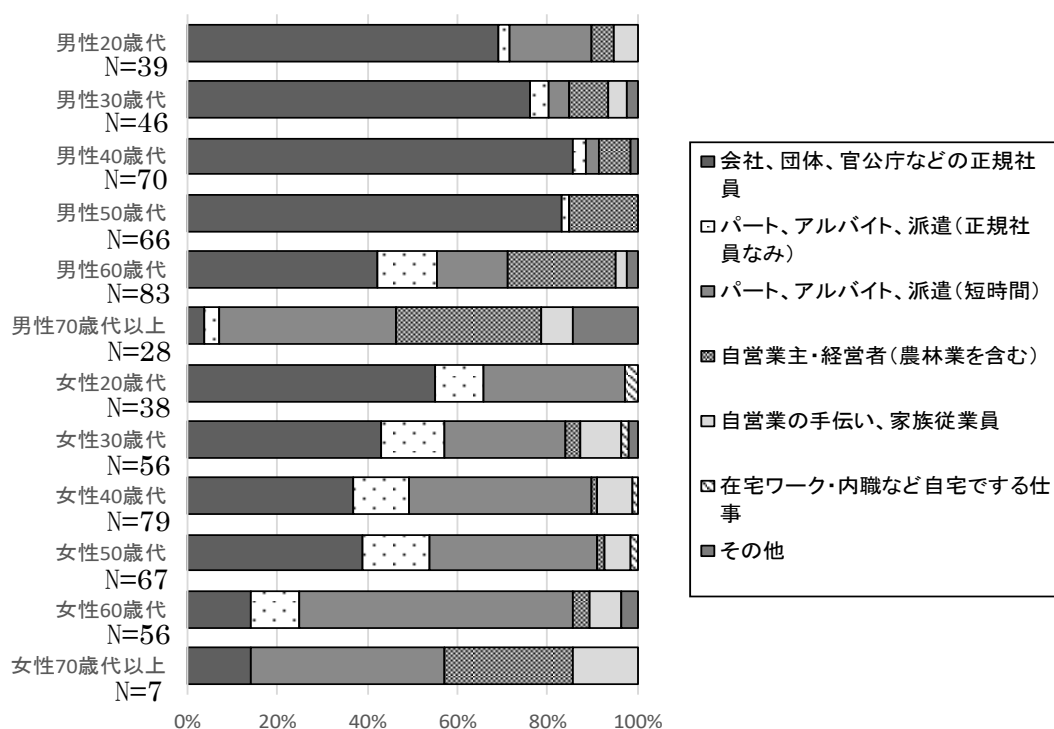
問5－1. それは、どのような働き方ですか。複数にあてはまる方は、主なものをお答えください。（1つだけに○を）

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1 会社、団体、官公庁などの正規職員 | 2 パート、アルバイト、派遣（正社員のみ） |
| 3 パート、アルバイト、派遣（短時間） | 4 自営業主・経営者（農林業を含む） |
| 5 自営業の手伝い、家族従業員 | 6 在宅ワーク・内職など自宅でする仕事 |
| | 7 その他 |

性別でみると、男性では、「会社、団体、官公庁などの正規社員」（64.2%）が最も多く、次いで「自営業主・経営者（農林業を含む）」（15.1%）となっています。女性では、「パート、アルバイト、派遣（短時間）」（39.8%）、「会社、団体、官公庁などの正規職員」（36.2%）の順で多いです。



性別・年齢別

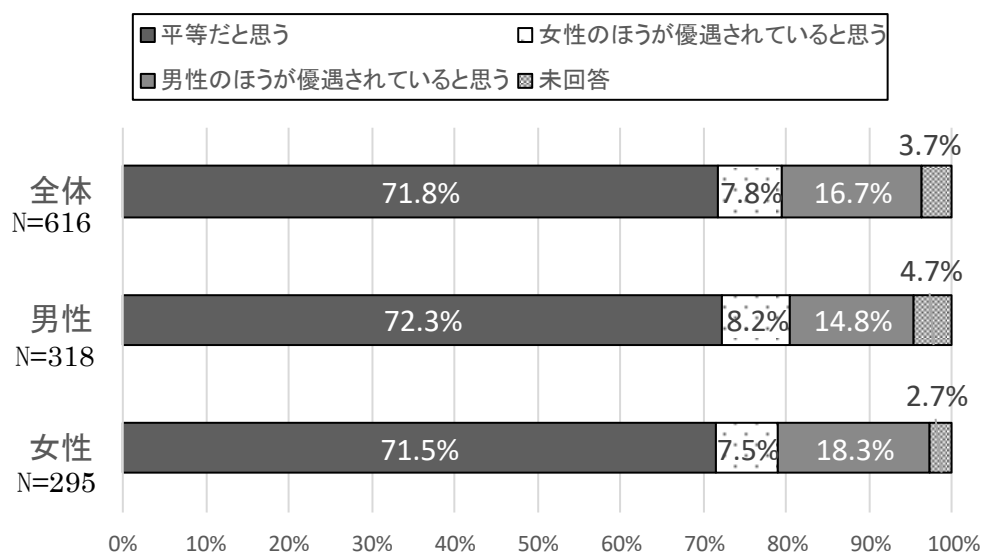


問5で「している」と回答された方におたずねします。

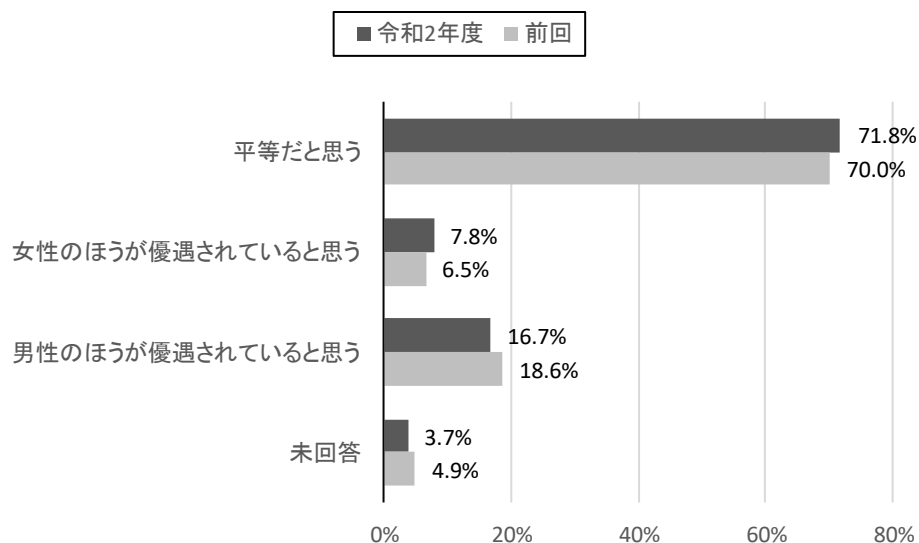
問5－2. あなたが現在働いている環境では、女性と男性は平等だと思いますか？（1つだけに○を）

1 平等だと思う 2 女性のほうが優遇されていると思う（問5－2－1へ） 3 男性のほうが優遇されていると思う（問5－2－1へ）

「平等だと思う」が71.8%と最も多く、次いで「男性のほうが優遇されていると思う」が16.7%と続いています。性別で最も差が大きいのは、「男性のほうが優遇されていると思う」で、3.5ポイント差です。



前回（平成27年）調査結果と比較すると、「平等だ」「女性のほうが優遇されている」と思う方が、増え、「男性のほうが優遇されていると思う」方が減っています。



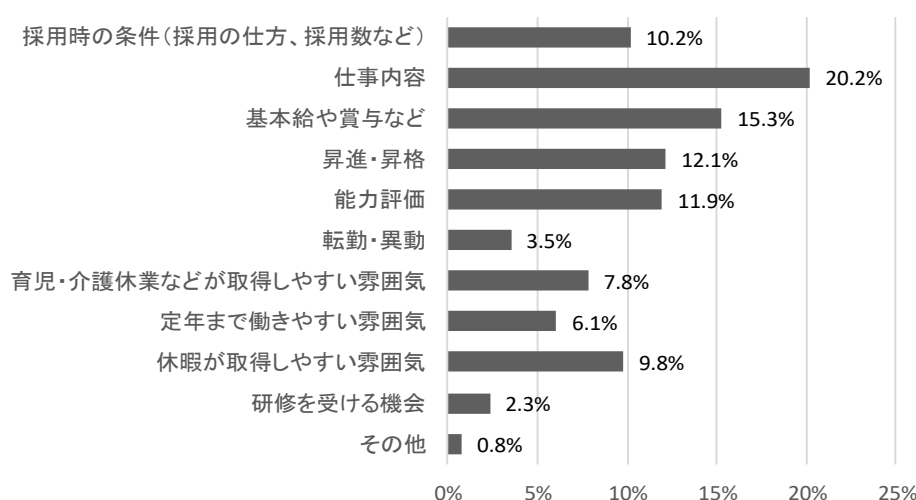
問5-2で「優遇されていると思う」と回答した方におたずねします。

問5-2-1. 優遇されていると思うのは、どのようなことですか？（あてはまるものすべてに○を）

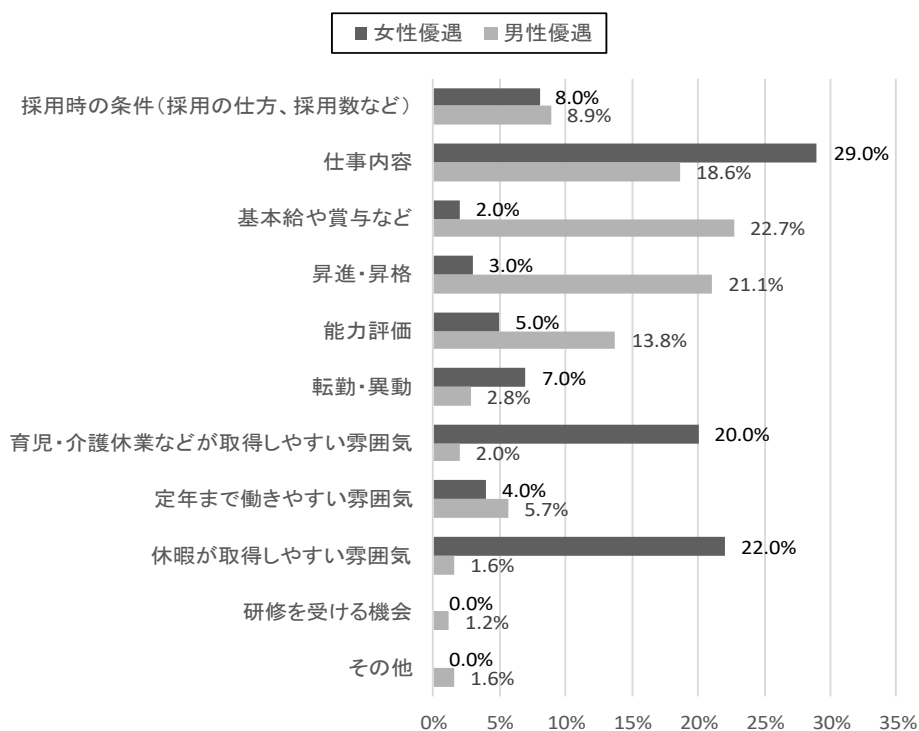
- | | | |
|-----------------------|----------------|----------------|
| 1 採用時の条件（採用の仕方、採用数など） | 2 仕事内容 | 3 基本給や賞与など |
| 4 昇進・昇格 | 5 能力評価 | 6 転勤・異動 |
| 7 育児・介護休業などが取得しやすい雰囲気 | 8 定年まで働きやすい雰囲気 | 9 休暇が取得しやすい雰囲気 |
| 10 研修を受ける機会 | 11 その他 | |

優遇されていると思う要因は、「仕事内容」が20.2%と最も多く、次いで、「基本給や賞与など」が15.3%となっています。

N=511



「女性が優遇されていると思う」方では、「仕事内容」、「休暇が取得しやすい雰囲気」の順に多く、「男性が優遇されていると思う」方は、「基本給や賞与など」「昇進・昇格」の順になっています。

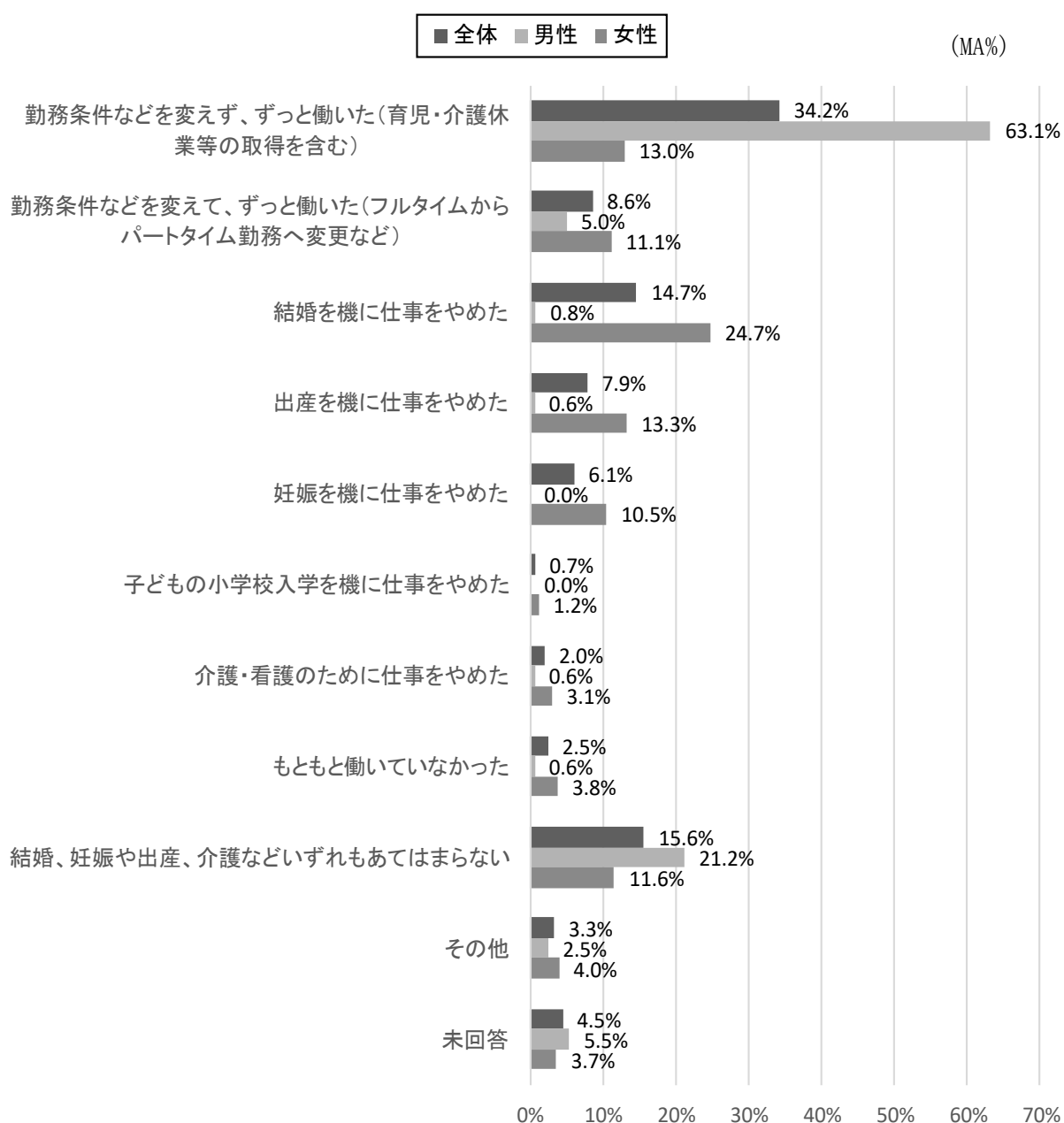


問6. あなたは、結婚、出産、介護などの転換期に、どのような働き方を選びましたか？（あてはまるものすべてに○を。結婚、出産、介護などのいずれも該当しない場合は、「9」を選択してください。

- | | | | | | | | | | |
|-------------------------------------|---|---------------|---------------|---------------|----------------------|-------------------|----------------|----------------------------|--------|
| 1 勤務条件などを変えず、ずっと働いた（育児・介護休業等の取得を含む） | 2 勤務条件などを変えて、ずっと働いた（フルタイムからパートタイム勤務へ変更など） | 3 結婚を機に仕事をやめた | 4 妊娠を機に仕事をやめた | 5 出産を機に仕事をやめた | 6 子どもの小学校入学を機に仕事をやめた | 7 介護・看護のために仕事をやめた | 8 もともと働いていなかった | 9 結婚、妊娠や出産、介護などいずれもあてはまらない | 10 その他 |
|-------------------------------------|---|---------------|---------------|---------------|----------------------|-------------------|----------------|----------------------------|--------|

全体では、「勤務条件などを変えず、ずっと働いた」が34.2%と最も多いです。

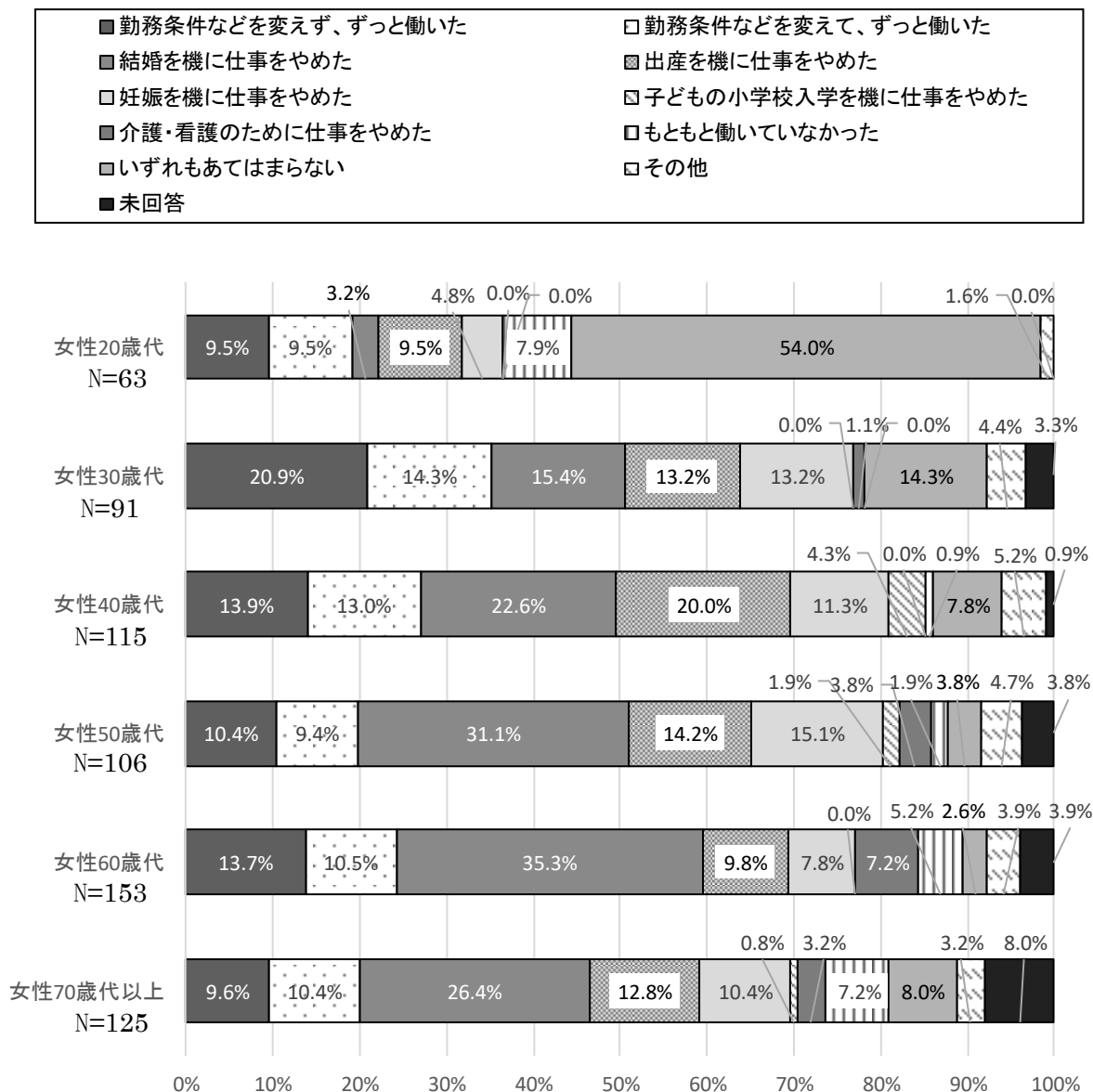
回答者の性別では、男性では、「勤務条件などを変えず、ずっと働いた」が最も多く、女性では、「結婚を機に仕事をやめた」方が多くなっています。



女性の年齢別の転換期の働き方では、30 歳代では、「勤務条件などを変えず、ずっと働いた」が、最も多く、「勤務条件などを変えて、ずっと働いた」をあわせた、「ずっと働いた」割合が 35.2%と他の年代より高いです。

20 歳代では、「結婚、妊娠や出産、介護などいずれもあてはまらない」が 54.0%と最も多く、40 歳代以上では、「結婚を機に仕事をやめた」が多くなっています。

女性・年齢別

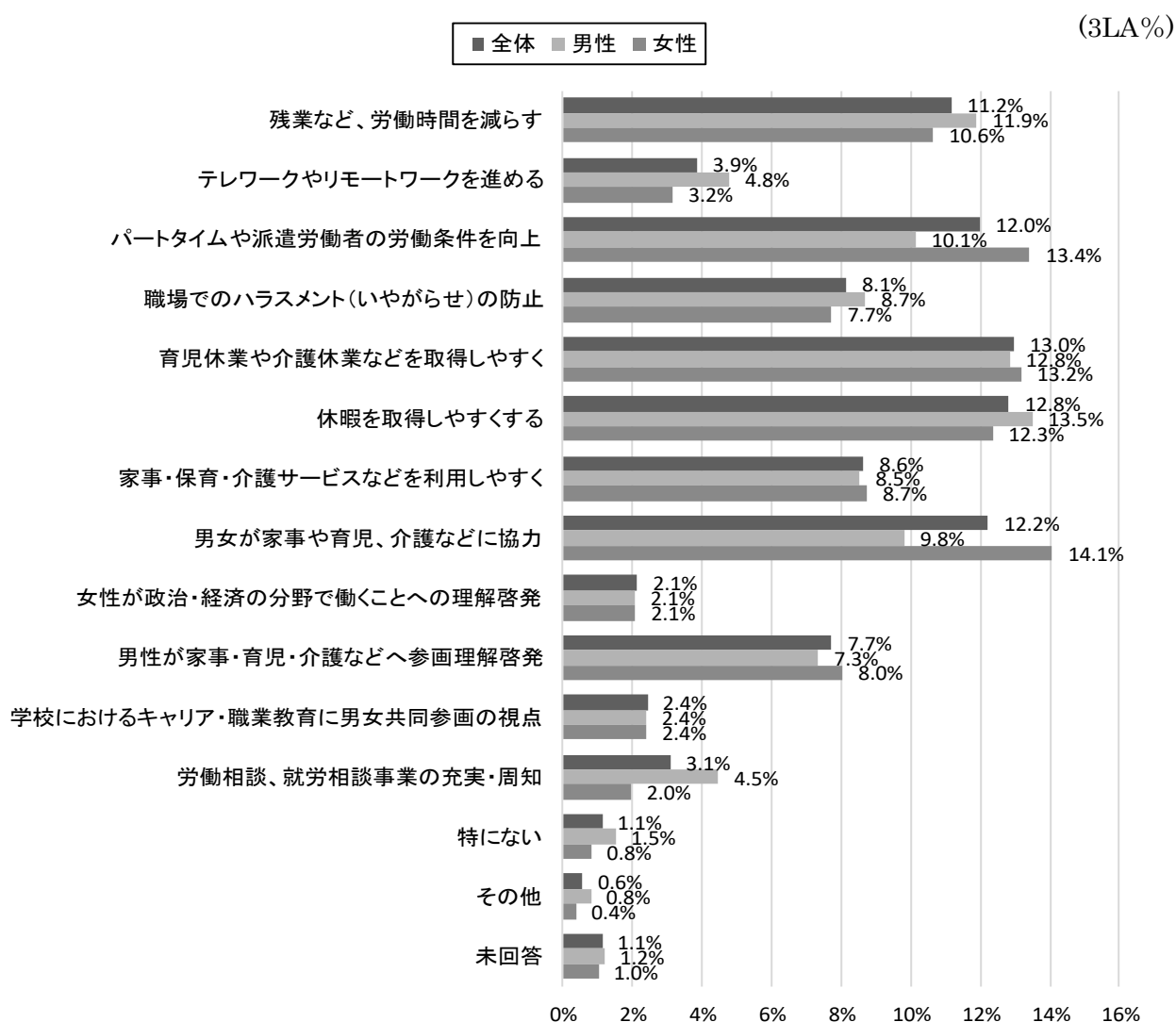


問7. 男女がともに働きやすい社会をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか？（特に必要と思うもの3つまでに○を）

- 1 残業など、労働時間を減らす 2 テレワークやリモートワークを進める 3 パートタイムや派遣労働者の労働条件を向上させる 4 職場でのハラスメント（いやがらせ）の防止に努める 5 育児休業や介護休業などを取得しやすくする 6 休暇を取得しやすくする 7 家事・保育・介護サービスなどを利用しやすくする 8 男女が家事や育児、介護などに協力して取り組む 9 女性が政治・経済の分野で働くことへの理解が広がるように啓発する 10 男性が家事・育児・介護などへ参画することへの理解が広がるように啓発する 11 学校におけるキャリア・職業教育に男女共同参画の視点を積極的に取り入れる 12 労働相談、就労相談事業の充実や周知を強化する 13 特にない 14 その他

全体では、「育児休業や介護休業などを取得しやすく」が 13.0%と最も高く、ついで「休暇を取得しやすくする」12.8%となっています。

性別では、男性では、「休暇を取得しやすくする」、「育児休業や介護休業などを取得しやすく」の順で多く、女性では、「男女が家事や育児、介護などに協力して取り組む」、「パートタイムや派遣労働者の労働条件を向上させる」の順に多くなっています。



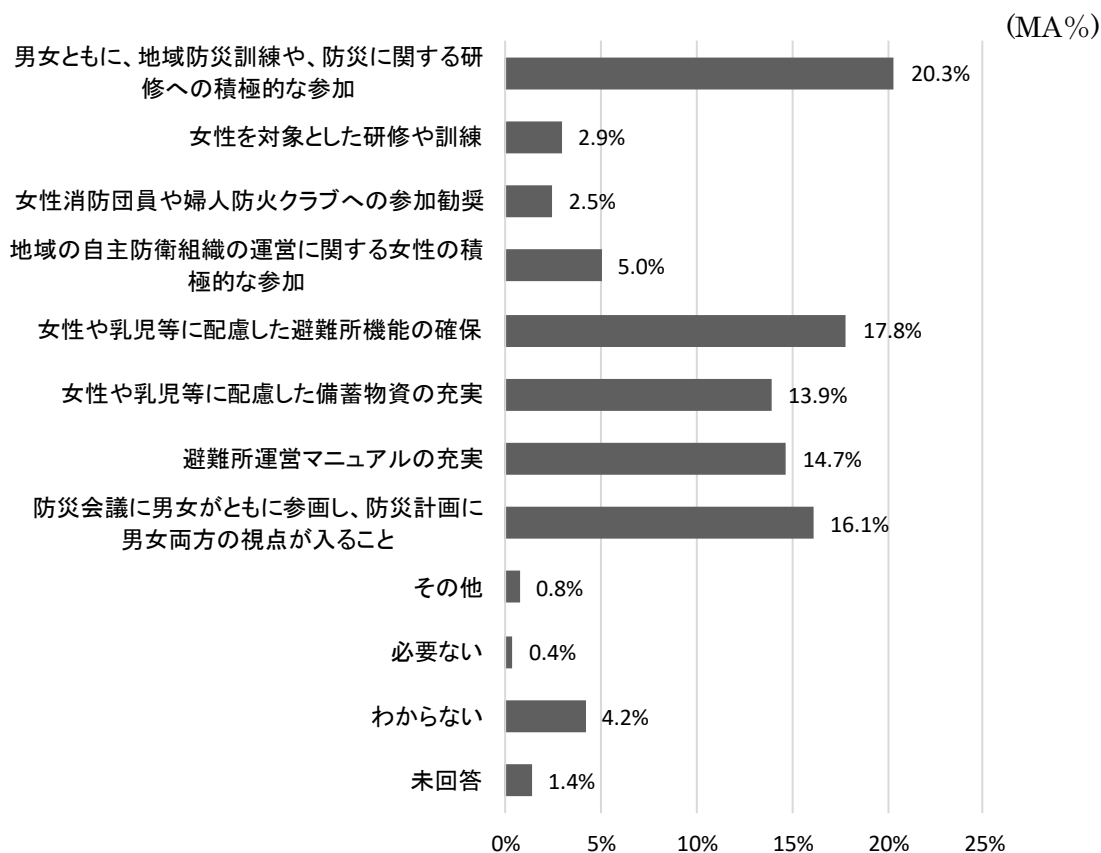
3 家庭生活や地域活動について

問8. 防災活動に関して男女共同参画を推進していくには、どのようなことが必要だと思いますか？（あてはまるもの全てに○を）

- | | | | | |
|----------------------------------|-----------------|------------------------------------|-----------------------------|------------------------|
| 1 男女ともに、地域防災訓練や、防災に関する研修への積極的な参加 | 2 女性を対象とした研修や訓練 | 3 女性消防団員や婦人防火クラブへの参加勧奨 | 4 地域の自主防災組織の運営に関する女性の積極的な参加 | 5 女性や乳幼児等に配慮した避難所機能の確保 |
| 6 女性や乳幼児等に配慮した備蓄物資の充実 | 7 避難所運営マニュアルの充実 | 8 防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること | 9 その他 | 10 必要ない |
| 11 わからない | | | | |

高い項目としては、「男女ともに、地域防災訓練や、防災に関する研修への積極的な参加」が20.3%と高く、ついで「女性や乳児等に配慮した避難所機能の確保」が17.8%、「防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること」16.1%などです。

低い項目としては、「わからない」を除き、「女性消防団員や婦人防火クラブの参加勧奨」が2.5%、「女性を対象とした研修や訓練」が2.9%、「地域の自主防衛組織の運営に関する女性の積極的な参加」が5.0%などです。

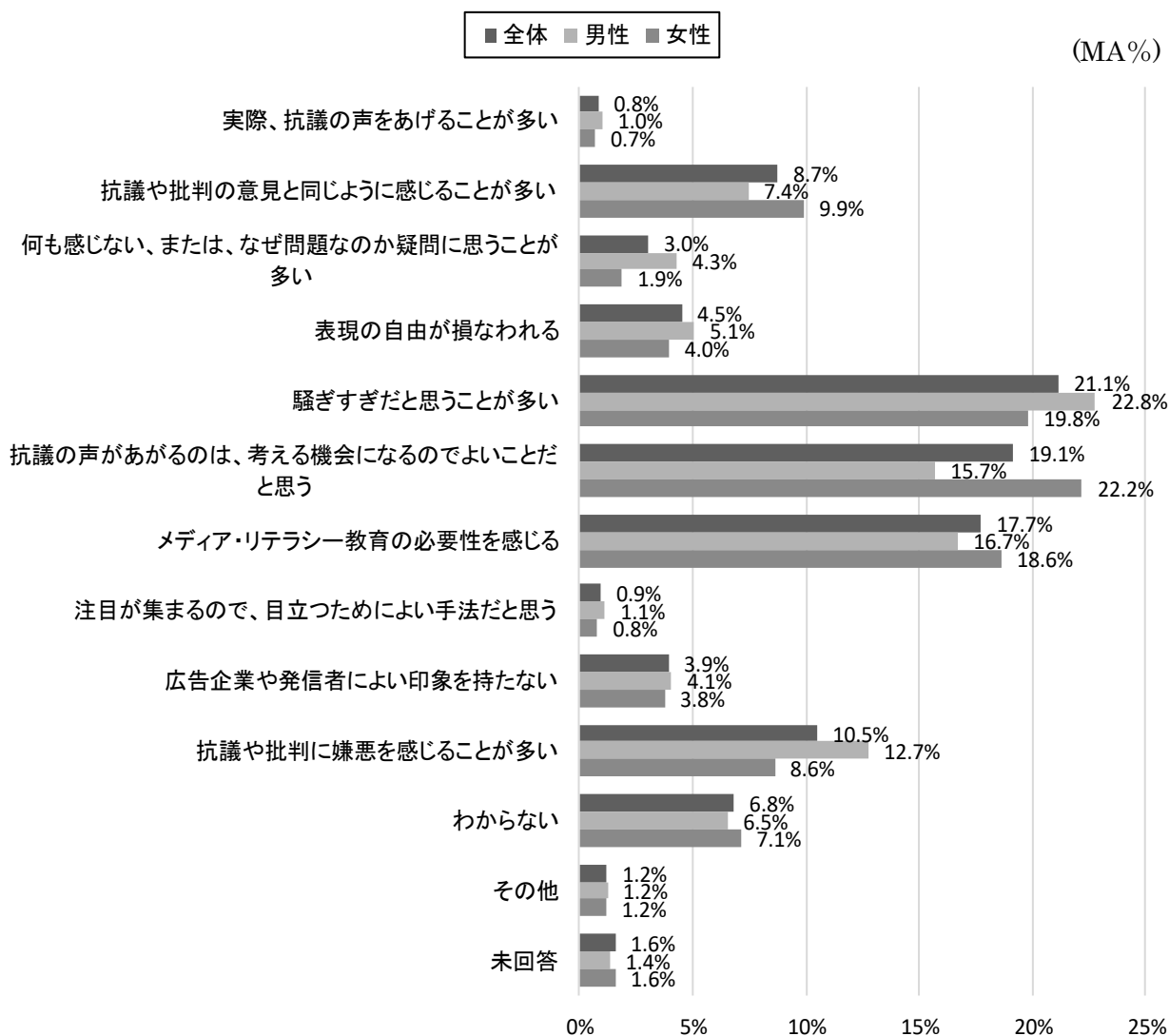


問9. 最近、メディア（広告やインターネット動画、SNS など）で、女性の描き方や、家事・育児の描き方について、抗議や批判が殺到し、放送・公開を中止したり、謝罪する事例があります。そのことについて、あなたはどのように思いますか？（あてはまるものすべてに○を）

- 1 実際、抗議の声をあげることが多い 2 抗議や批判の意見と同じように感じる人が多い
 3 何も感じない、または、なぜ問題なのか疑問に思うことが多い 4 表現の自由が損なわれる
 5 騒ぎすぎだと思うことが多い 6 抗議の声があがるのは、考える機会になるのでよいことだと思う
 7 メディア・リテラシー教育の必要性を感じる 8 注目が集まるので、目立つためにより手法だと思う
 9 広告企業や発信者により印象を持たない
 10 抗議や批判に嫌悪を感じる人が多い 11 わからない 12 その他

全体では、「騒ぎすぎだと思うことが多い」が、21.1%と最も多く、ついで「抗議の声があがるのは、考える機会になるのでよいことだと思う」が19.1%となっています。

性別では、男性が「騒ぎすぎだと思うことが多い」、「メディア・リテラシー教育の必要性を感じる」の順で多く、女性では「抗議の声があがるのは、考える機会になるのでよいことだと思う」、「騒ぎすぎだと思うことが多い」の順に多いです。



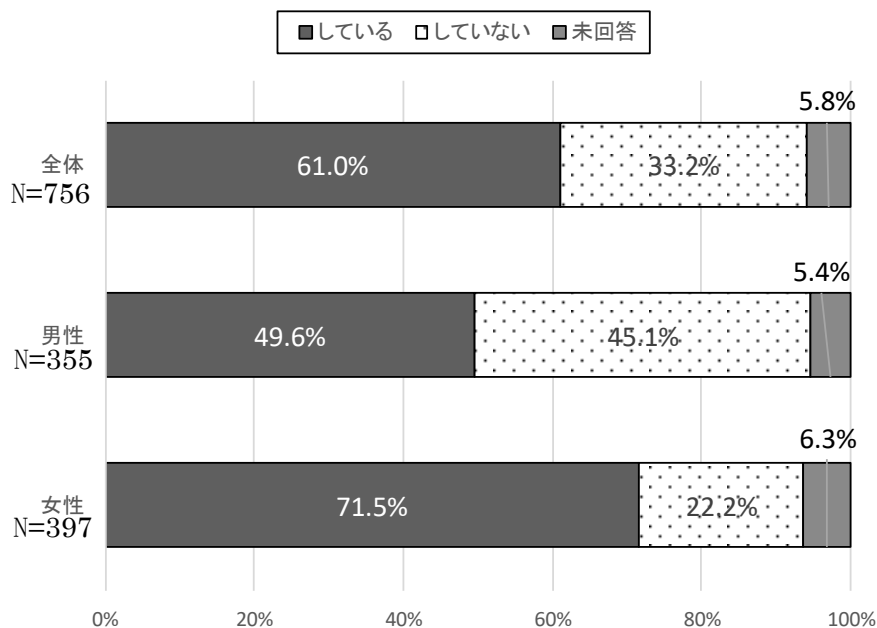
問3で「結婚している」と答えた方におたずねします。

問10. あなたの配偶者またはパートナーは、収入を得る仕事をしていますか? (1つだけに○を)

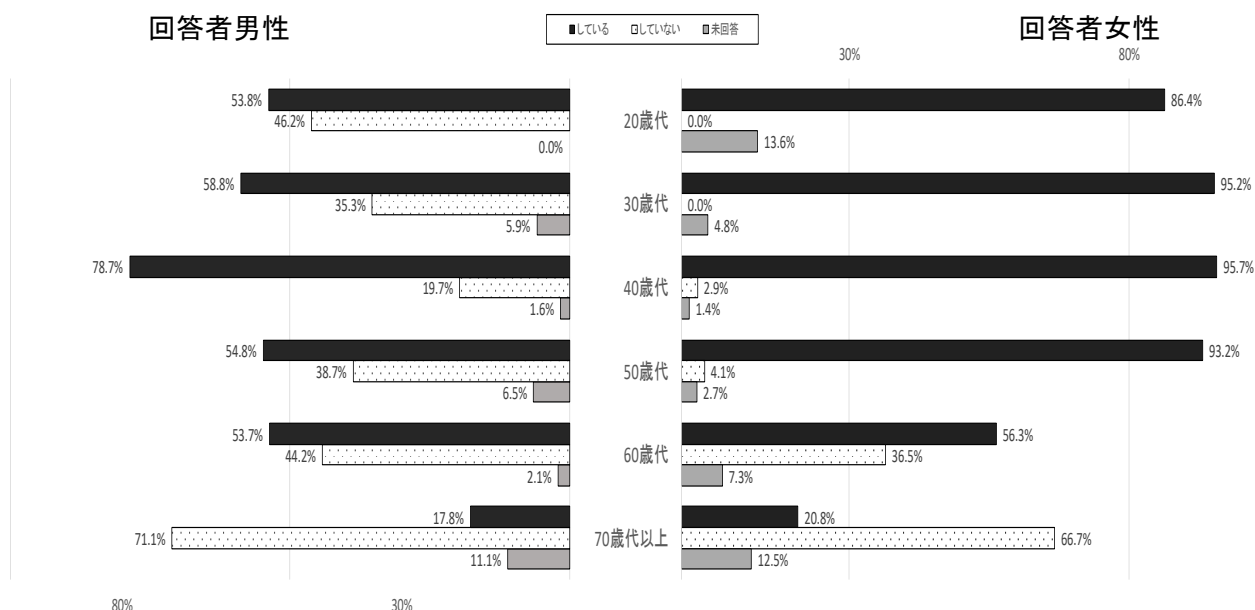
1 している (→問10-1へ) 2 していない

全体では、収入を得る仕事を「している」と回答した方が、61.0%になっています。

回答者が男性の場合は、「している」が49.6%、回答者が女性の場合は、「している」が71.5%です。



問5で収入を得る仕事を「している」回答者の問10の回答を性別年齢別でみると、男女とも70歳代以上を除いた年齢層で、収入を得る仕事を「している」配偶者が「していない」配偶者の率を上回っています。



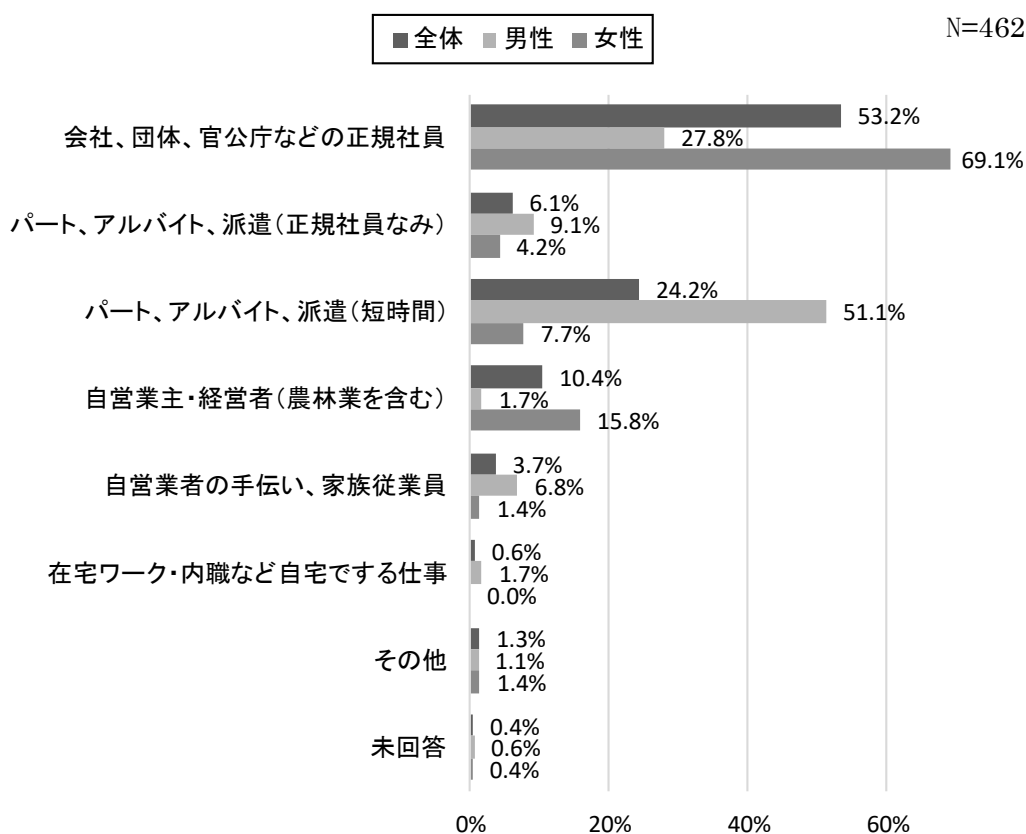
問10で、「している」と答えた方におたずねします。

問10-1. あなたの配偶者またはパートナーの主な働き方は、どれですか？（1つだけに○を）

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1 会社、団体、官公庁などの正規社員 | 2 パート、アルバイト、派遣（正規社員なみ） |
| 3 パート、アルバイト、派遣（短時間） | 4 自営業主・経営者（農林業を含む） |
| 5 自営業の手伝い、家族従業員 | 6 在宅ワーク・内職など自宅でする仕事 |
| | 7 その他 |

全体では、「会社、団体、官公庁などの正規社員」が53.2%で最も多いです。

回答者が男性の場合、配偶者の働き方は、「パート、アルバイト、派遣（短時間）」が最も多く、回答者が女性の場合、配偶者の働き方は、「会社、団体、官公庁などの正規社員」が最も多くなっています。



問 1 1 配偶者またはパートナーと同居している方に、家庭における役割についておたずねします。

(1) あなたは、どのように分担するのがよいと思いますか？（①～⑨のそれぞれについて、1つだけに○を）

(2) 実際、あなたの家庭ではどのように分担していますか？（①～⑨のそれぞれについて、1つだけに○を）

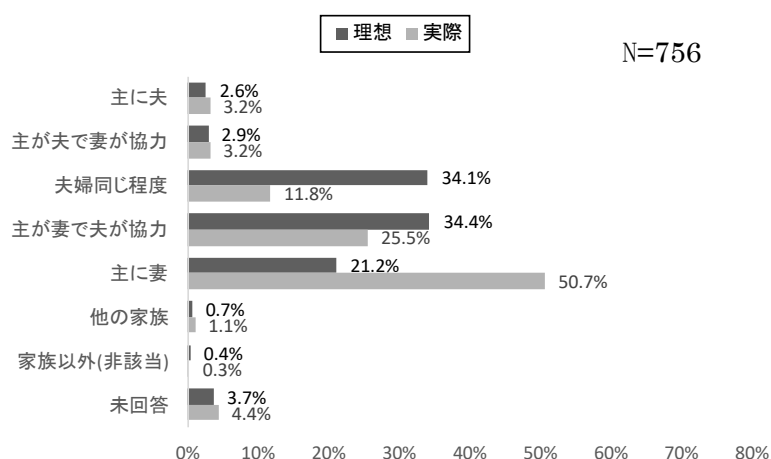
①掃除 ②掃除 ③洗濯 ④食料品などの日常生活品の買物 ⑤食事のしたく
⑥食事の後片付け ⑦ゴミ出し ⑧育児 ⑨同居親族等の介護 ⑩冠婚葬祭などのつきあい

1 主に夫 2 主が夫で妻が協力 3 夫婦同じ程度 4 主が妻で夫が協力 5 主に妻
6 他の家族 7 (1) 家族以外 / (2) 家族以外・あてはまらない

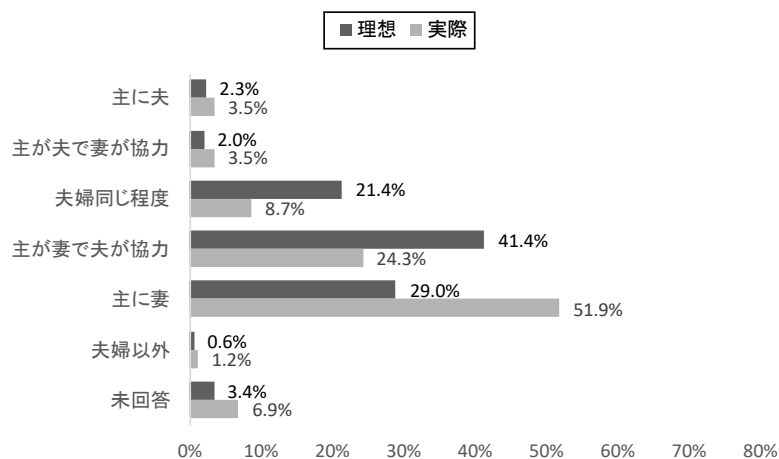
※回答項目のうち、(1)理想では「家族以外」と、(2)実際では「家族以外・あてはまらない」として、選択していただきました。

①掃除

「主が妻で夫が協力」を理想としている方が最も多く、実際は、「主に妻」が最も多い。

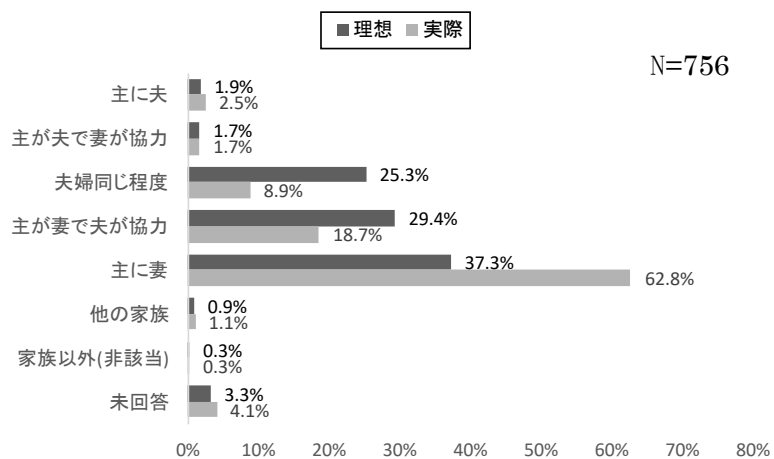


前回調査（平成 27 年）でも、「主が妻で夫が協力」を理想としている方が最も多く、実際は、「主に妻」が最も多い。

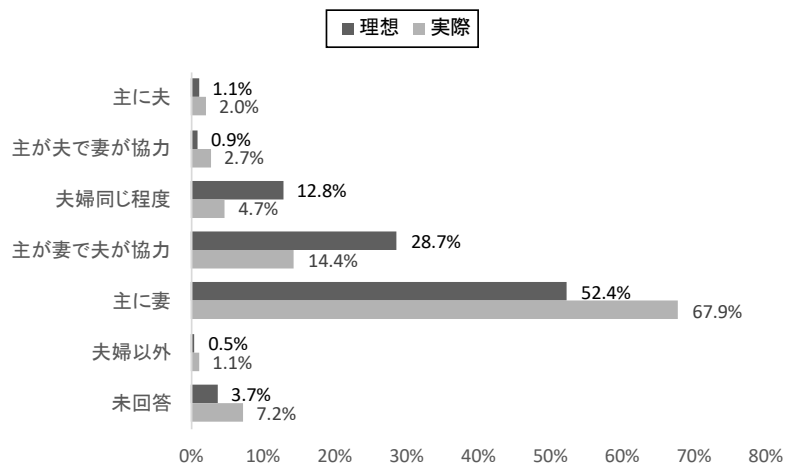


②洗濯

「主に妻」を理想としている方が最も多く、実際も、「主に妻」が最も多い。

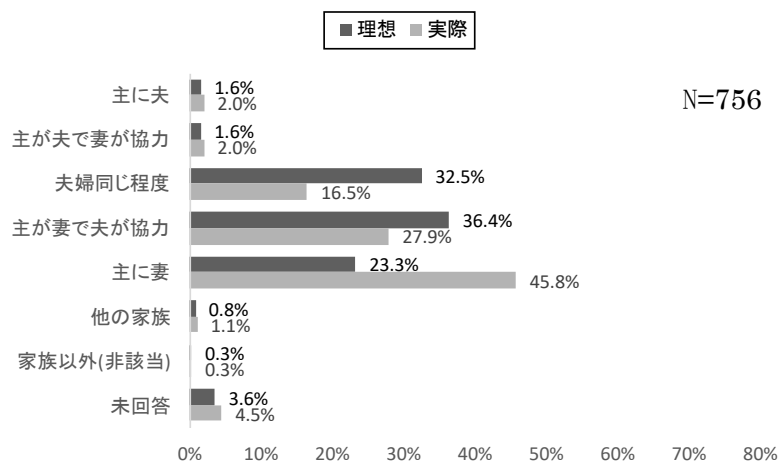


前回調査（平成 27 年）でも、「主に妻」を理想としている方が最も多く、実際も「主に妻」が最も多い。

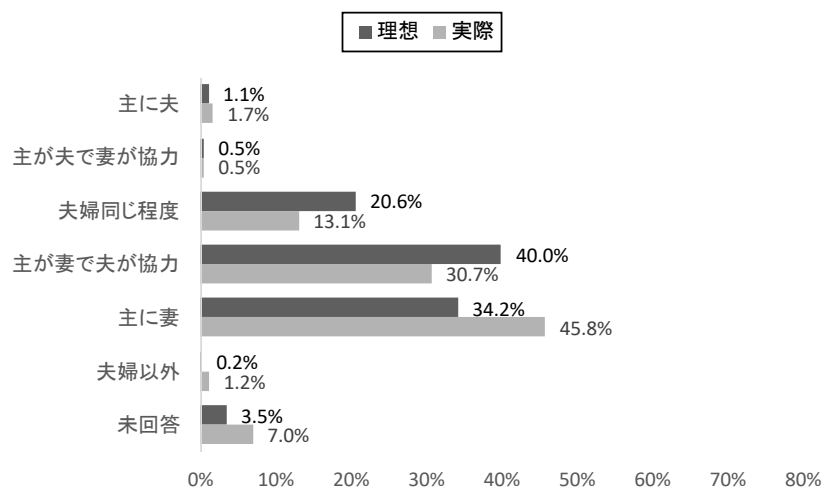


③食料品などの日常生活品の買物

「主が妻で夫が協力」を理想としている方が最も多く、実際は、「主に妻」が最も多い。

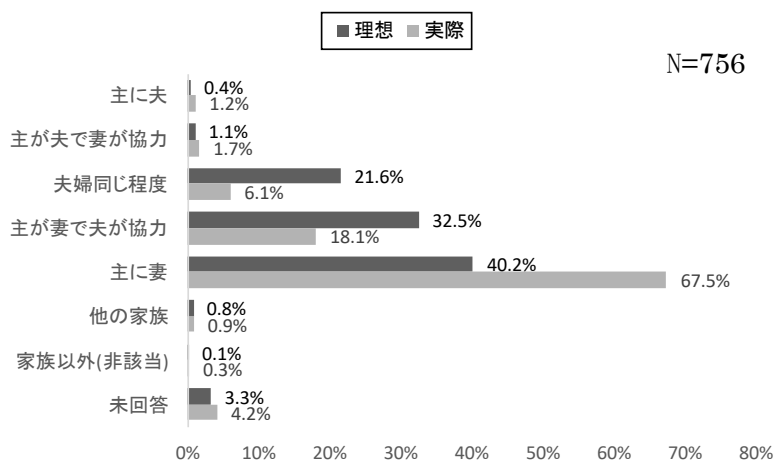


前回調査（平成 27 年）でも、「主が妻で夫が協力」を理想としている方が最も多く、実際は、「主に妻」が最も多い。

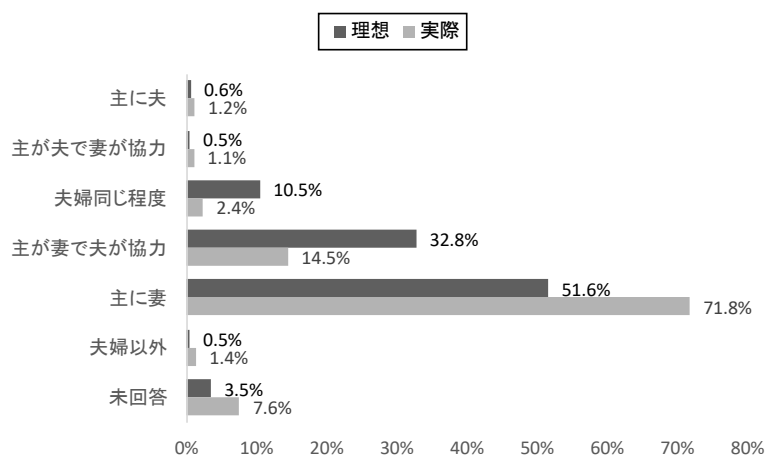


⑤食事の支度

「主に妻」を理想としている方が最も多く、実際も、「主に妻」が最も多い。

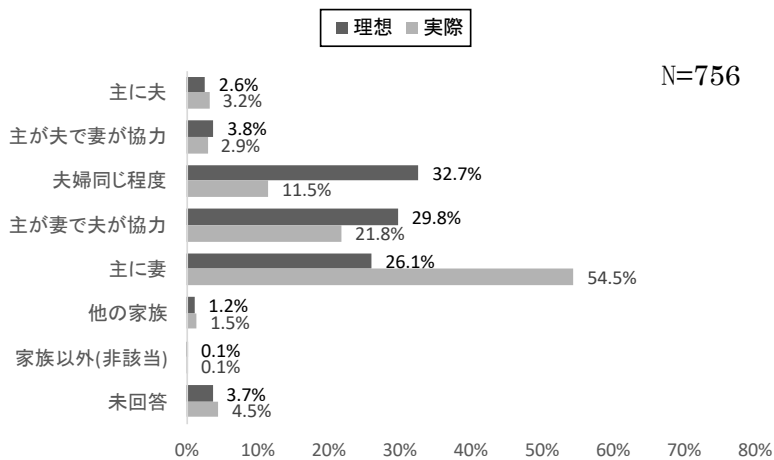


前回調査（平成 27 年）でも、「主に妻」を理想としている方が最も多く、実際は、「主に妻」が最も多い。

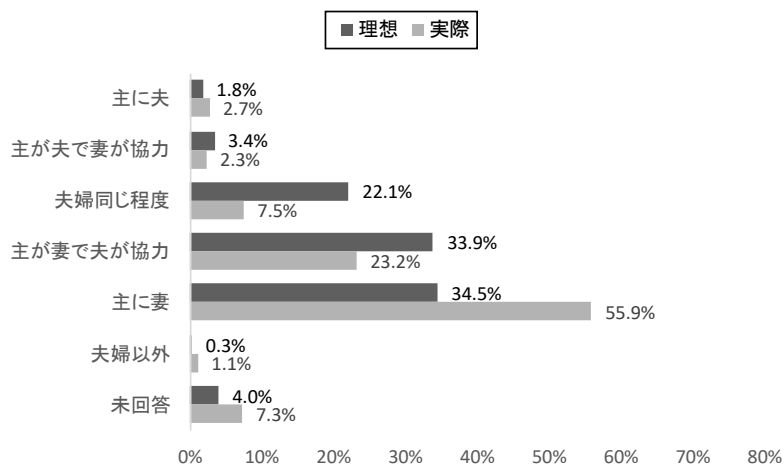


⑤食事の後片付け

「夫婦同じ程度」を理想としている方が最も多く、実際は、「主に妻」が最も多い。

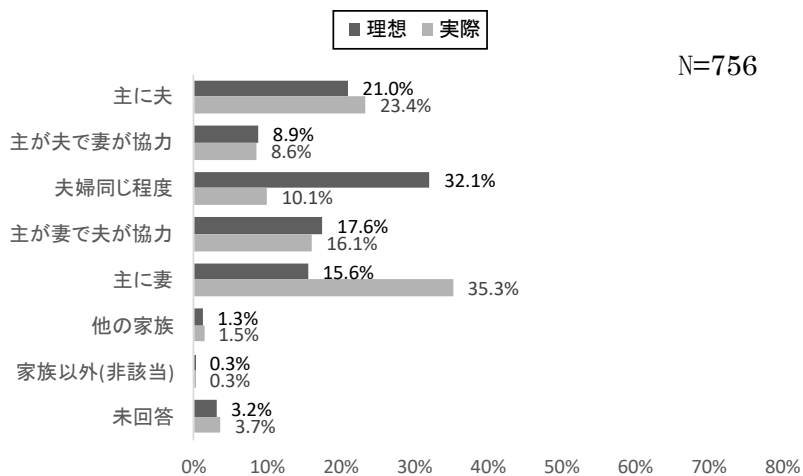


前回調査（平成 27 年）では、「主に妻」を理想としている方が最も多く、実際も、「主に妻」が最も多い。

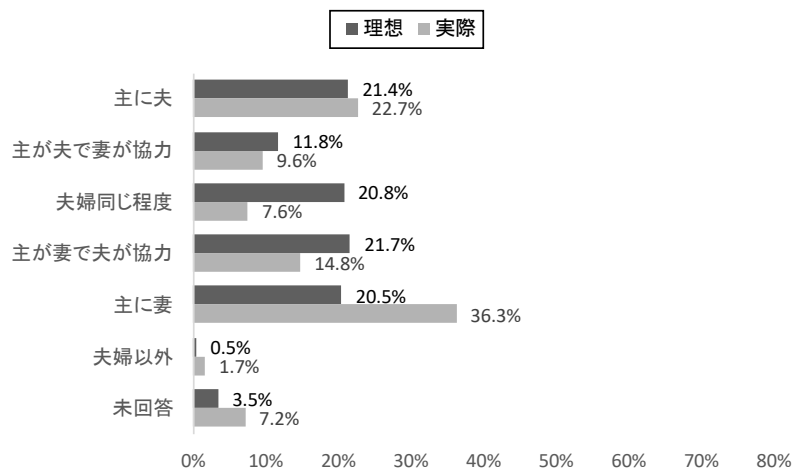


⑥ゴミ出し

「夫婦同じ程度」を理想としている方が最も多く、実際は、「主に妻」が最も多い。

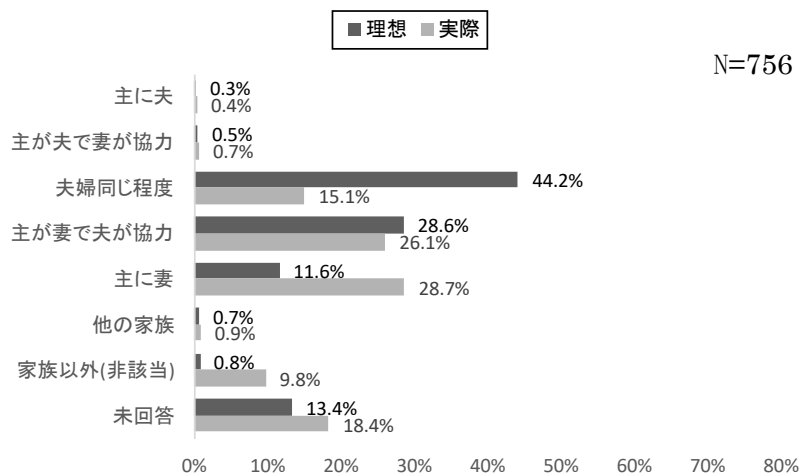


前回調査（平成 27 年）では、「主が妻で夫が協力」を理想としている方が最も多く、実際は、「主に妻」が最も多い。

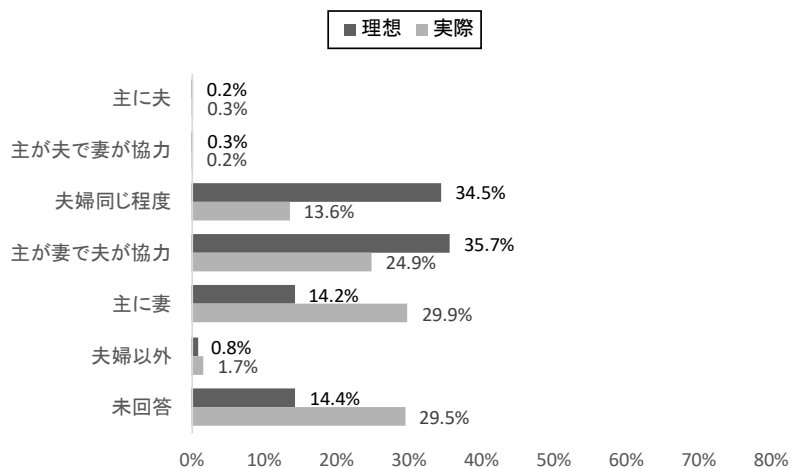


⑦育児

「夫婦同じ程度」を理想としている方が最も多く、実際は、「主に妻」が最も多い。

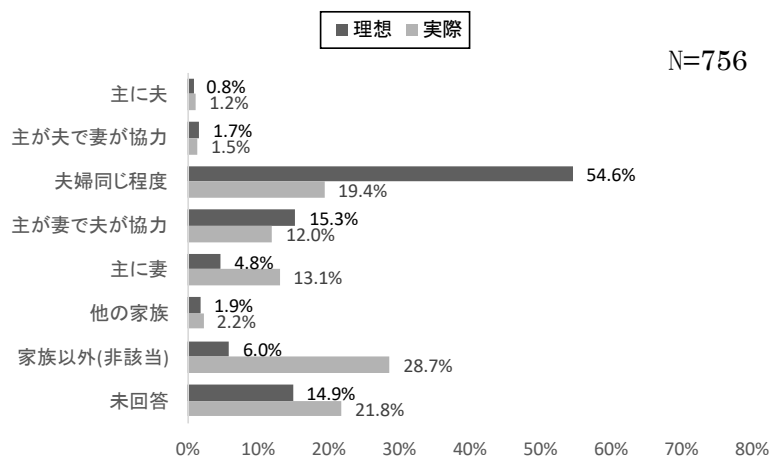


前回調査（平成 27 年）でも、「主が妻で夫が協力」を理想としている方が最も多く、実際は、「主に妻」が最も多い。

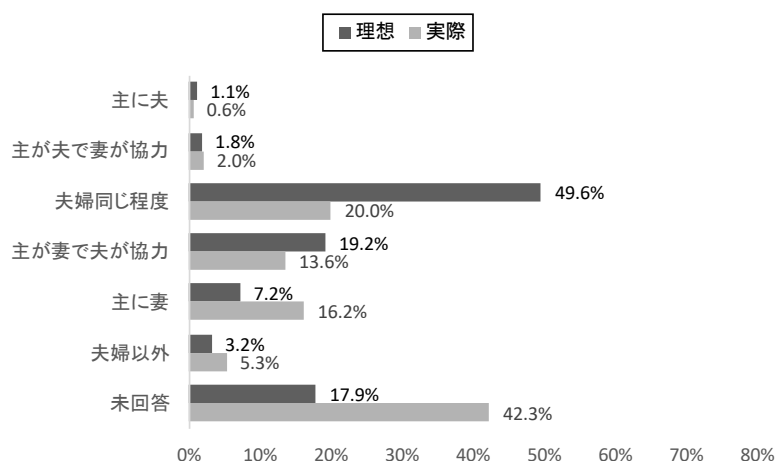


⑧同居親族等の介護

「夫婦同じ程度」を理想としている方が最も多く、実際は、「家族以外・あてはまらない」が最も多い。

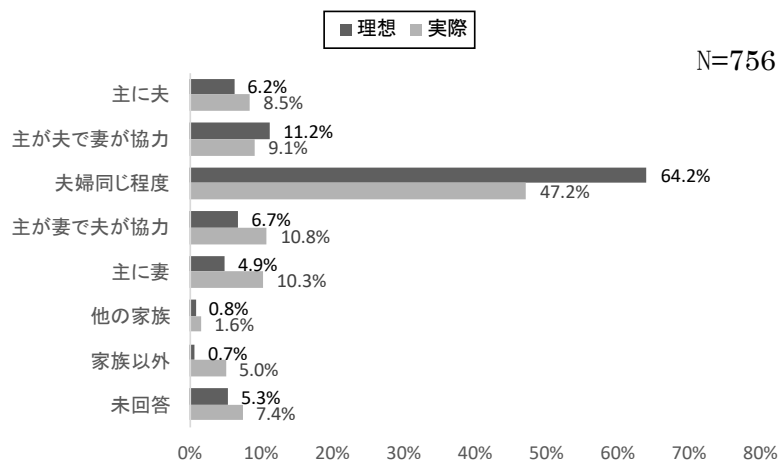


前回調査（平成 27 年）では、「夫婦同じ程度」を理想としている方が最も多く、実際は、未回答を除いて「夫婦同じ程度」が最も多い。

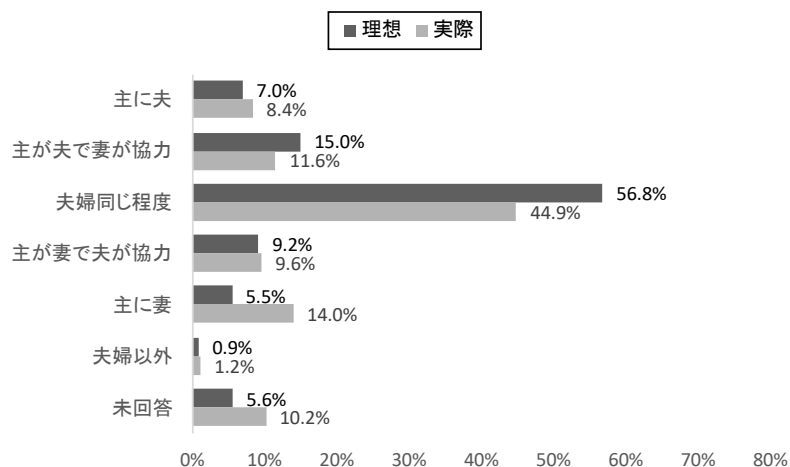


⑨冠婚葬祭などのつきあい

「夫婦同じ程度」を理想としている方が最も多く、実際も、「夫婦同じ程度」が最も多い。



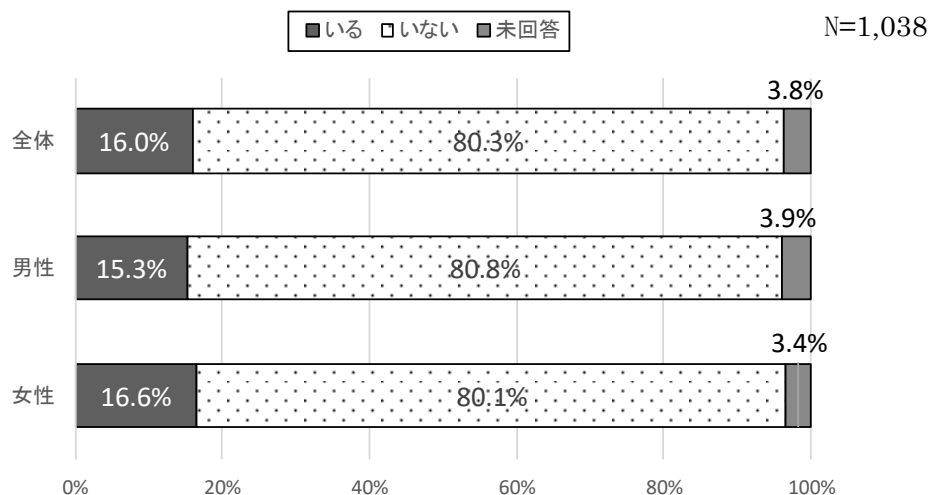
前回調査（平成 27 年）でも、「夫婦同じ程度」を理想としている方が最も多く、実際も、「夫婦同じ程度」が最も多い。



問 1 2. あなたには、小学生以下の子どもがいますか？（1 つだけに○を）

1 いる（→問 12-1 へ） 2 いない

全体では、「いる」方が 16.0%です。



問 1 2 で、小学生以下の子どもが「いる」と答えた方におたずねします。

問 1 2-1. 子育てについて、あなたのご意見をおたずねします。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。（男の子の場合と女の子の場合のどちらもご記入ください）（①～⑩のそれぞれについて、1 つだけに○を）

- ①男らしく、女らしく育てる ②心配りのある子に育てる ③たくましく育てる
④家事能力（料理・掃除等）のある子に育てる ⑤リーダーシップのある子に育てる
⑥自立心のある子に育てる ⑦優しい子に育てる ⑧経済力のある子に育てる
⑨4 年制大学以上に進学させる ⑩技術や資格を身につけさせる

1 そう思う 2 そう思わない 3 どちらでもない 4 わからない

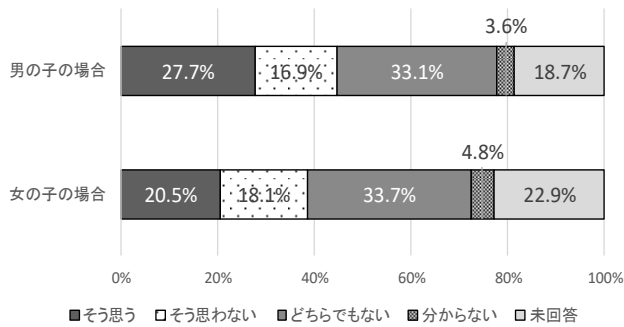
「そう思う」率が高い項目では、「優しい子に育てる」（男の子の場合 78.3%、女の子の場合 74.1%）が最も高く、「心配りのある子に育てる」（男の子場合 74.7%、女の子の場合 69.9%）、「自立心のある子に育てる」（男の子場合 71.7%、女の子場合 66.3%）の順になっている。

「そう思う」率が低い項目では、「4 年制大学以上に進学させる」（女の子の場合 16.9%、男の子の場合 22.3%）が最も低く、ついで女の子の場合「男らしく、女らしく育てる」と「リーダーシップのある子に育てる」がそれぞれ 20.5%、男の場合は、「男らしく、女らしく育てる」27.7%、「リーダーシップのある子に育てる」33.7%となっており、子ども性別による項目順の違いはほとんど見られない。

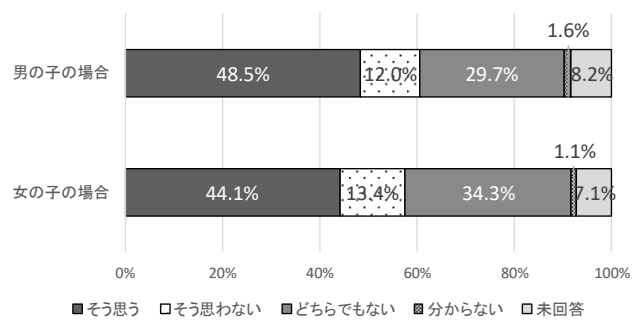
※前回（平成 27 年）調査では、保育所から中学 2 年生までの保護者を対象に実施したため、対象者が異なる

N=166

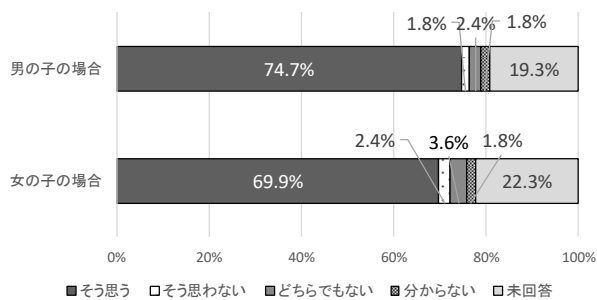
男らしく、女らしく育てる



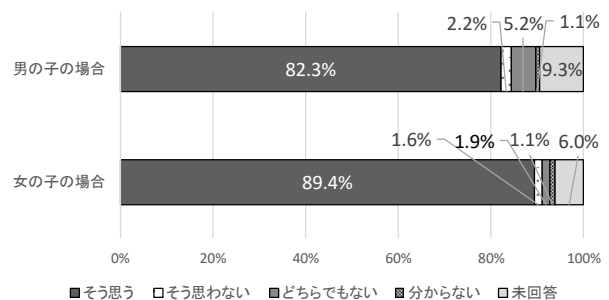
【前回】男らしく、女らしく育てる



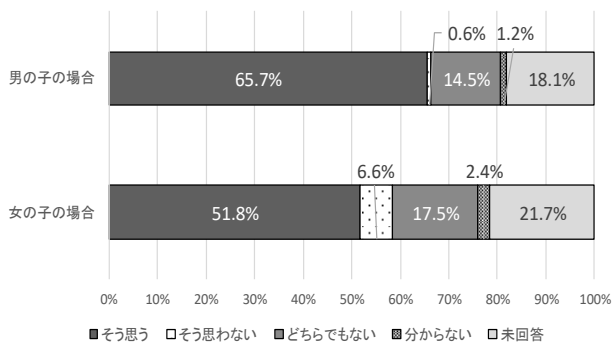
気配りのある子に育てる



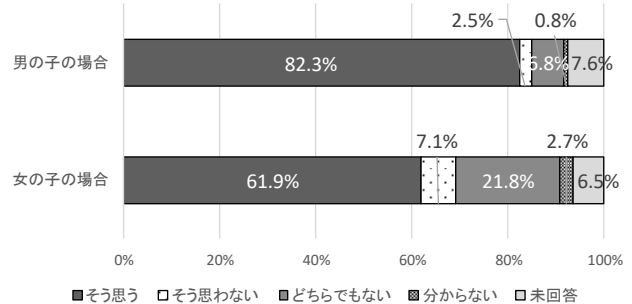
【前回】気配りのある子に育てる



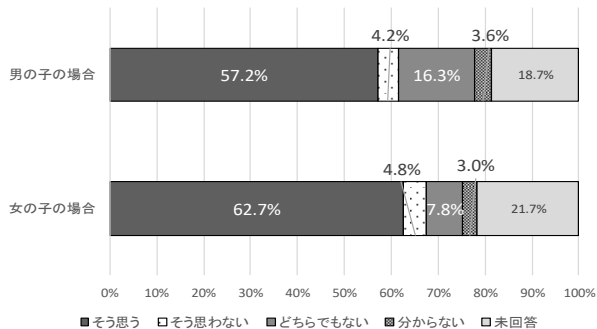
たくましく育てる



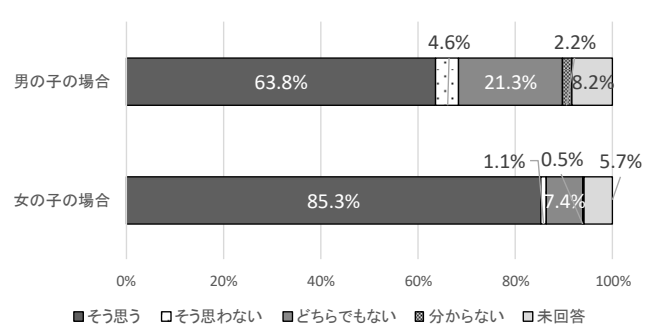
【前回】たくましく育てる



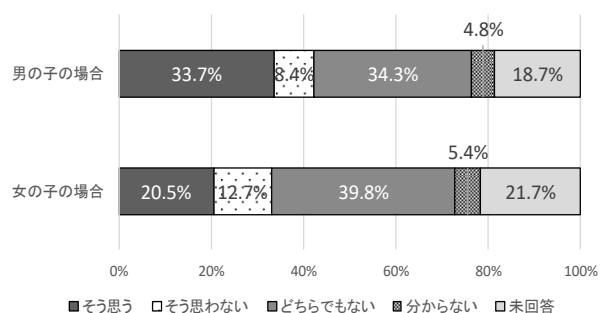
家事能力のある子に育てる



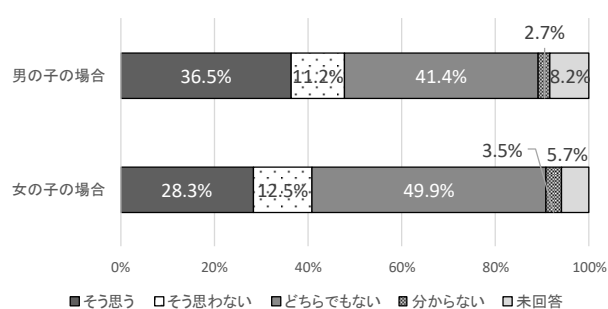
【前回】家事能力のある子に育てる



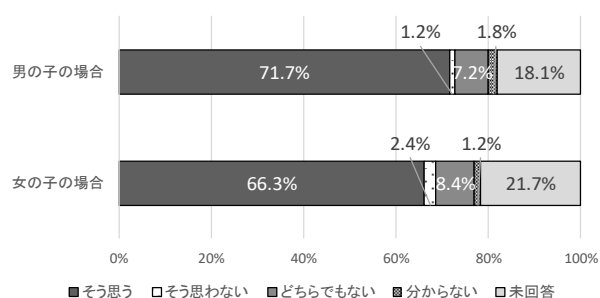
リーダーシップのある子に育てる



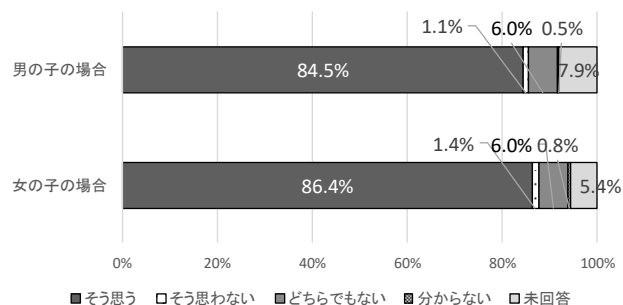
【前回】リーダーシップのある子に育てる



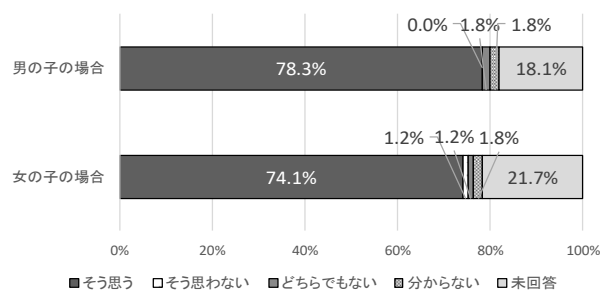
自立心のある子に育てる



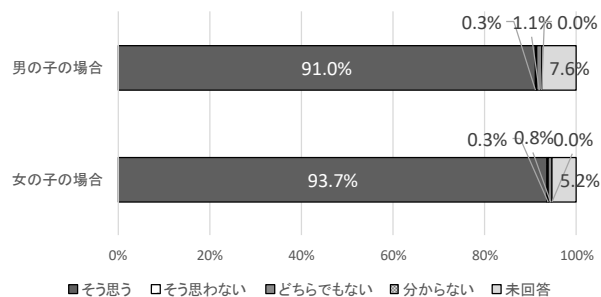
【前回】自立心のある子に育てる



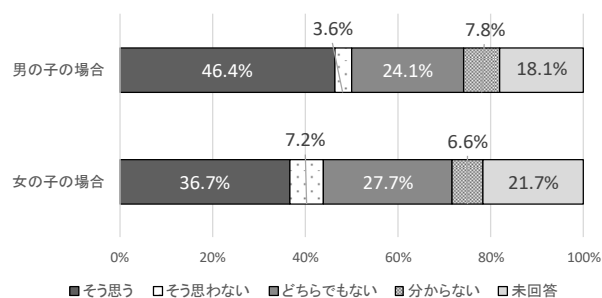
優しい子に育てる



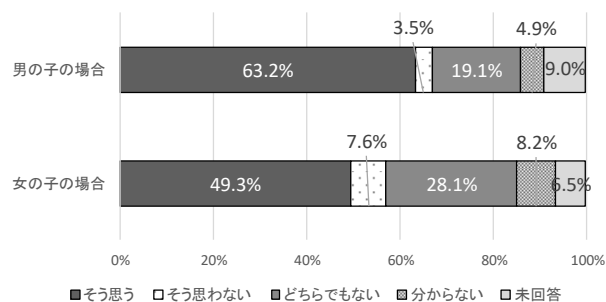
【前回】優しい子に育てる

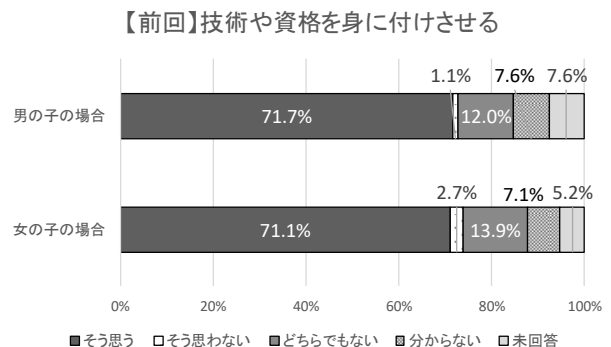
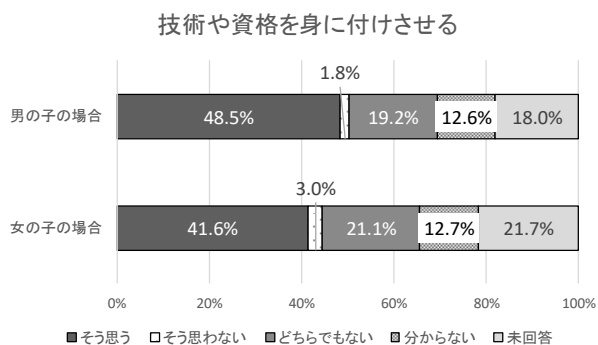
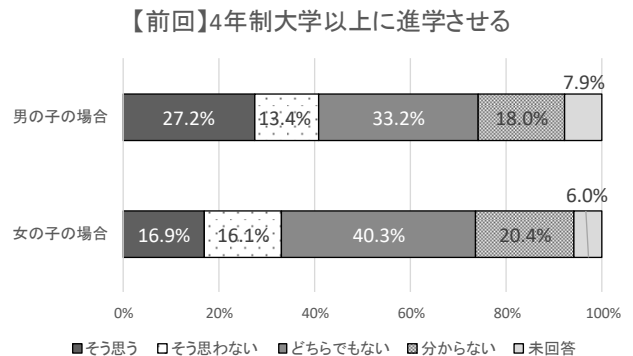
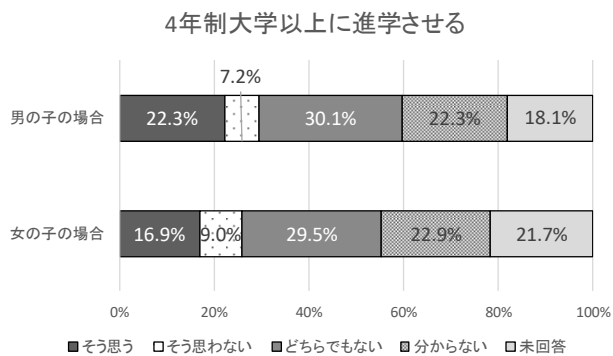


経済力のある子に育てる



【前回】経済力のある子に育てる





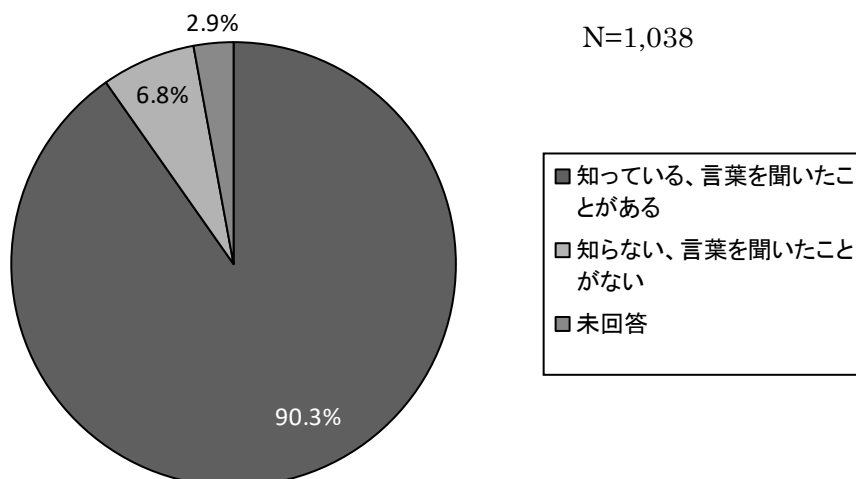
4 DV・ハラスメントについて

問13. あなたは、配偶者や恋人からの身体的・心理的な暴力（ドメスティック・バイオレンス（DV））について知っていますか（1つだけに○を）

1 知っている、言葉を聞いたことがある

2 知らない、言葉を聞いたことがない

「知っている、言葉を聞いたことがある」が90.3%となっています。



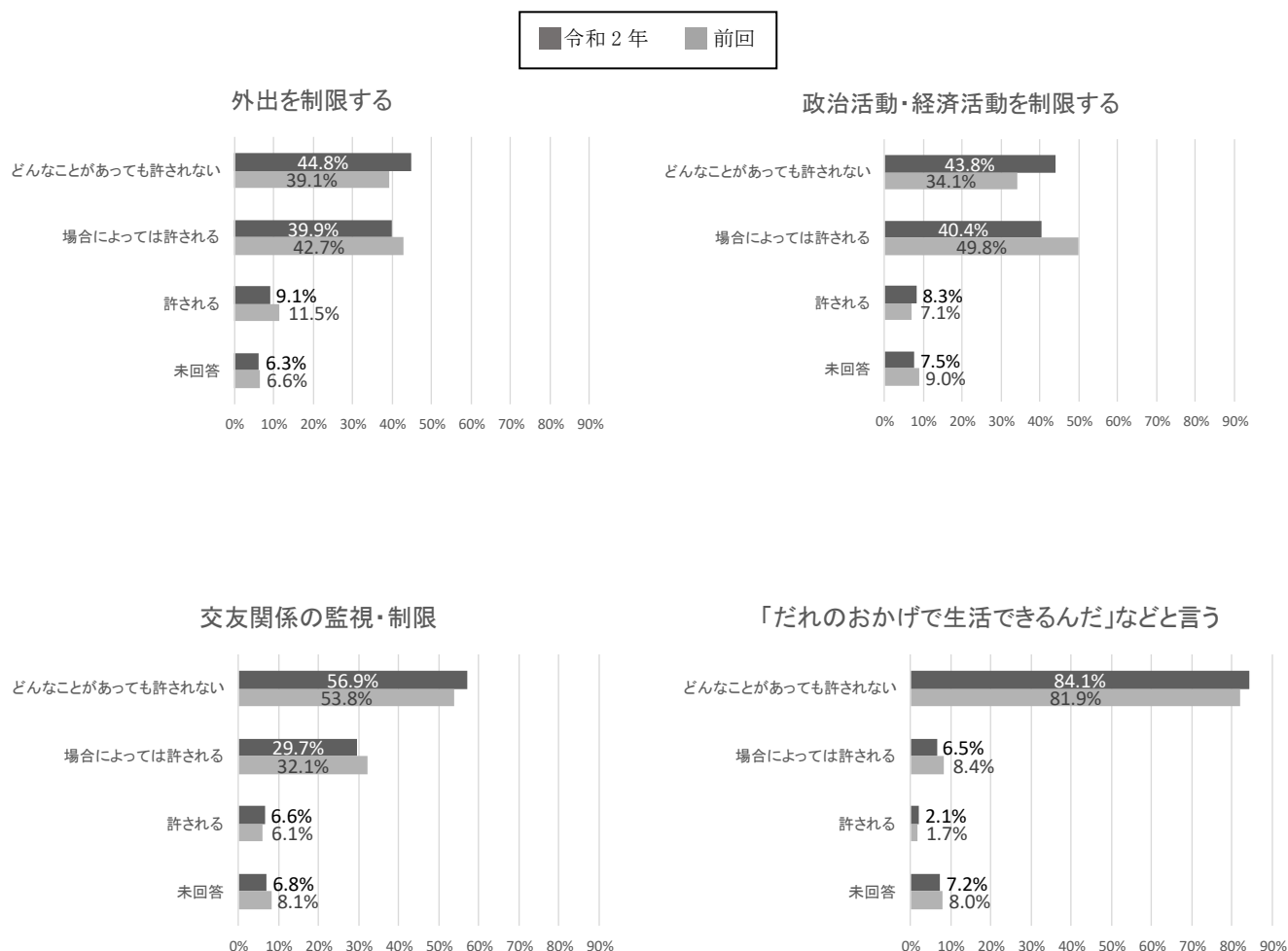
問14. あなたは、夫婦（恋人）関係における次のような行為をどのように思いますか？（①～⑬のそれぞれについて、1つだけに○を）

- ①外出を制限する ②政治活動・経済活動を制限する ③交友関係を監視したり、制限したりする ④「だれのおかげで、生活できるんだ」「甲斐性なし」などというような内容のことを言う ⑤携帯電話、スマートフォンなどを細かく監視する ⑥殴るふりをして、おどす ⑦平手でうつ ⑧殴ったり蹴ったりする ⑨大声で怒鳴ったり、物を壊したりする ⑩相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する ⑪避妊に協力しない ⑫生活費を渡さない ⑬何を言っても長期間無視し続ける

1 どんなことがあっても許されない 2 場合によっては許される 3 許される

「どんなことがあっても許されない」と感じる行為として、最も高いのは、「殴ったり蹴ったりする」で、91.1%で、ついで「相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する」が90.0%、「平手で打つ」が88.7%となっています。

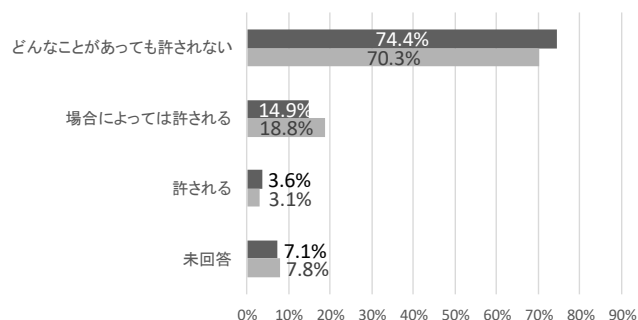
「どんなことがあっても許されない」行為として低いのは、「政治活動・経済活動を制限する」が43.8%、ついで「外出を制限する」が44.8%となっています。



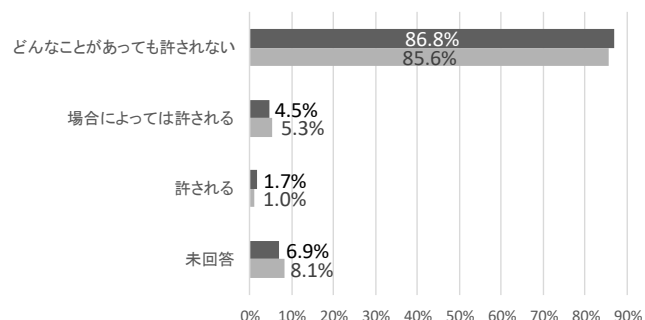
※前回（平成27年）の設問は、『だれのおかげで生活できるんだ』『食わせてやってる』というような内容のことをいうです。

スマートフォン等を監視する

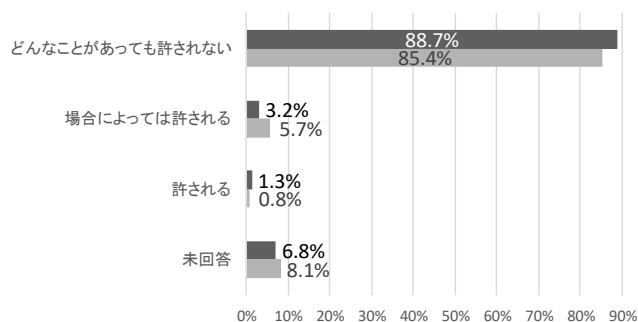
■ 令和 2 年 ■ 前回



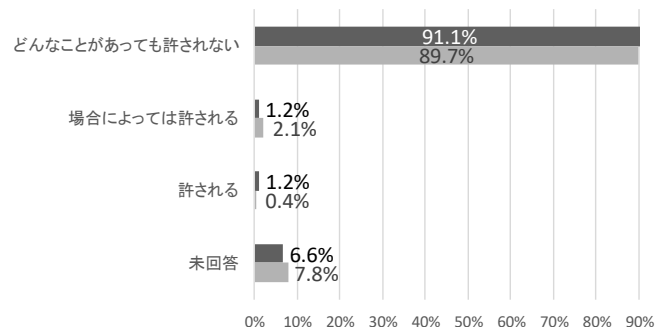
殴るふりをして、おどす



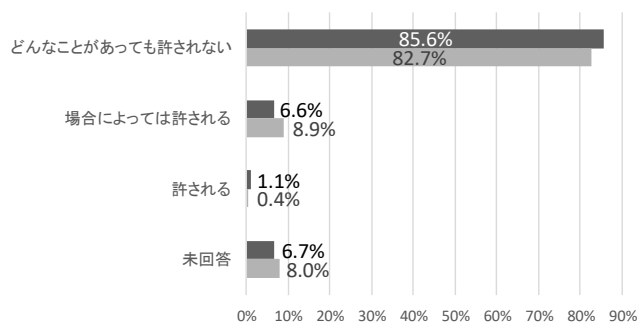
平手でうつ



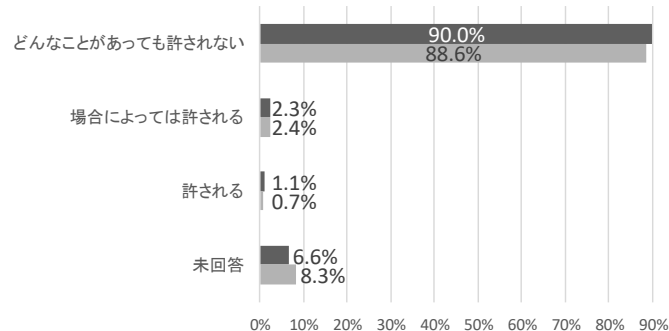
殴ったり蹴ったりする



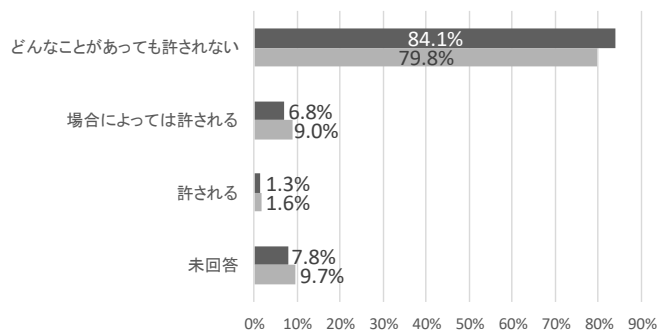
大声で怒鳴ったり、物を壊したりする



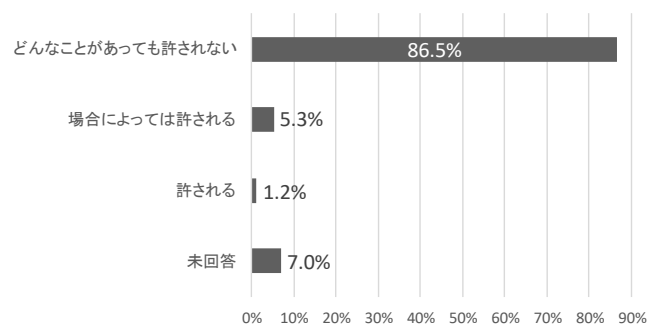
性的な行為を強要する



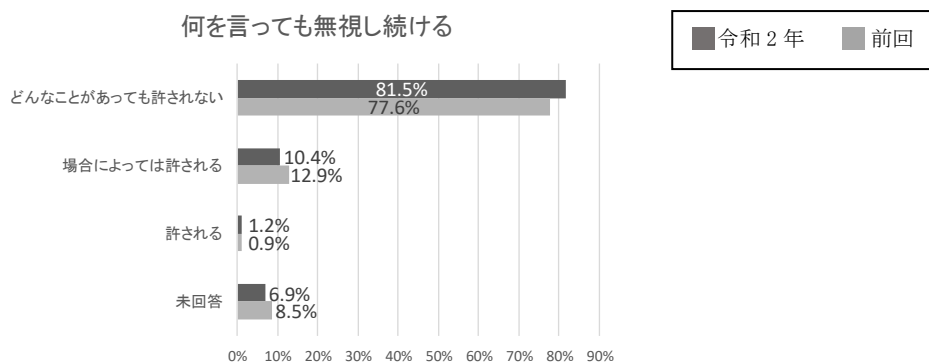
避妊に協力しない



生活費を渡さない



※前回（平成 27 年）の設問なし

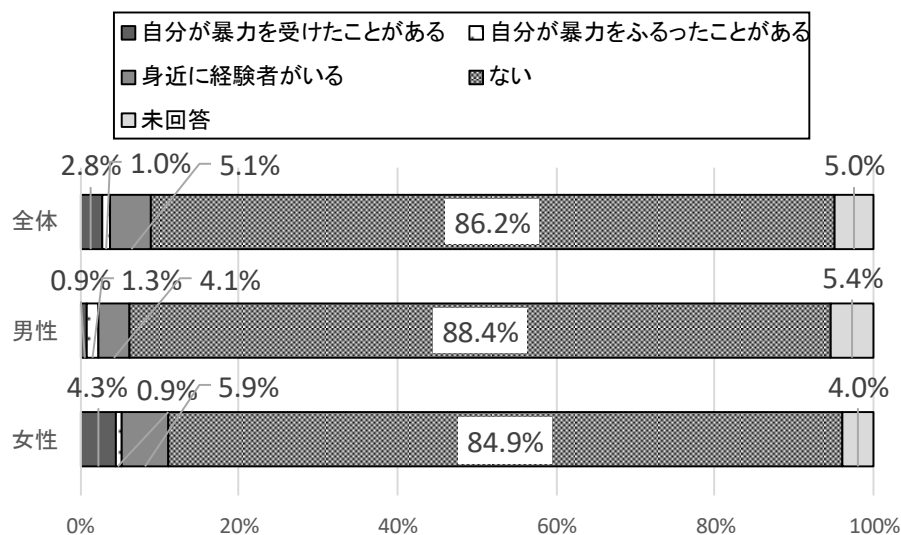


問15. あなたは、最近（5年以内）DVやデートDVについて、経験したり、暴力を見聞きしたことがありますか？（あてはまるものすべてに○を）

1 自分が暴力を受けたことがある（→問15-1へ） 2 自分が暴力をふるったことがある（→問15-1へ）
 3 身近に経験者がいる（→問15-3へ） 4 ない

「自分が暴力を受けたことがある」と回答したのは、全体で2.8%、男性では0.9%、女性では4.3%となっています。「自分が暴力をふるったことがある」と回答したのは、全体で1.0%、男性では1.3%、女性では0.9%です。

(MA%)

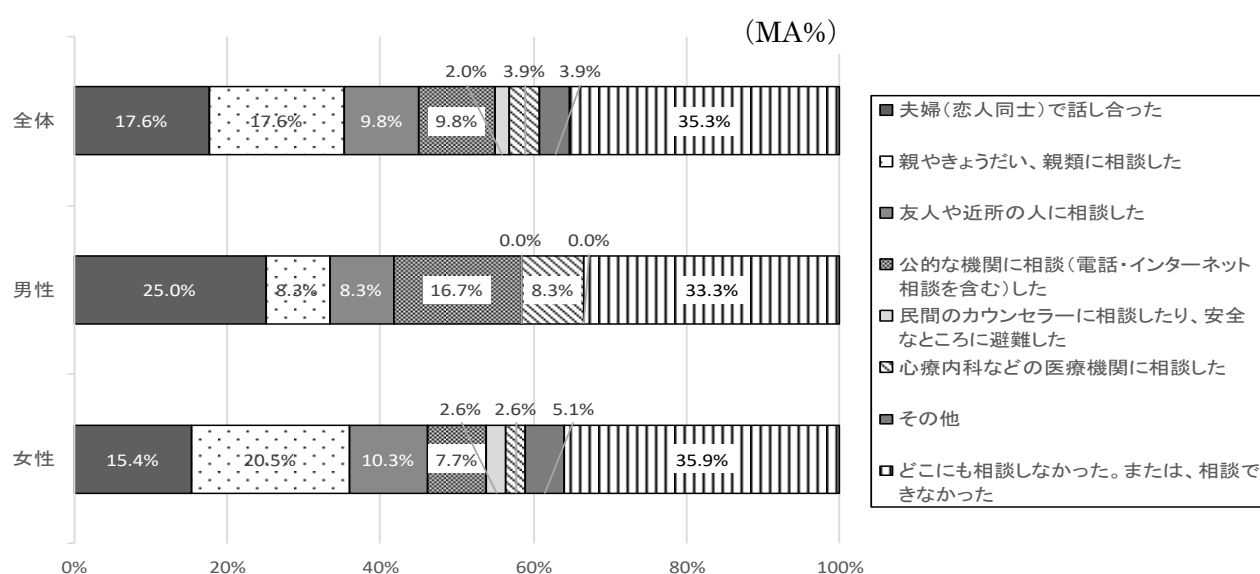


問15で「自分が暴力を受けたことがある」「自分が暴力をふるったことがある」と答えた方におたずねします。

問15-1. その時あなたはどうしましたか？（あてはまるものすべてに○を）

1 夫婦（恋人同士）で話し合った 2 親やきょうだい、親類に相談した 3 友人や近所の人に相談した
4 公的な機関に相談（電話・インターネット相談を含む）した 5 民間のカウンセラーに相談したり、安全なところに避難した 6 心療内科などの医療機関に相談した
7 その他 8 どこにも相談しなかった。または、相談できなかった（→問15-2へ）

「どこにも相談しなかった。または、相談できなかった」と回答した方が、全体でも、性別でも最も多いです。ついで、男性では、「夫婦（恋人同士）で話し合った」が多く、女性では、「親やきょうだい、親類に相談した」が多くなっています。

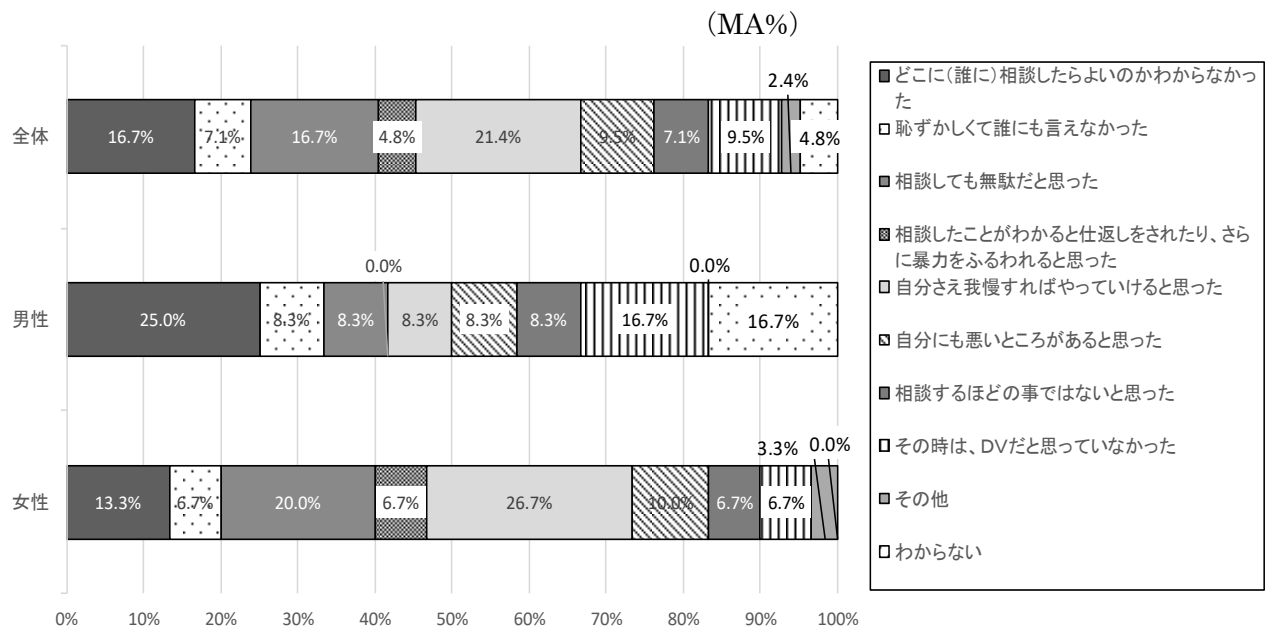


問15-1で「どこにも相談しなかった。または、相談できなかった」と答えた方におたずねします。

問15-2. どこにも相談しなかった。または、相談できなかったのはなぜですか？（あてはまるものすべてに○を）

- 1 どこに（誰に）相談したらよいのかわからなかった 2 恥ずかしくて誰にも言えなかった
 3 相談しても無駄だと思った 4 相談したことがわかって仕返しをされたり、さらに暴力を
 ふるわれると思った 5 自分さえ我慢すればやっていけると思った 6 自分にも悪いと
 ころがあると思った 7 相談するほどの事ではないと思った 8 その時は、DV だと思っ
 ていなかった 9 その他 10 わからない

男性では、「どこに（誰に）相談したらよいのかわからなかった」が最も多く、女性では、「自分さえ我慢すればやっていけると思った」が最も多くなっています。



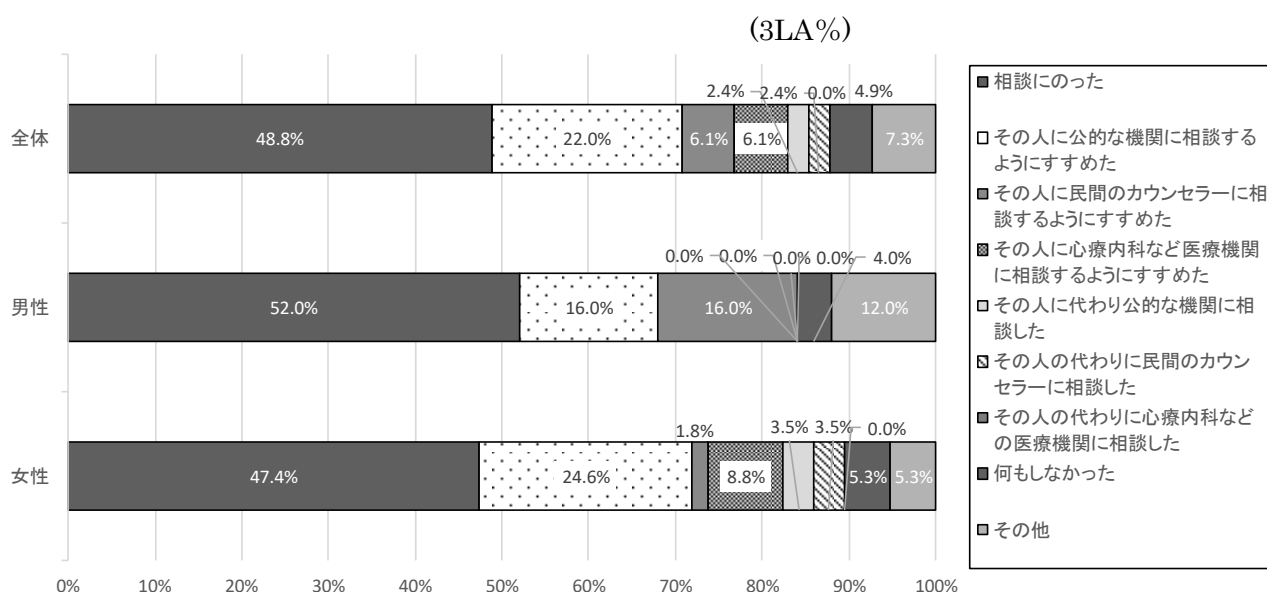
問15で「身近に経験者がいる」と答えた方におたずねします。

問15-3. その時あなたはどうしましたか？（あてはまるものすべてに○を）

- 1 相談にのった 2 その人に公的な機関に相談するようにすすめた 3 その人に民間の
 カウンセラーに相談するようにすすめた 4 その人に心療内科などの医療機関に相談する
 ようにすすめた 5 その人の代わりに公的な機関に相談（電話・インターネット相談を含む）
 した 6 その人の代わりに民間のカウンセラーに相談した 7 その人の代わりに心療内
 科などの医療機関に相談した 8 何もしなかった 9 その他

「相談にのった」と回答した方が、全体でも、性別でも最も多いです。

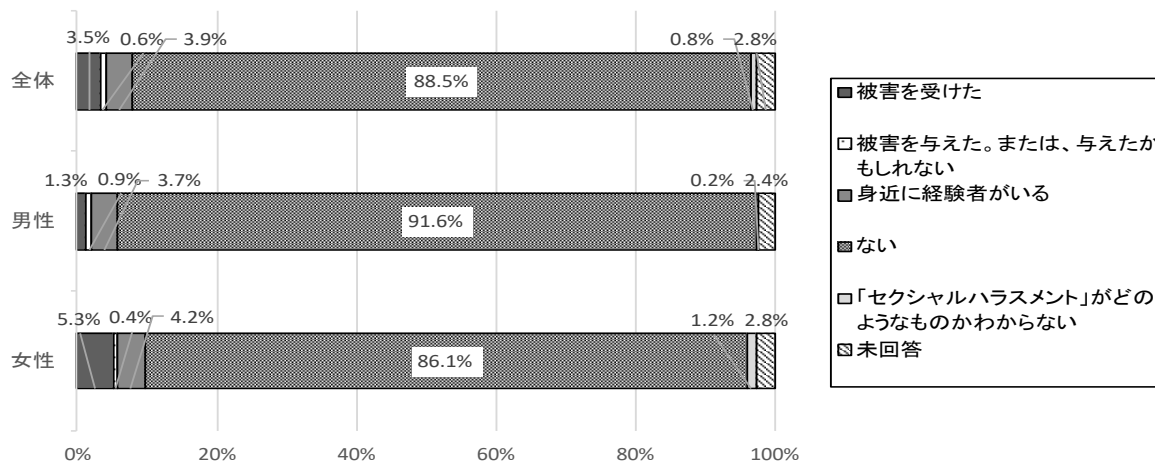
ついで、男性では、「その人に公的な機関に相談するようにすすめた」と「その人に民間のカウンセラーに相談するようにすすめた」が 16.0%となり、女性では、「その人に公的な機関に相談するようにすすめた」24.6%となっています。



問16. あなたは、最近（5年以内）セクシュアルハラスメント（セクハラ）を経験したり、行為を見聞きしたことがありますか？（1つだけに○を）

- 1 被害を受けた 2 被害を与えた。または、与えたかもしれない 3 身近に経験者がいる
4 ない 5 「セクシュアルハラスメント」がどのようなものかわからない

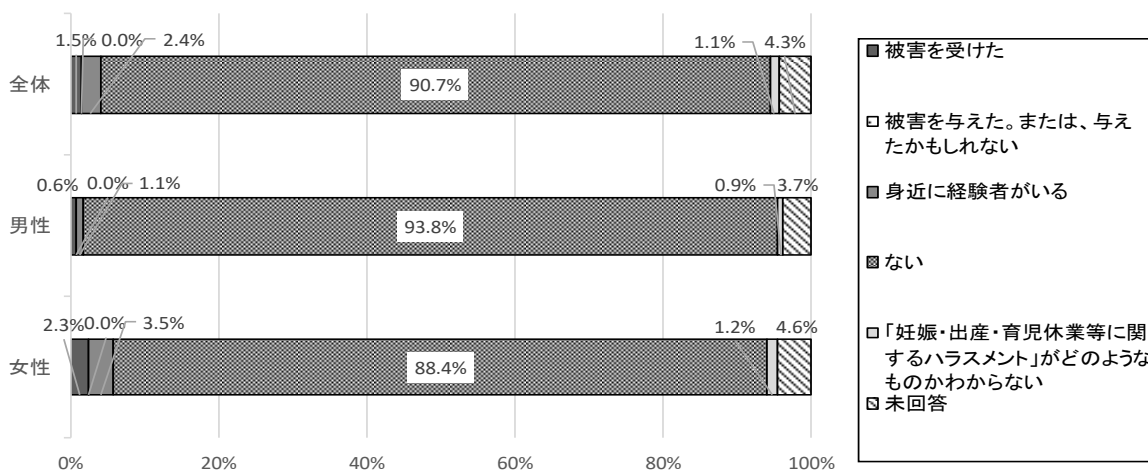
「被害を受けた」と回答したのは、全体で3.5%、男性では1.3%、女性では5.3%となっています。
「被害を与えた。または、与えたかもしれない」と回答したのは、全体で0.6%、男性では0.9%、女性では0.4%です。



問17. あなたは、最近（5年以内）妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメントを経験したり、行為を見聞きしたことがありますか？（1つだけに○を）

- 1 被害を受けた 2 被害を与えた。または、与えたかもしれない 3 身近に経験者がいる
4 ない 5 「妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメント」がどのようなものかわからない

「被害を受けた」と回答したのは、全体で1.5%、男性では0.6%、女性では2.3%となっています。
「被害を与えた。または、与えたかもしれない」と回答した方は、いませんでした。

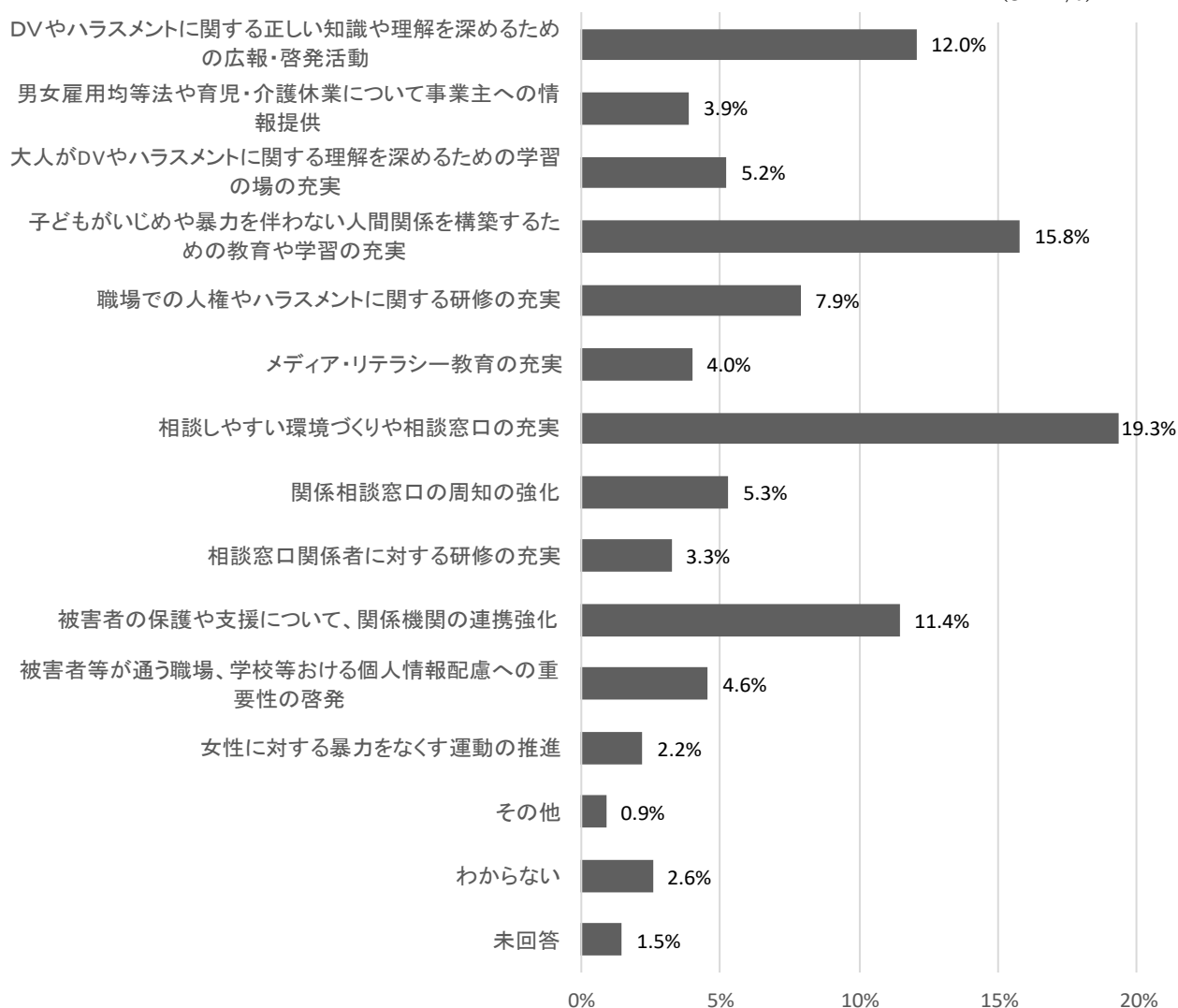


問18. DV や、ハラスメントへの対策や支援として、特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(特に必要だと思うもの3つに○を)

- 1 DV やハラスメントに関する正しい知識や理解を深めるための広報・啓発活動 2 男女雇用均等法や育児・介護休業法について事業主への情報提供 3 大人がDV やハラスメントに関する理解を深めるための学習の場の充実 4 子どもがいじめや暴力を伴わない人間関係を構築するための教育や学習の充実 5 職場での人権やハラスメントに関する研修の充実 6 メディア・リテラシー教育の充実 7 相談しやすい環境づくりや相談窓口の充実 8 関係相談窓口の周知の強化 9 相談窓口関係者に対する研修の充実 10 被害者の保護や支援について、関係機関の連携強化 11 被害者等が通う職場、学校等における個人情報配慮への重要性の啓発 12 女性に対する暴力をなくす運動の推進 13 その他 14 わからない

「相談しやすい環境づくりや相談窓口の充実」が 19.3%と最も多く、ついで「子どもがいじめや暴力を伴わない人間関係を構築するための教育や学習の充実」が 15.8%、「DV やハラスメントに関する正しい知識や理解を深めるための広報・啓発活動」が 12.0%となっています。

(3LA%)



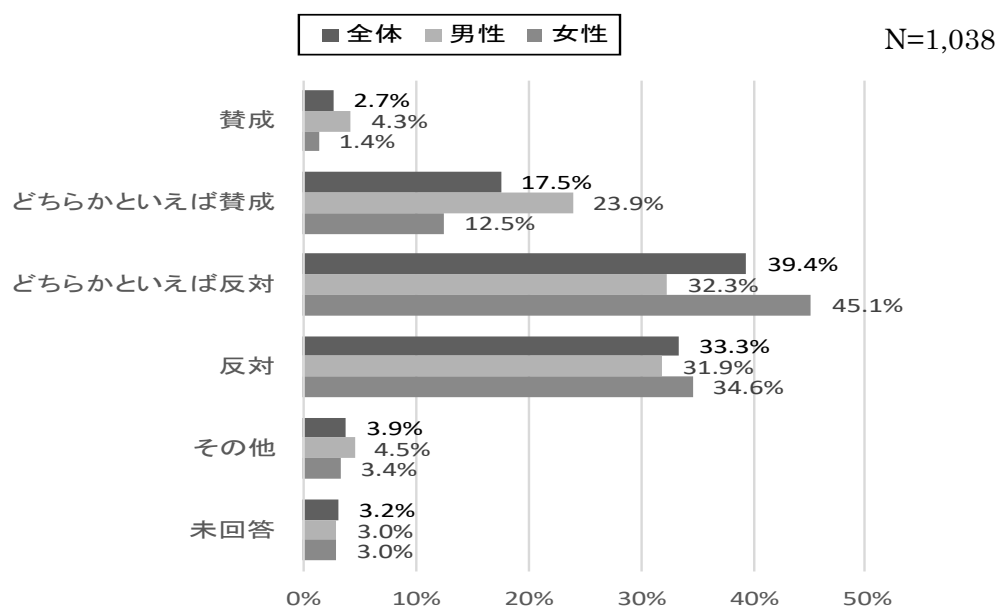
5 男女平等について

問19.「男は仕事、女は家庭」、「女の子とはこういうもので、男の子とはこういうもの」といった男女で役割を固定した考え方について、どう思いますか？（1つだけに○を）

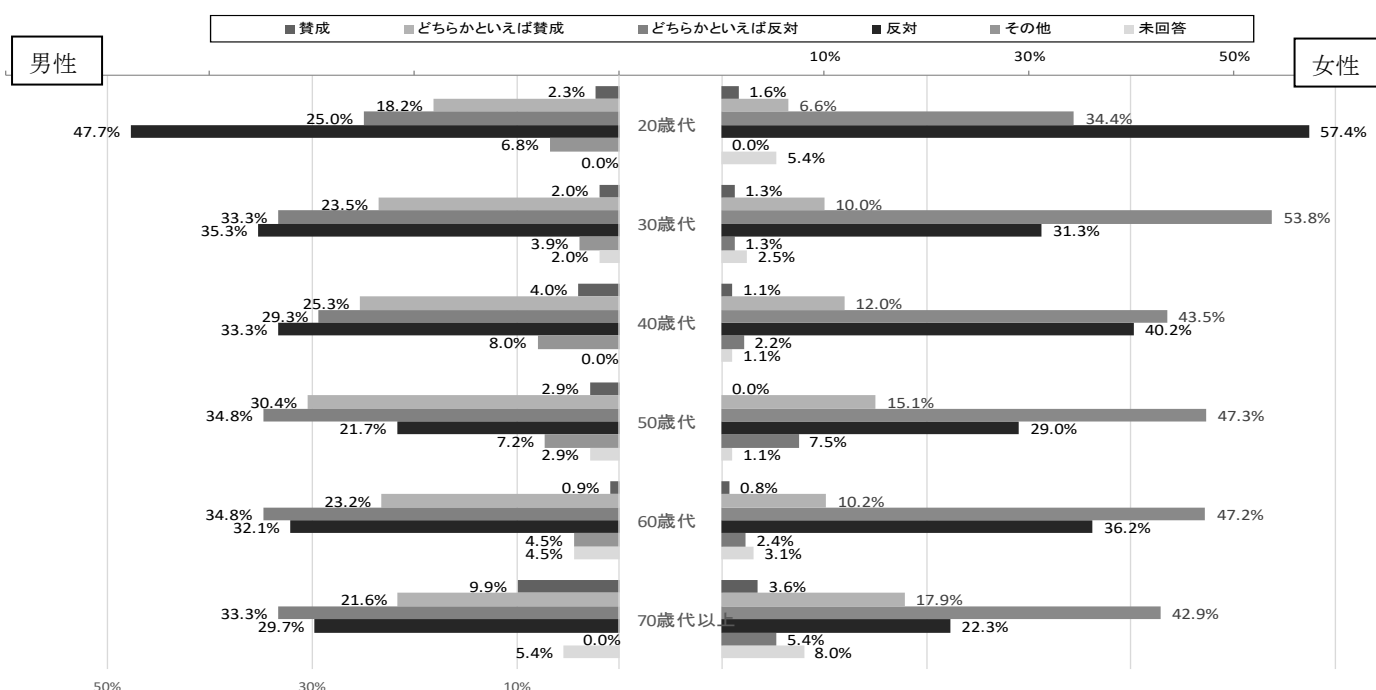
1 賛成 2 どちらかといえば賛成 3 どちらかといえば反対 4 反対 5 その他

「どちらかといえば反対」と回答した方が、全体でも、性別でも最も多いです。

男性と女性の差が大きいのは、「どちらかといえば反対」で12.8ポイント、ついで「どちらかといえば賛成」で11.4ポイントです。



性別年齢別では、つぎのとおりです。



問 20. 次の①～⑨の項目において男女平等だと思いますか？（①～⑨のそれぞれについて、1つだけに○を）

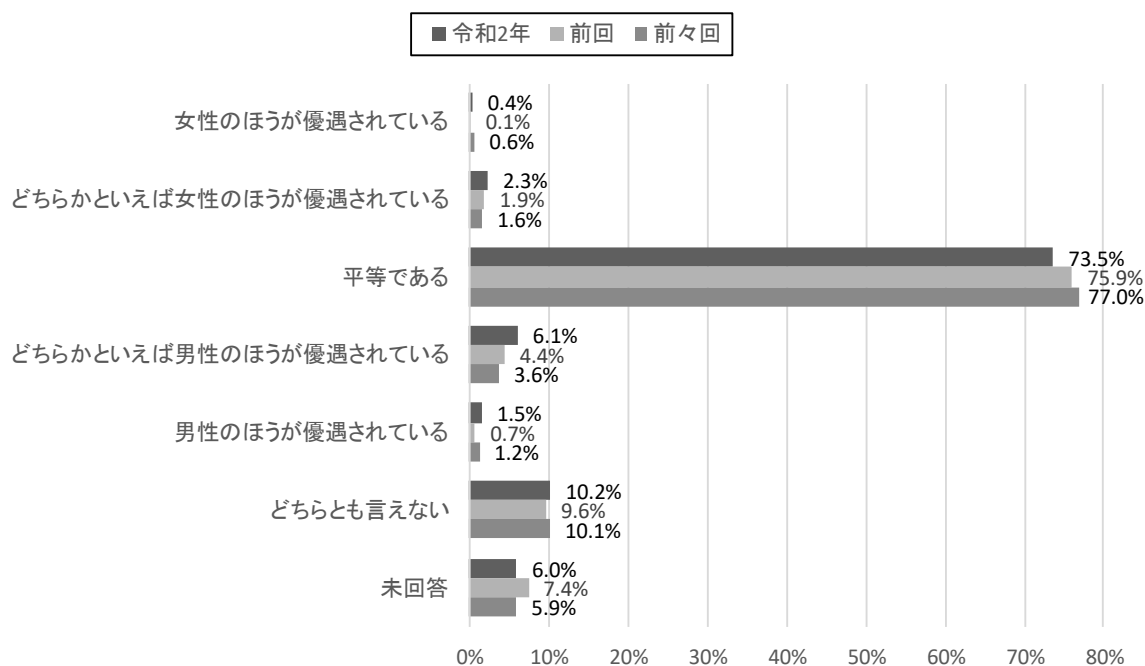
- ①学校教育を受ける場では ②雇用の機会や働く分野では ③賃金や待遇では
 ④家庭生活（家事・育児・介護面）では ⑤地域活動、社会活動への参加では ⑥社会
 通念・習慣・しきたりでは ⑦法律や制度の上では ⑧政治・経済活動への参加では
 ⑨全体的にみて、わが国の男女の地位は

- 1 女性のほうが優遇されている 2 どちらかといえば女性のほうが優遇されている
 3 平等である 4 どちらかといえば男性のほうが優遇されている 5 男性のほうが優遇
 されている 6 どちらとも言えない

①学校教育を受ける場では

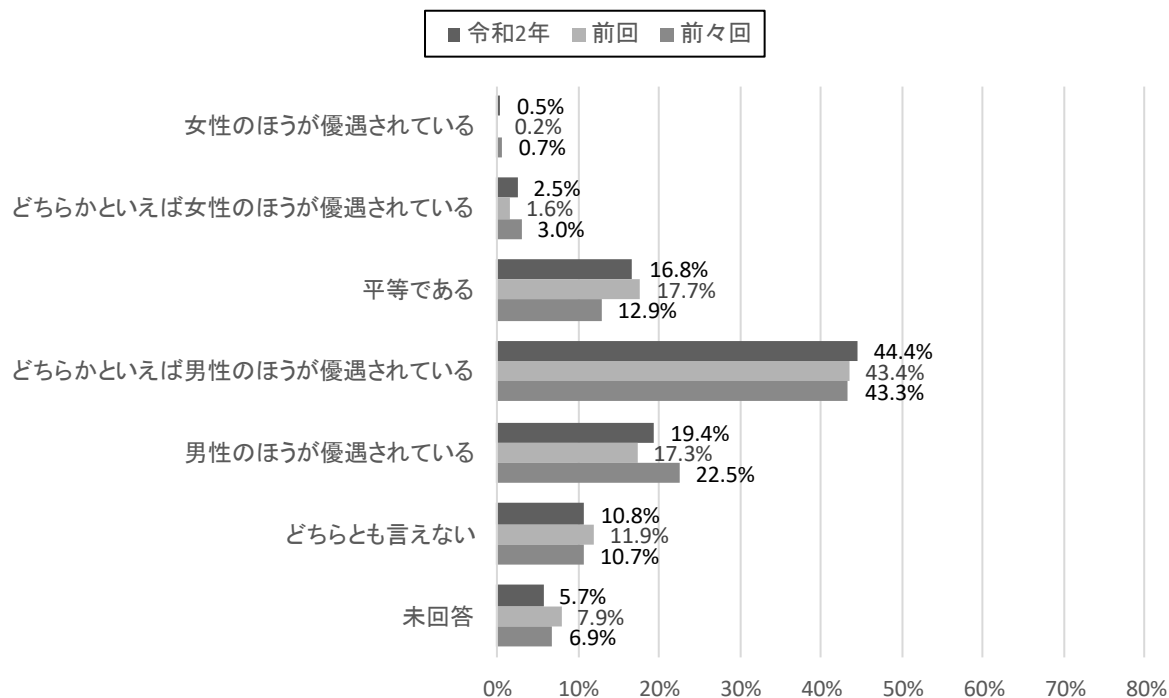
「平等である」が最も高い。

前回調査との比較で、減少幅が最も大きいものは「平等である」（2.4ポイント）で、増加幅が最も大きいものは「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（1.7ポイント）となっている。



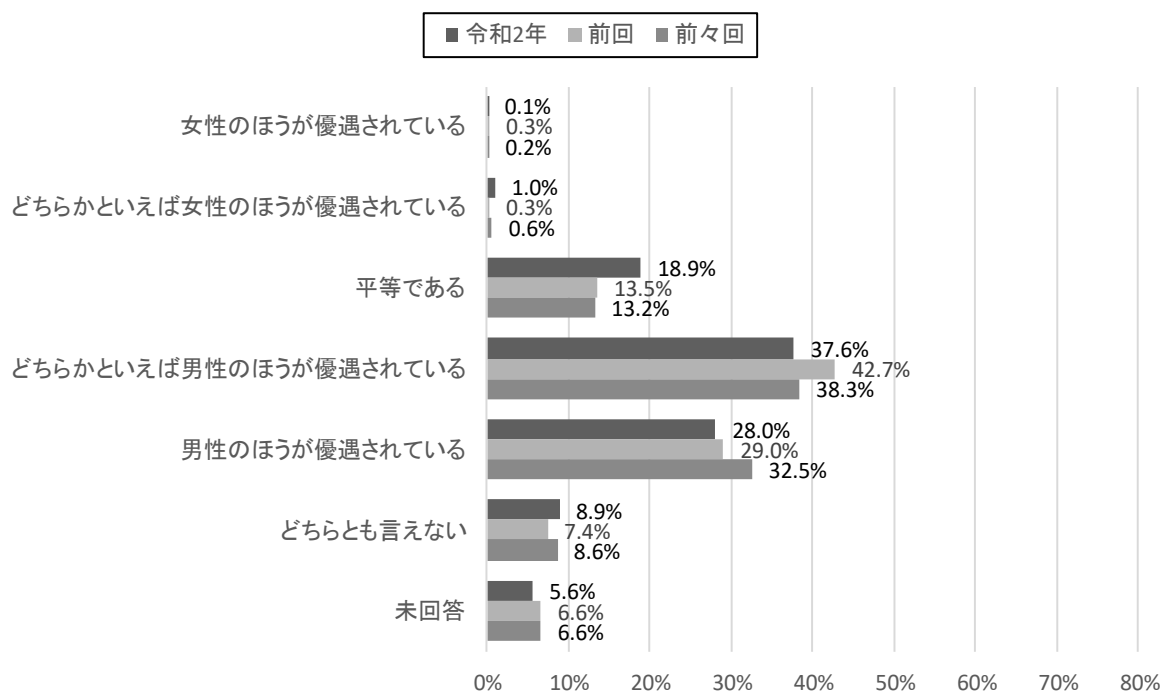
②雇用の機会や働く分野では

「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高い。前回調査との比較では未回答を除き「男性の方が優遇されている」の差が一番大きい（2.1ポイント増加）。



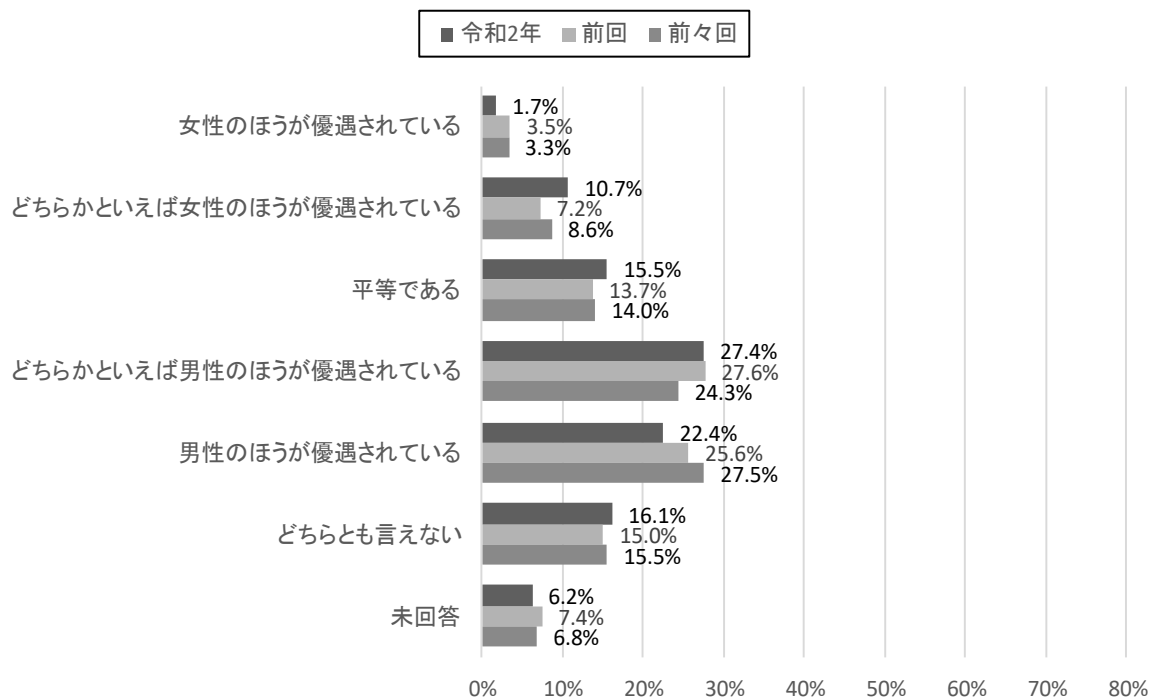
③賃金や待遇では

「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高い。前回調査との比較では「平等である」の差が一番大きい（5.4ポイント増加）。



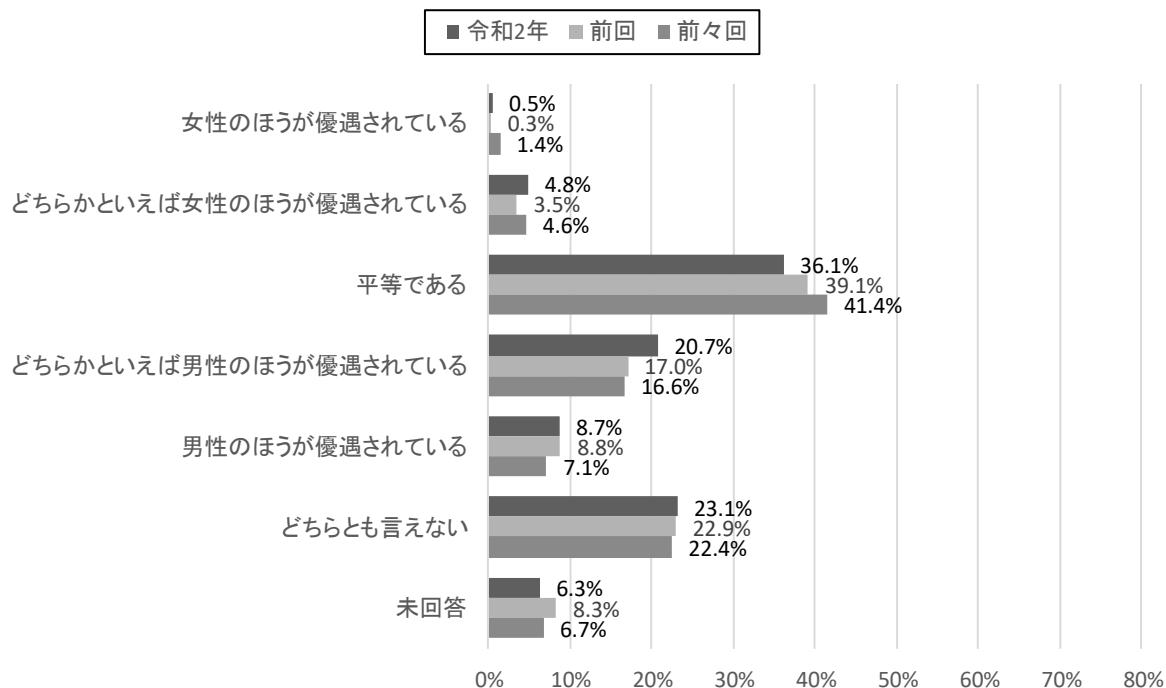
④家庭生活（家事・育児・介護面）では

「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高い。前回調査との比較では「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」の差が一番大きい（3.5ポイント増加）。



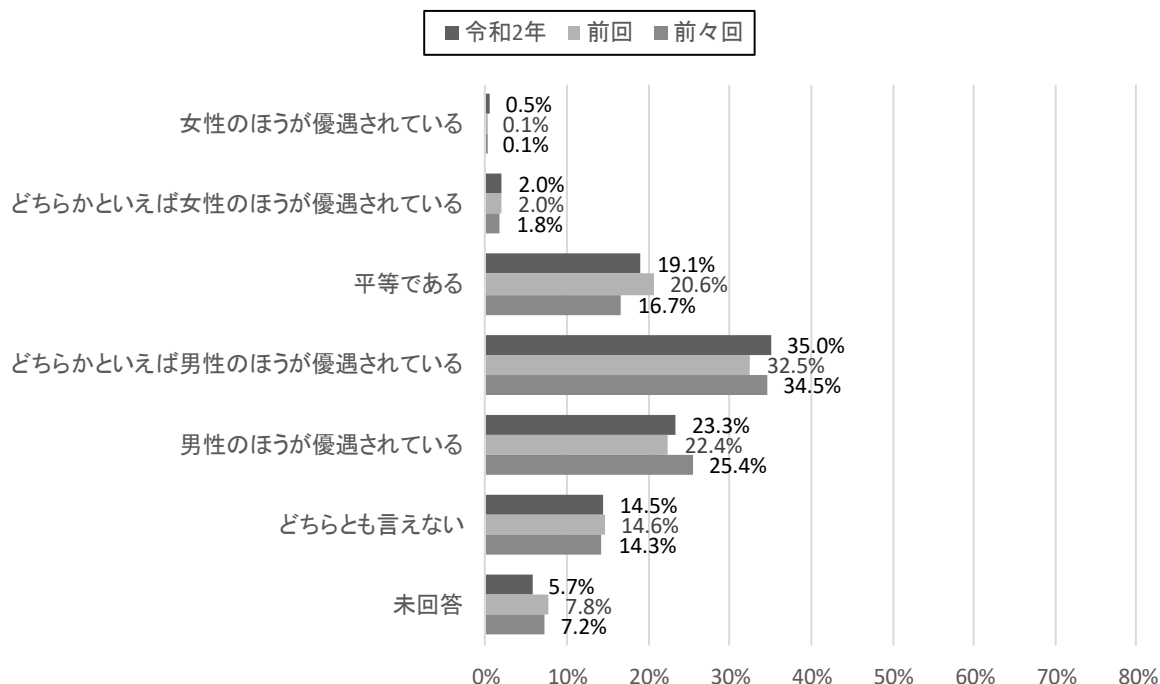
⑤地域活動、社会活動への参加では

「平等である」が最も高い。前回調査との比較では「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の差が一番大きい（3.7ポイント増加）。



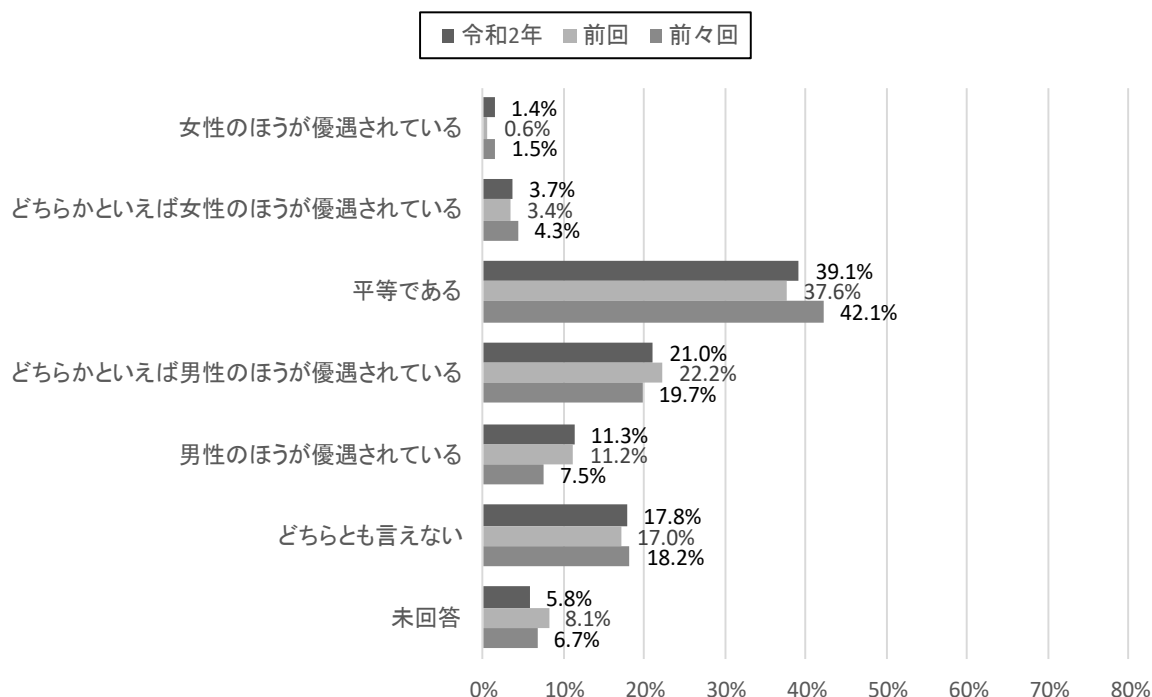
⑥社会通念・習慣・しきたりでは

「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高い。前回調査との比較では「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の差が一番大きい（2.5ポイント増加）。



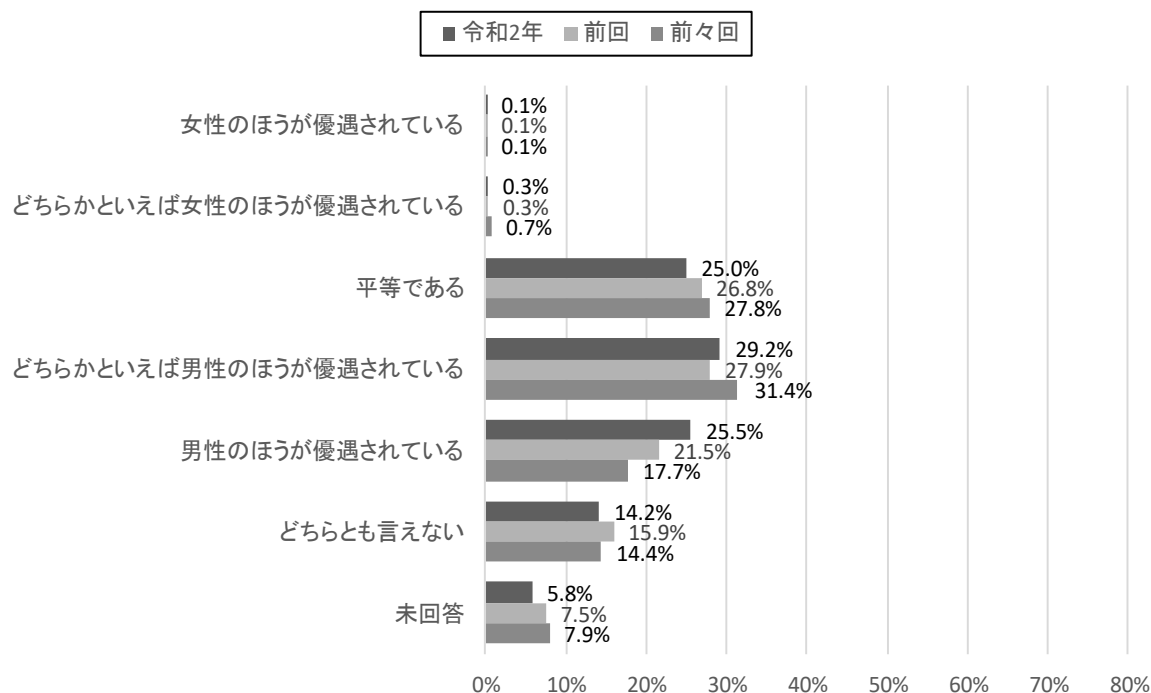
⑦法律や制度の上では

「平等である」が最も高い。前回調査との比較では、未回答を除き「平等である」の差が一番大きい（1.5ポイント増加）。



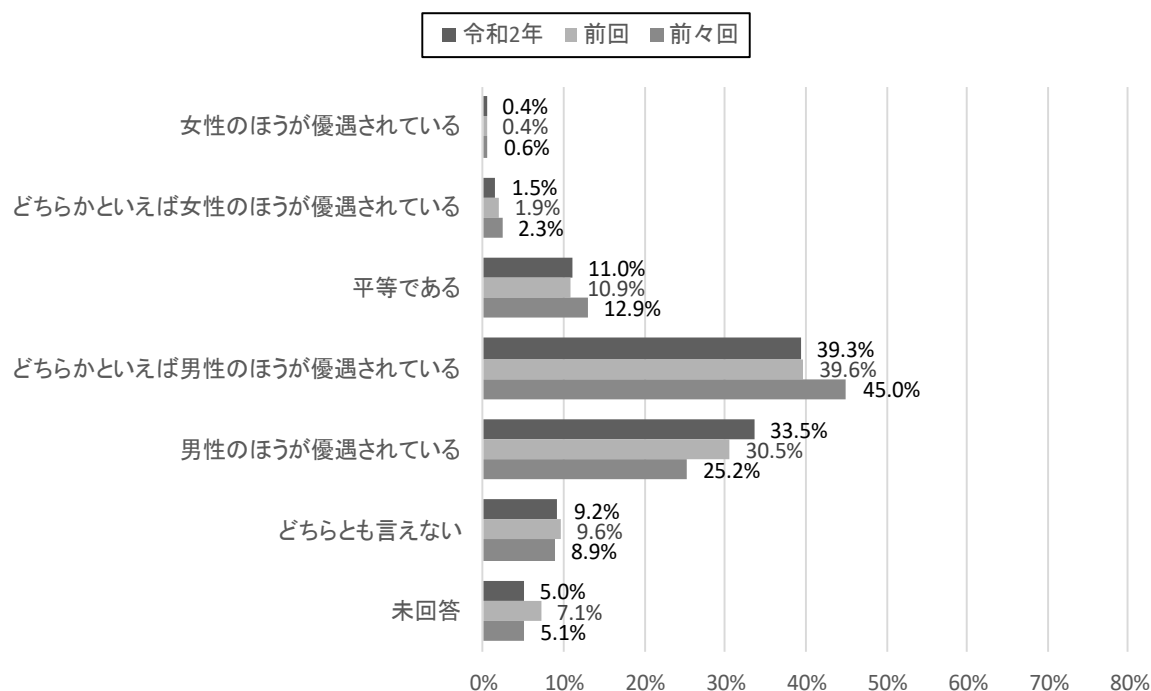
⑧政治・経済活動への参加では

「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高い。前回調査との比較では「男性のほうが優遇されている」の差が一番大きい（4.0ポイント増加）。



⑨全体的にみて、わが国の男女の地位は

「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高い。前回調査との比較では「男性のほうが優遇されている」の差が一番大きい（3.0ポイント増加）。



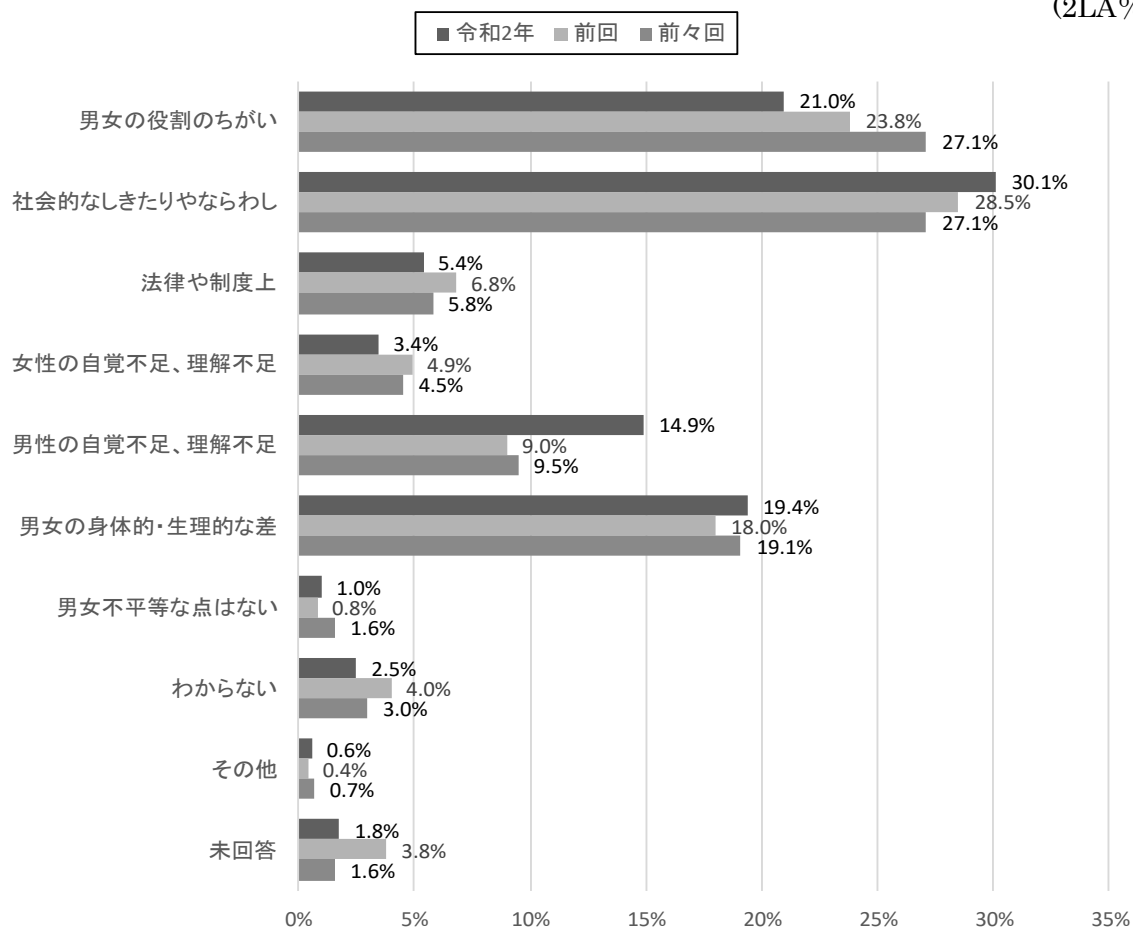
問2 1. 社会のいろいろな面で男女不平等な点があるとすれば、その原因はどこにあるとお考えですか？（2つまでに○を）

- | | | | |
|-----------------------|-----------------|----------|------|
| 1 男女の役割のちがいの自覚不足、理解不足 | 2 社会的なしきたりやならわし | 3 法律や制度上 | 4 女性 |
| 5 男性の自覚不足、理解不足 | 6 男女の身体的・生理的な差 | | |
| 7 男女不平等な点はない | 8 わからない | 9 その他 | |

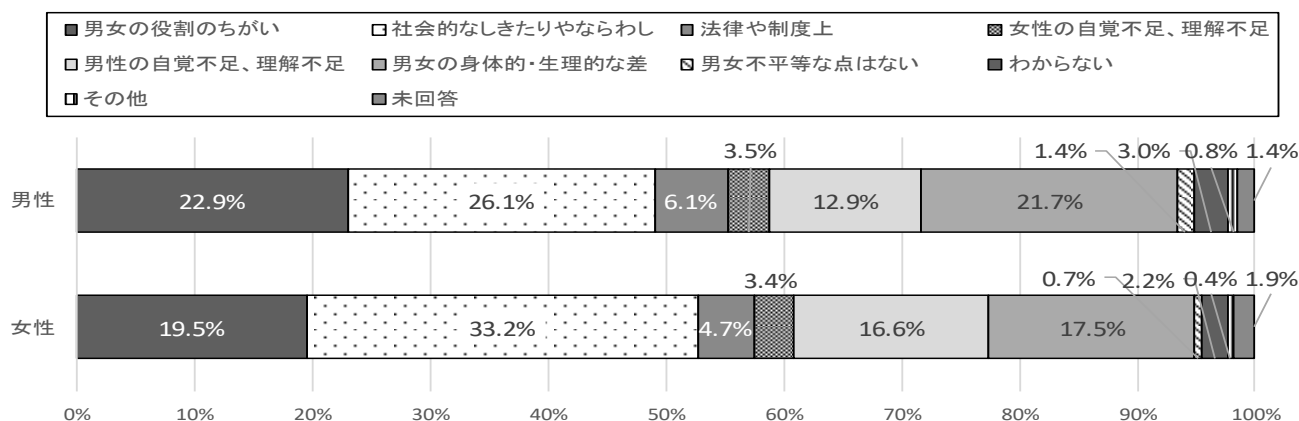
「社会的なしきたりやならわし」が最も高く 30.1%、ついで「男女の役割のちがい」21.0%、「男女の身体的・生理的な差」が 19.4%となっています。

前回調査との差が最も大きいのは「男性の自覚不足、理解不足」（5.9ポイント増加）です。

(2LA%)



性別で最も差が大きいのは、「社会的なしきたりやならわし」（7.1ポイント）です。



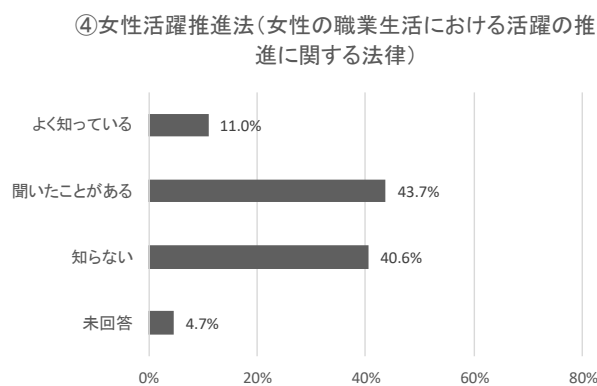
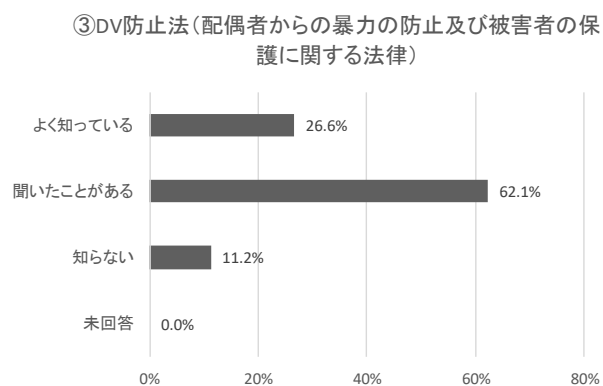
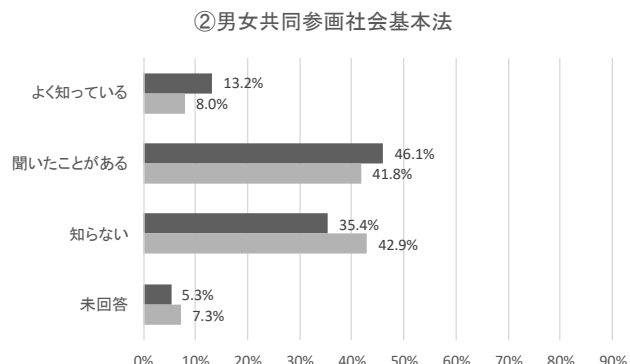
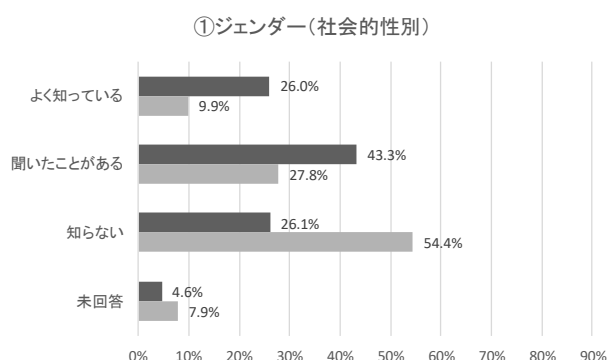
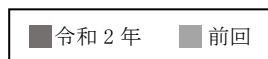
問22. 次の「ことば」や「ことがら」について、ご存じですか？（①～⑩のそれぞれについて、1つだけに○を）

- ①ジェンダー（社会的性別） ②男女共同参画社会基本法 ③DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律） ④女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律） ⑤ポジティブ・アクション（積極的改善措置） ⑥ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和） ⑦リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利） ⑧岩出市男女共同参画プランハーモニープラン ⑨岩出市男女共同参画推進委員会（愛称：ほっとけーき） ⑩岩出市女性人材リスト

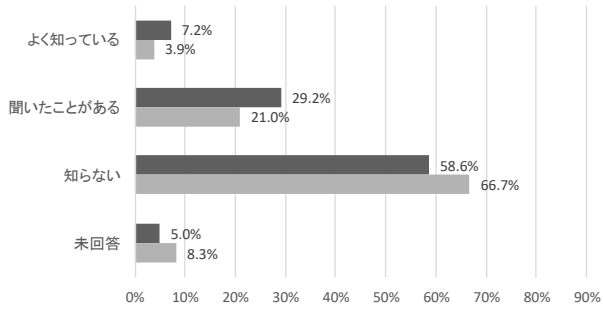
1 よく知っている 2 聞いたことがある 3 知らない

「ことば」や「ことがら」について、「よく知っている」の割合の高い項目は、「③DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）」26.6%、「①ジェンダー（社会的性別）」26.0%、「⑥ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」18.8%などです。

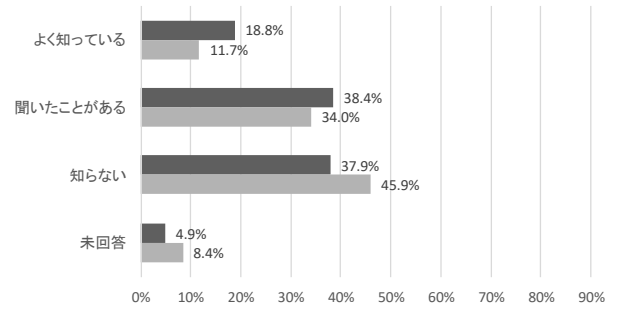
「知らない」とする割合が高いのは、「⑩岩出市女性人材リスト」86.9%、「岩出市男女共同参画プランハーモニープラン」83.1%、「⑨岩出市男女共同参画推進委員会（愛称：ほっとけーき）」81.1%などです。



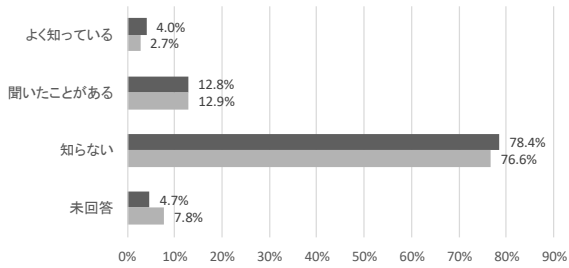
⑤ポジティブ・アクション(積極的改善措置)



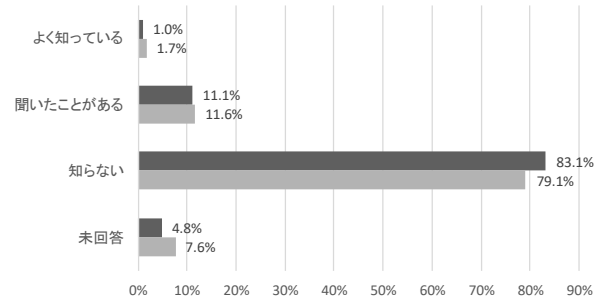
⑥ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)



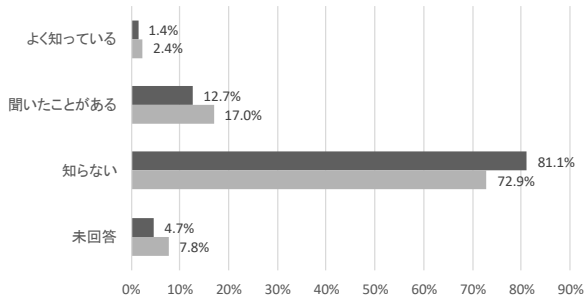
⑦リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康/権利)



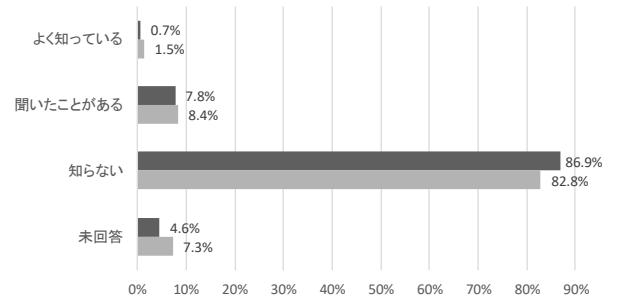
⑧岩出市男女共同参画プランハーモニープラン



⑨岩出市男女共同参画推進委員会(愛称:ほっとけーき)



⑩岩出市女性人材リスト

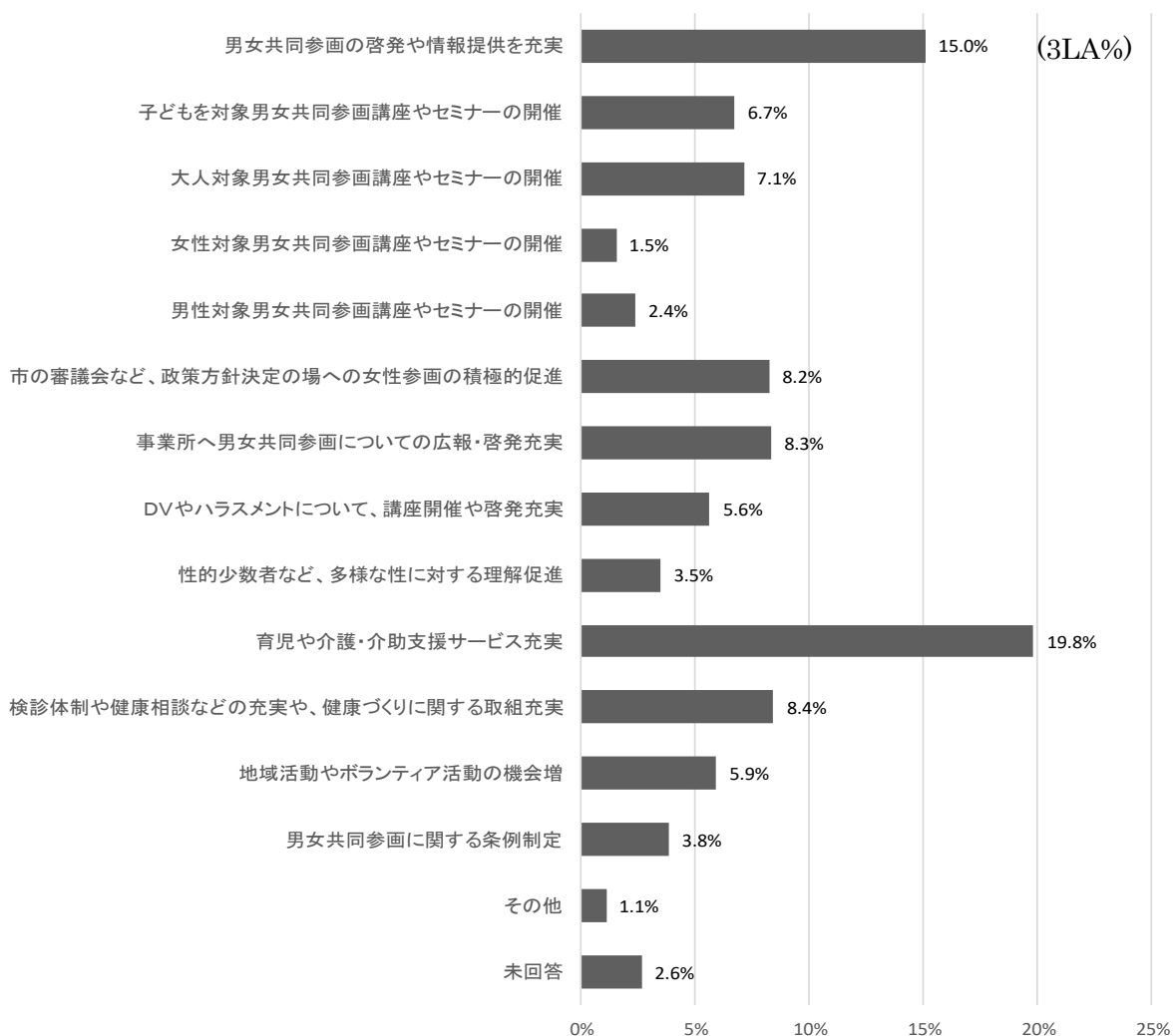


■ 令和2年 ■ 前回

問 2 3. 今後さらに男女共同参画を進めるために、岩出市がどのようなことに力をいれるべきだと思いますか？（特に必要だと思うもの 3 つまでに○を）

- 1 男女共同参画の啓発や情報提供を充実させる 2 子どもを対象とした男女共同参画についての講座やセミナーの開催 3 大人を対象とした男女共同参画についての講座やセミナーの開催 4 女性を対象とした男女共同参画についての講座やセミナーの開催 5 男性を対象とした男女共同参画についての講座やセミナーの開催 6 市の審議会など、政策方針決定の場への女性の参画を積極的に促進する 7 事業所へ男女共同参画についての広報・啓発を進める 8 DV やハラスメントについて、講座の開催や啓発を充実させる 9 性的少数者など、多様な性に対する理解を促進する 10 育児や介護・介助を支援するサービスを充実させる 11 検診体制や健康相談などの充実や、健康づくりに関する取組を充実させる 12 地域活動やボランティア活動の機会を増やす 13 男女共同参画に関する条例を制定する 14 その他

高い項目としては、「育児や介護・介助支援サービスの充実」19.8%、「男女共同参画の啓発や情報提供を充実させる」15.0%となっています。低い項目としては、「その他」1.1%、「女性を対象とした男女共同参画についての講座やセミナーの開催」1.5%、「男性を対象とした男女共同参画についての講座やセミナーの開催」2.4%となっています。



2. 意識調査（事業所）

1 調査概要

1 調査の目的

岩出市では、平成 29 年 3 月に、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に規定する計画を含めた「第 4 次岩出市男女共同参画プラン」を策定し、「みんなが共に生きるまち」の実現をめざして、取り組みを進めています。現プランは、令和 3 年度で計画期間が終了することから、新たなプランの策定に向け、男女共同参画に対する市民の意識や実態を把握し、基礎資料とするために実施しました。

2 調査設計

項 目	内 容
調査地域	岩出市全域
調査対象	岩出市所在の岩出市商工会会員
調査数	528 社
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	令和 2 年 9 月～11 月
調査項目	12 問、自由記載

3 回収結果

調査数	有効回収数	有効回収率
528	253	47.9%

4 報告書の見方

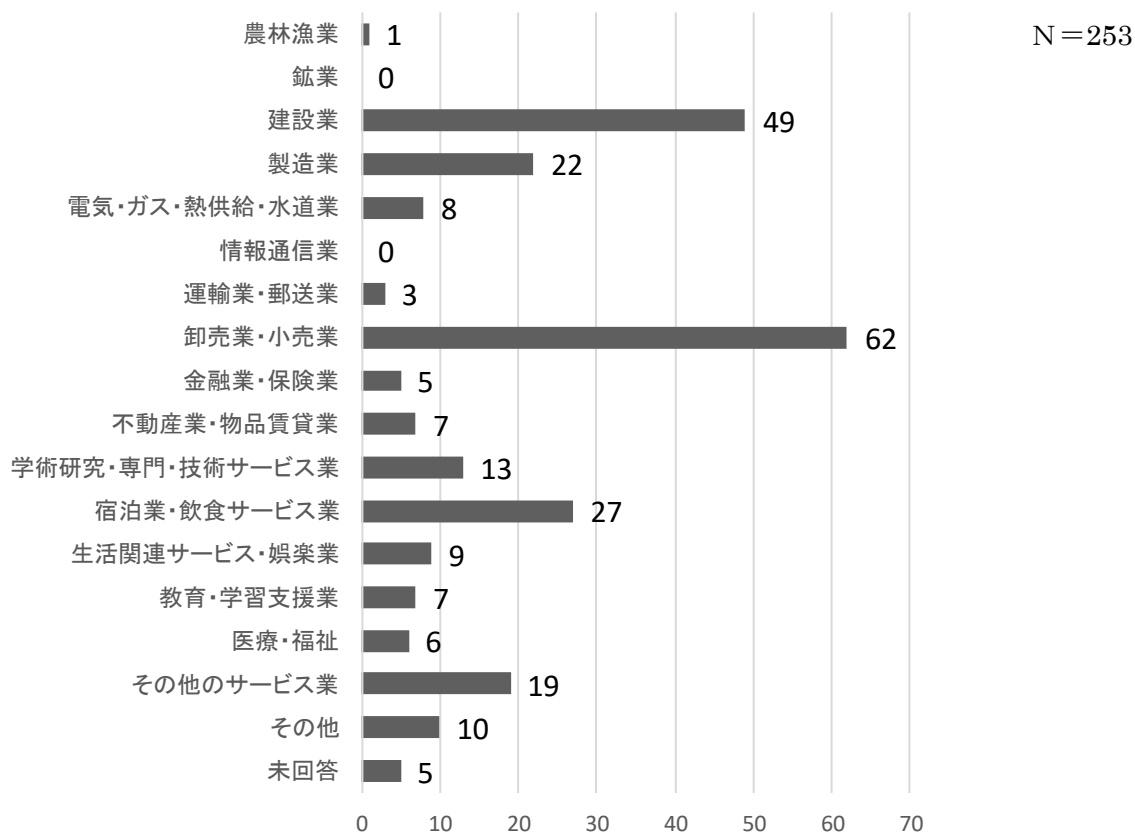
- ・設問によっては「単純集計」の結果を記載しています。
- ・図中の N は、設問に対する回答者数のことです。
- ・図表の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、一部簡略化した表現を用いている場合もあります。

2 調査結果

問1. 業種についておうかがいします (○は1つ)

1 農林漁業 2 鉱業 3 建設業 4 製造業 5 電気・ガス・熱供給・水道業
 6 情報通信業 7 運輸業・郵送業 8 卸売業・小売業 9 金融業・保険業
 10 不動産業・物品賃貸業 11 学術研究・専門・技術サービス業 12 宿泊業・飲食サービス業
 13 生活関連サービス業・娯楽業 14 教育・学習支援業 15 医療・福祉
 16 その他のサービス業 17 その他

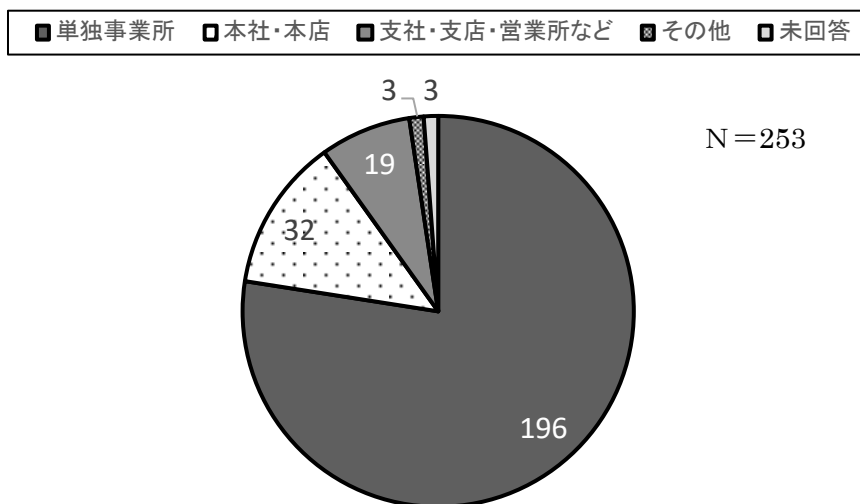
「卸売業・小売業」が 62 社と最も多く、ついで「建設業」49 社、「宿泊業・飲食サービス業」が 27 社、「製造業」が 22 社となっている。



問2. 貴事業所の形態についておうかがいします (○は1つ)

1 単独事業所 2 本社・本店 3 支社・支店・営業所など 4 その他

「単独事業所」が196社と最も多く、「本社・本店」32社、「支社・支店・営業所など」19社となっている。



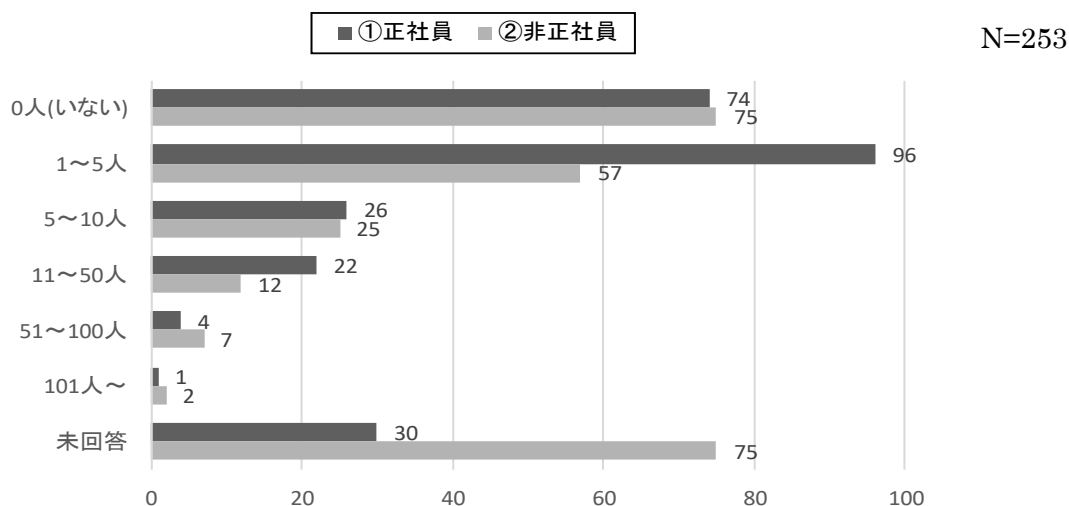
問3. 従業員数についておうかがいします (①②それぞれ、○は1つ)

①正社員 ②非正社員

1 0人 (いない) 2 1～5人 3 5～10人 (※) 4 11～50人 5 51～100人
6 101人～ (※調査票どおり記載)

①正社員では、「1～5人」が96社と最も多く、ついで「0人 (いない)」が74社となっている。

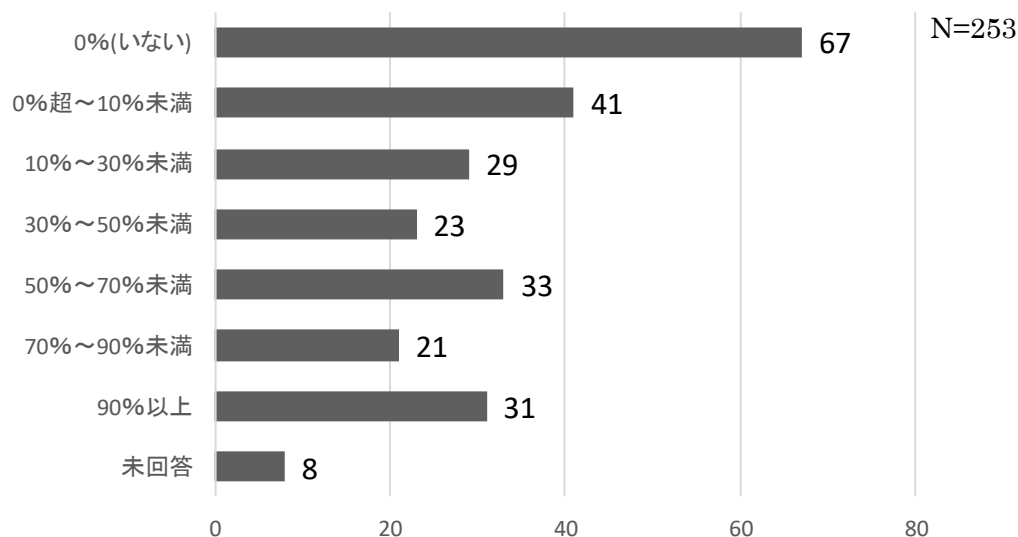
②非正社員では、未回答を除き、「0人 (いない)」が75社と最も多く、ついで、「1～5人」が57社となっている。



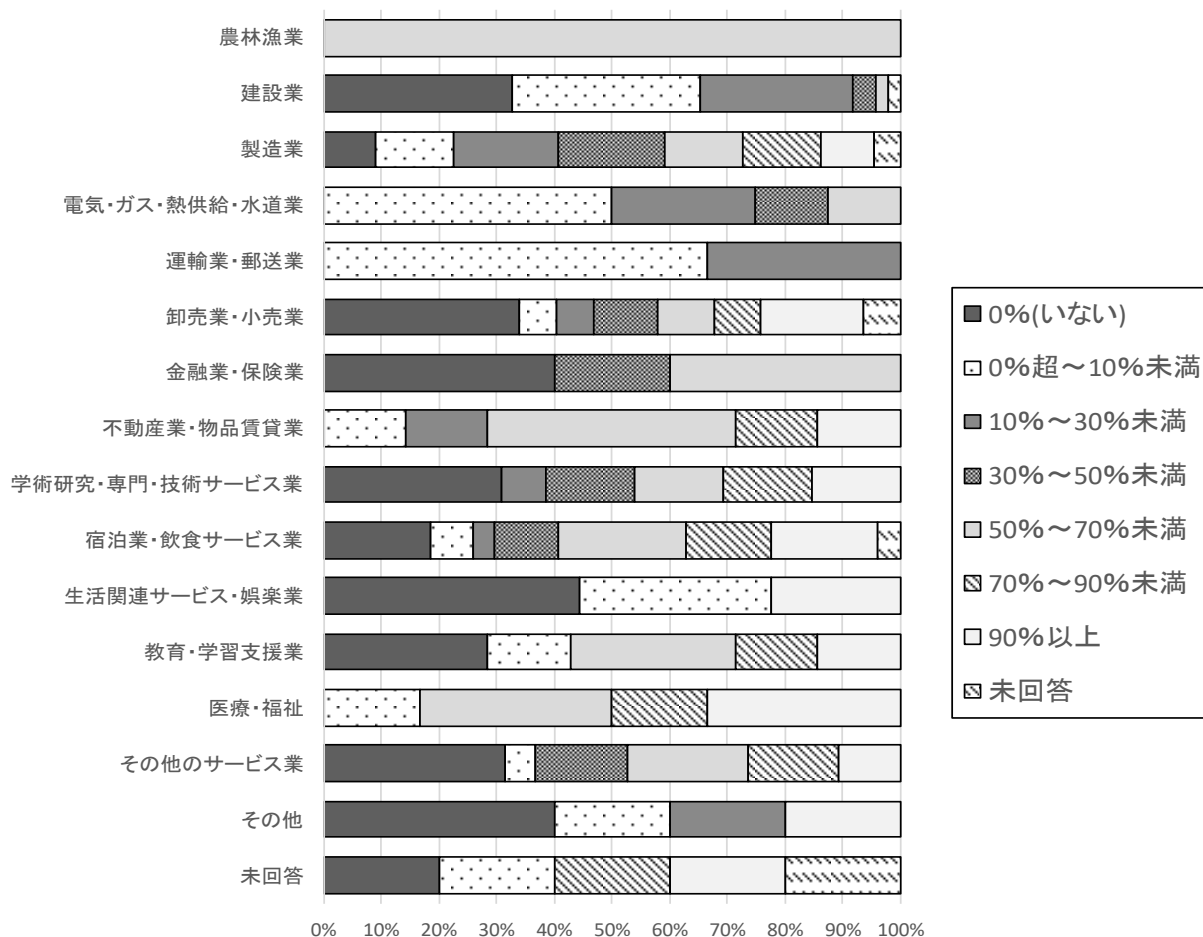
問4. 従業員の女性の割合についておうかがいします (〇は1つ)

1 0% (いない) 2 0%超～10%未満 3 10%～30%未満 4 30%～50%未満
5 50%～70%未満 6 70%～90%未満 7 90%以上

「0% (いない)」が67社と最も多く、ついで「0%超～10%未満」が41社、「50%～70%未満」が33社、「90%以上」が31社になっています。



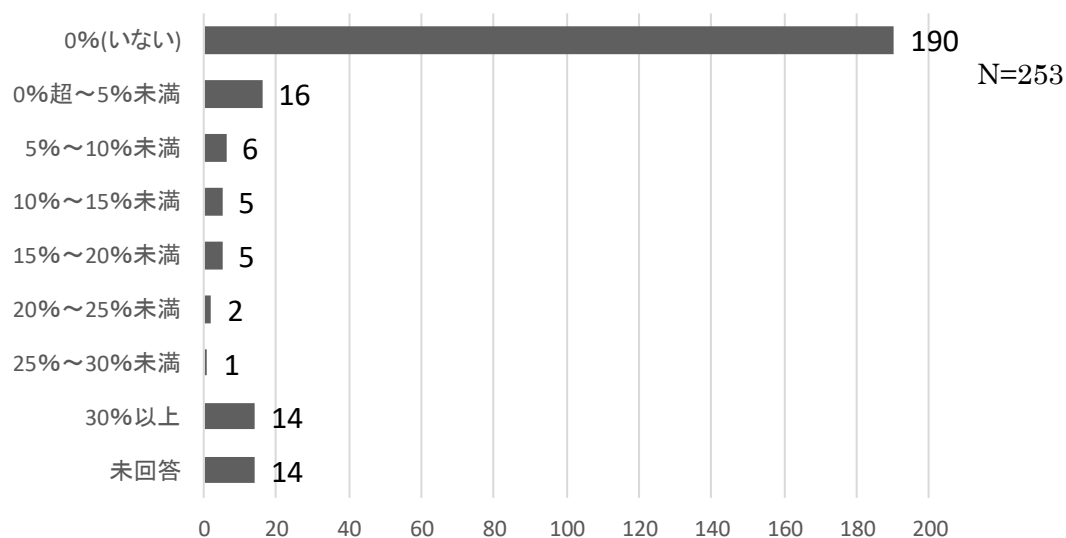
業種別の女性従業員割合はつぎのとおりです。



問5. 管理職（課長相当職以上）の女性の割合についておうかがいします（○は1つ）

1 0%（いない）	2 0%超～5%未満	3 5%～10%未満	4 10%～15%未満
5 15%～20%未満	6 20%～25%未満	7 25%～30%未満	8 30%以上

「0%（いない）」が190社と最も多く、ついで「0%超～10%未満」が16社、「30%以上」が14社になっています。



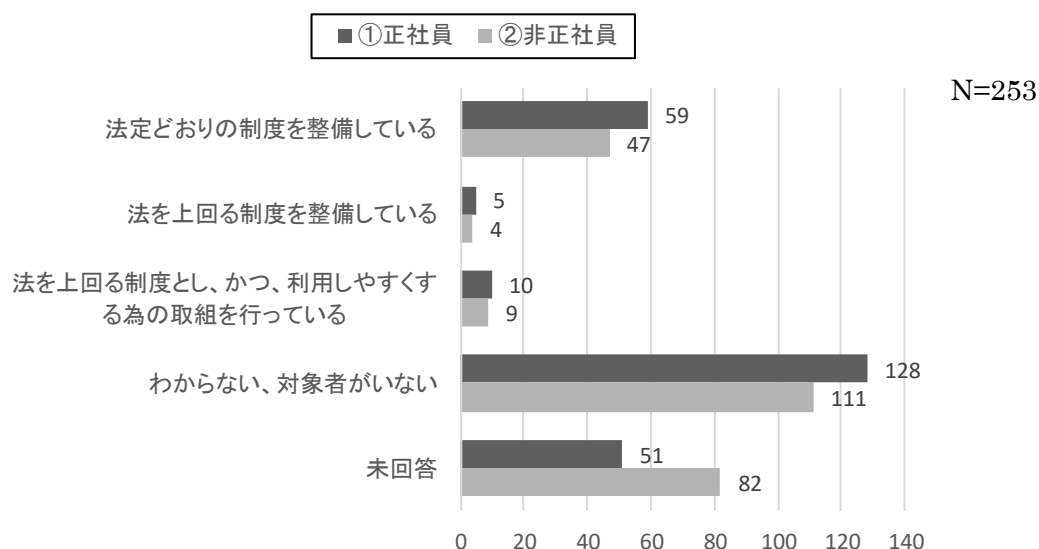
問6. 仕事と子育て・介護の両立支援について、どの程度の取組を進めていますか（①②それぞれ、○は1つ）

①正社員 ②非正社員

1 法定どおりの制度を整備している 2 法を上回る制度を整備している 3 法を上回る制度とし、かつ、利用しやすくするための取組を行っている 4 わからない、対象者がいない

①正社員では、「わからない、対象者がいない」が128社と最も多く、「法定どおりの制度を整備している」が59社となっています。「法を上回る制度を整備している」と「法を上回る制度とし、かつ、利用しやすくするための取組を行っている」をあわせた「法を上回る制度を整備している」事業所は、15社で、全体の5.9%です。

②非正社員では、「わからない、対象者がいない」が111社と最も多く、未回答を除き「法定どおりの制度を整備している」が47社となっています。「法を上回る制度を整備している」と「法を上回る制度とし、かつ、利用しやすくするための取組を行っている」をあわせた「法を上回る制度を整備している」事業所は、13社で、全体の5.1%です。

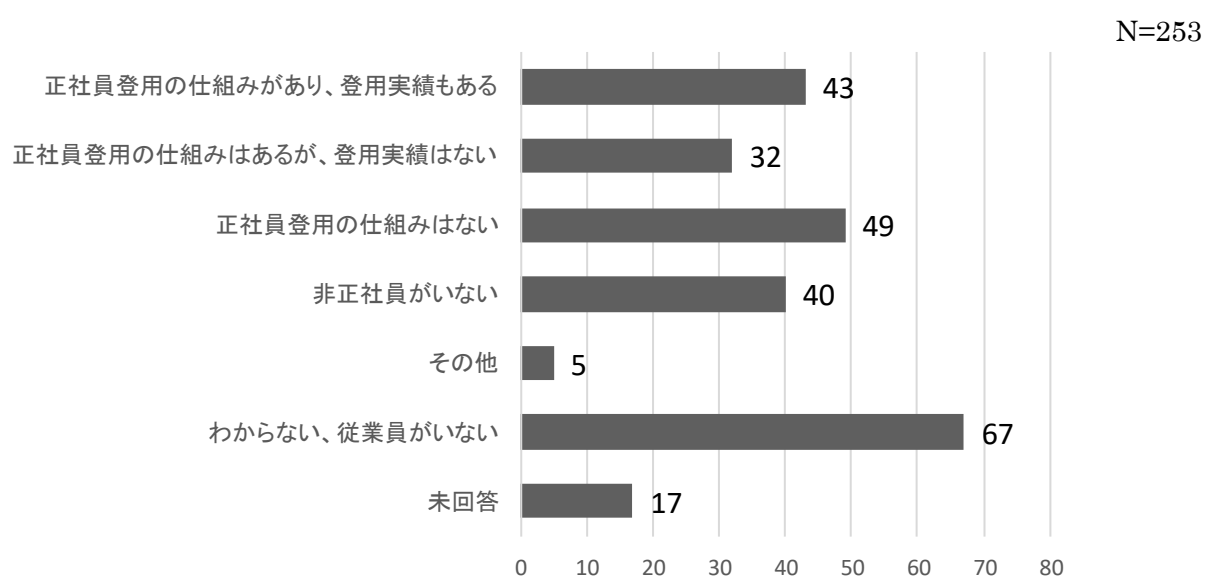


問7. 非正社員から正社員への登用制度についてうかがいます（〇は1つ）

- 1 正社員登用の仕組みがあり、登用実績もある 2 正社員登用の仕組みはあるが、登用実績はない 3 正社員登用の仕組みはない 4 非正社員がいない 5 その他
6 わからない、従業員がいない

「わからない、従業員がいない」が最も多く 67 社、ついで、「正社員登用の仕組みはない」49 社、「正社員登用の仕組みがあり、登用実績もある」が 43 社、「非正社員がいない」40 社となっています。

「正社員登用の仕組みがある」事業所は、29.6%です。



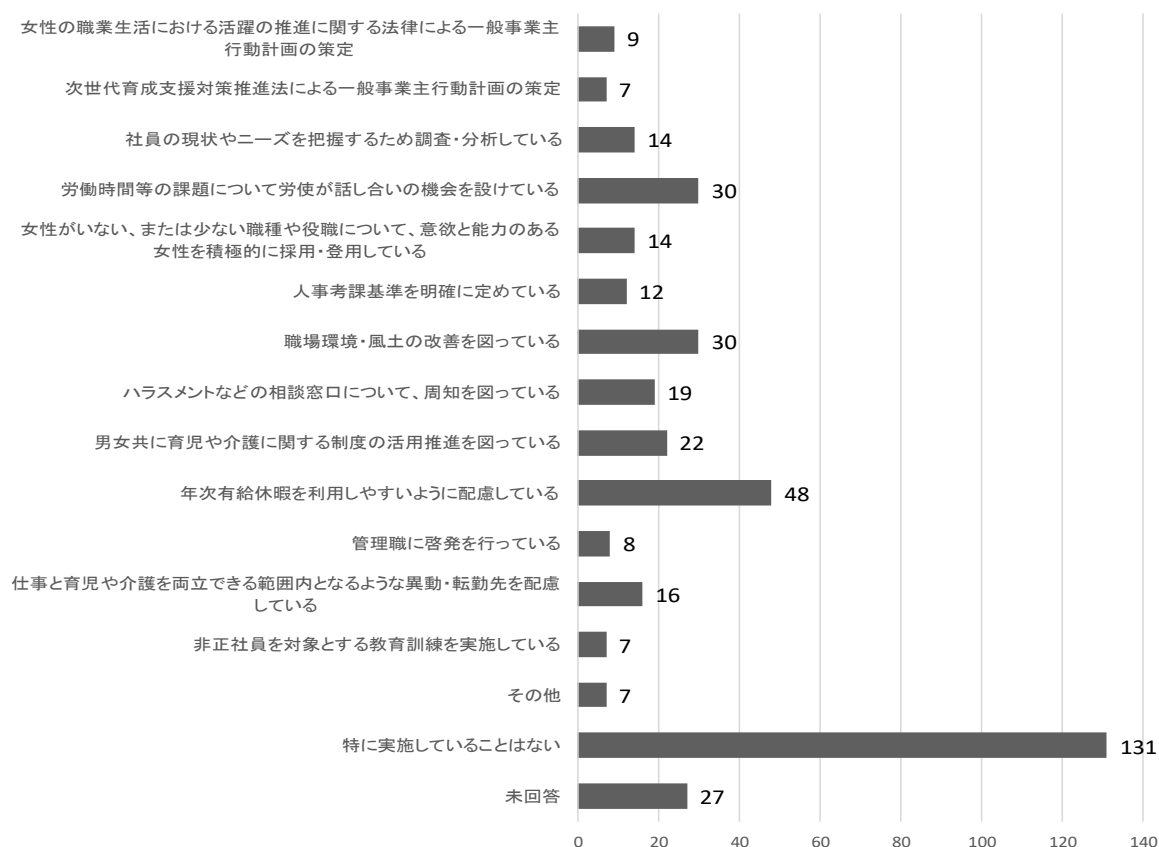
問8. 女性の活躍推進や、仕事と家庭の両立支援のために取り組んでいることはありますか（〇は
いくつでも）

1 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律による一般事業主行動計画の策定 2 次世代育成支援対策推進法による一般事業主行動計画の策定 3 社員の現状やニーズを把握するため調査・分析をしている 4 労働時間等の課題について労使が話し合いの機会を設けている 5 女性がいない、または少ない職種や役職について、意欲と能力のある女性を積極的に採用・登用している 6 人事考課基準を明確に定めている 7 職場環境・風土の改善を図っている 8 ハラスメントなどの相談窓口について、周知を図っている 9 男女共に育児や介護に関する制度の活用推進を図っている 10 年次有給休暇を利用しやすいよう配慮している 11 管理職に啓発を行っている 12 仕事と育児や介護を両立できる範囲内となるよう異動・転勤先を配慮している 13 非正社員を対象とする教育訓練を実施している 14 その他 15 特に実施していることはない

女性の活躍推進や、仕事と家庭の両立支援のための取組について、「特に実施していることはない」が131社と最も多いです。

取組のうち高い項目は、「年次有給休暇を利用しやすいよう配慮している」48社、「労働時間等の課題について労使が話し合いの機会を設けている」と「職場環境・風土の改善を図っている」が30社、「男女共に育児や介護に関する制度の活用推進を図っている」22社などです。

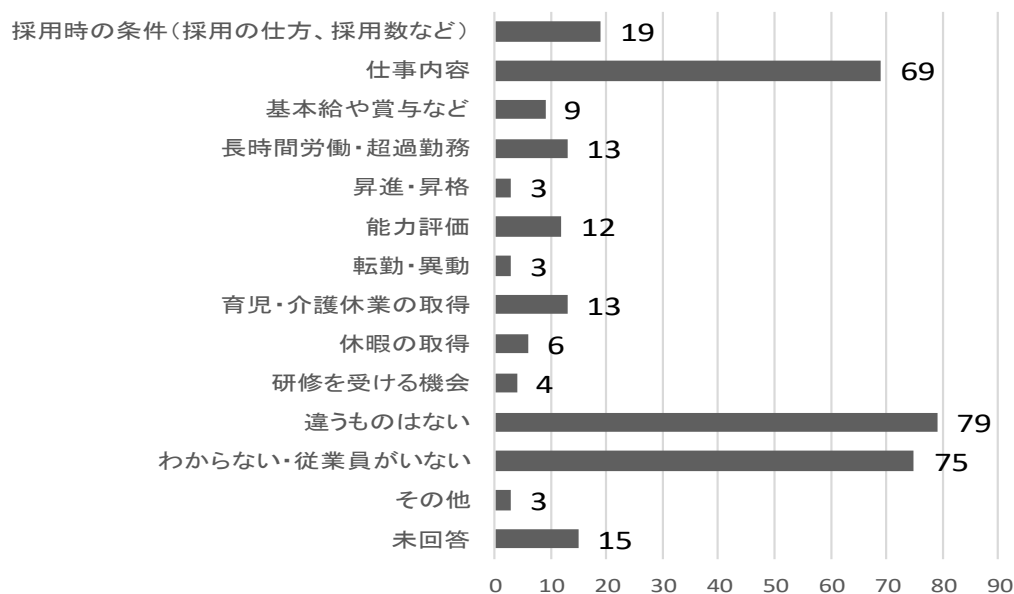
低い項目では、「次世代育成支援対策推進法による一般事業主行動計画の策定」と「非正社員を対象とする教育訓練を実施している」が7社、「管理職に啓発を行っている」8社、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律による一般事業主行動計画の策定」9社などです。



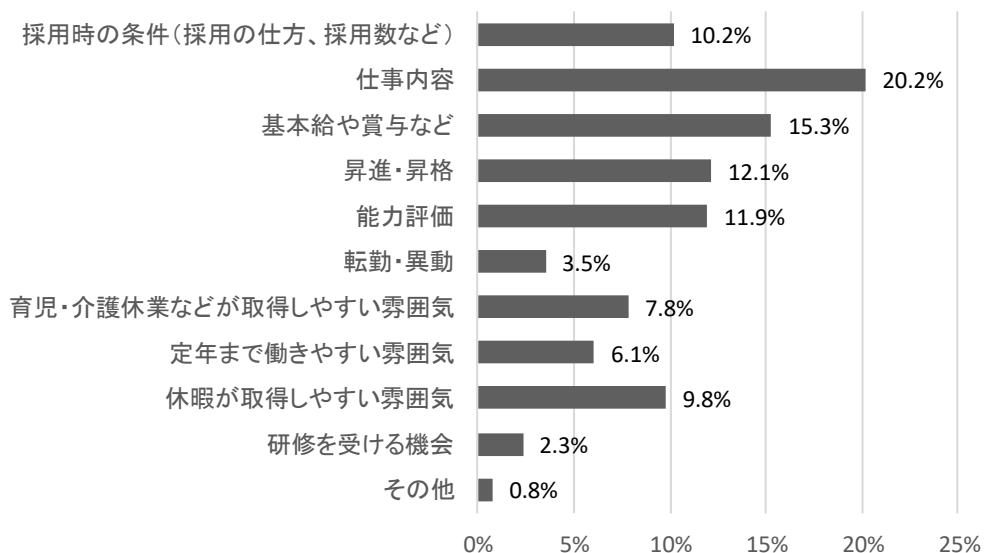
問9. 従業員の性別（男性と女性）で配慮の違いはありますか（あてはまるものすべてに○を）

- | | | |
|-----------------------|--------------|------------------|
| 1 採用時の条件（採用の仕方、採用数など） | 2 仕事内容 | 3 基本給や賞与など |
| 4 長時間労働・超過勤務 | 5 昇進・昇格 | 6 能力評価 |
| 7 転勤・異動 | 8 育児・介護休業の取得 | 9 休暇の取得 |
| 10 研修を受ける機会 | 11 違うものはない | 12 わからない・従業員がいない |
| 13 その他 | | |

「違うものはない」が79社と最も多く、ついで「わからない・従業員がいない」が75社です。配慮の違いがあるもので多いのは、「仕事内容」69社、「採用時の条件（採用の仕方、採用数など）」19社、「長時間労働、超過勤務」と「育児・介護休業の取得」がそれぞれ13社、「能力評価」12社などです。



【参考（P11 再掲）・住民意識調査（問5-2-1 収入を得る仕事をしている人のうち、働く場で男女どちらかが優遇されていると感じている理由）】

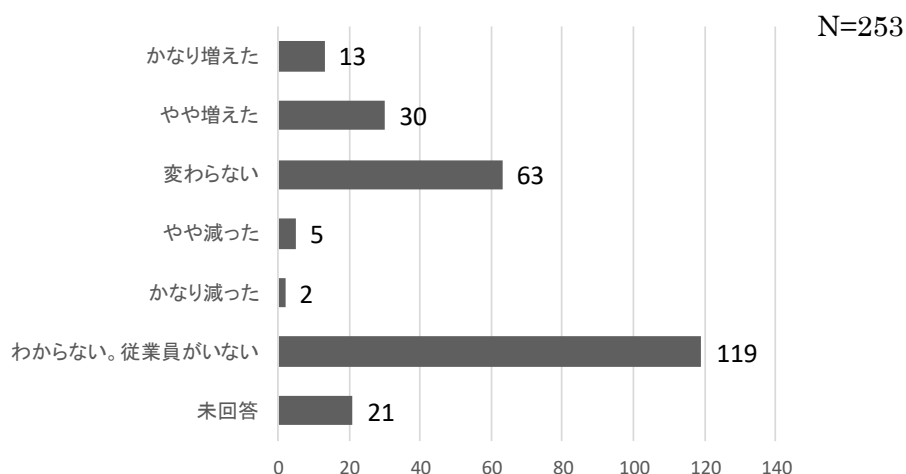


問10. 子育てしながら働いている従業員について、5年前に比べてどのような変化が見られますか（○は1つ）

1 かなり増えた 2 やや増えた 3 変わらない 4 やや減った 5 かなり減った
6 わからない・従業員がいない

「わからない・従業員がいない」が119社と最も多く、ついで「変わらない」が63社で、全体の24.9%です。

「かなり増えた」「やや増えた」をあわせた「増えた」は、43社で、全体の16.9%です。

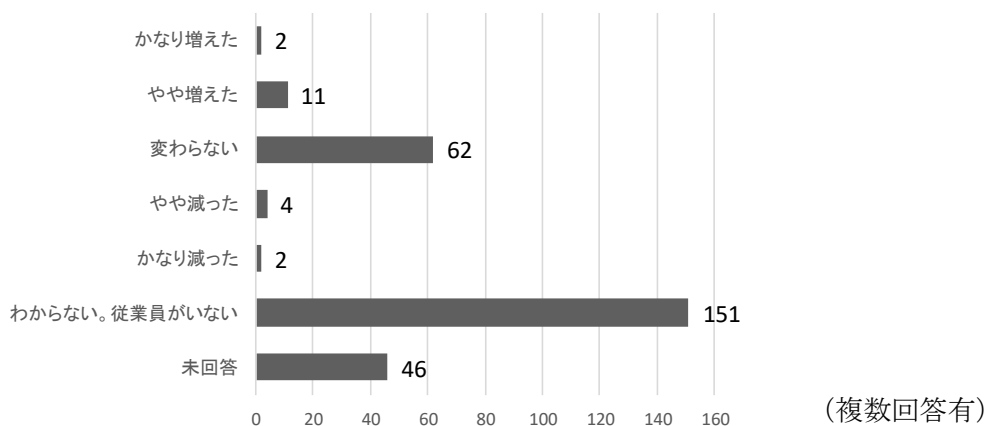


問11. 介護をしながら働いている従業員について、5年前に比べてどのような変化が見られますか（○は1つ）

1 かなり増えた 2 やや増えた 3 変わらない 4 やや減った 5 かなり減った
6 わからない・従業員がいない

「わからない・従業員がいない」が151社と最も多く、ついで「変わらない」が62社で、全体の24.5%です。

「かなり増えた」「やや増えた」をあわせた「増えた」は、13社で、全体の5.1%です。

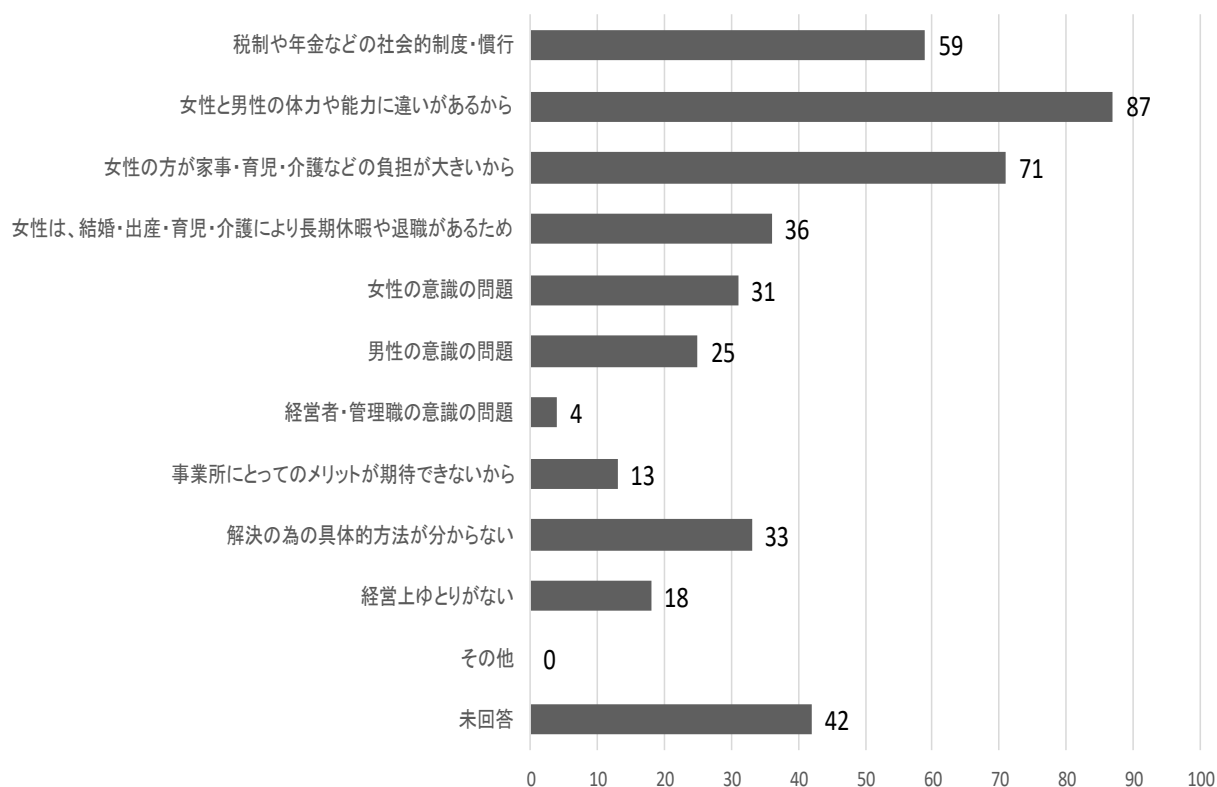


問 1 2. 職場において男女共同参画を困難にしている要因は、どのようなことだと思いますか（〇は3つまで）

1 税制や年金などの社会的制度・慣行 2 女性と男性の体力や能力に違いがあるから
 3 女性の方が家事・育児・介護などの負担が大きいから 4 女性は、結婚・出産・育児・介護により長期休暇や退職などがあるため 5 女性の意識の問題 6 男性の意識の問題
 7 経営者・管理職の意識の問題 8 事業所にとってのメリットが期待できないから 9 解決のための具体的方法がわからない
 10 経営上ゆとりがない 11 その他

男女共同参画を困難にしている要因として高い項目は、「女性と男性の体力や能力に違いがあるから」87社、「女性の方が家事・育児・介護などの負担が大きいから」71社、「税制や年金などの社会的制度・慣行」が59社などです。

低い項目としては、「経営者・管理職の意識の問題」4社、「事業所にとってのメリットが期待できないから」13社、「経営上ゆとりがない」が18社などです。



3. 自由記載欄ご意見

1 (住民意識調査) 問 2 4

【出産・子育て・教育に関すること】

今社会には、いろんな補助があります。医療や子供手当、高校の授業料などいろいろ。子供も1人でも多く産ませようと社会が考えているなら、どうしたら、産めるかと考えると、女の人（お母さん）が産める環境を作ってあげると産もうと考える人が増えると思います。それって、お金が1番みんな考えていると思います。例えば私が仕事休んだらやめたら、生活できないから、もう1人はあきらめてるとか、会社に戻れても見てもらえる人がないから預けないといけない（バイト分ぐらいの保育料結局働いてる意味ないとか）・・・いろいろ。だったら、男の人の給料の底あげをしてあげると、辞めてももう1人産める。とか、3歳までは、仕事しなくても子育てに時間かけられる。とかお母さんも心の余裕あるから、虐待とかも減ると思います。たとえ何十万だったとしても、一回とか、数回の補助よりも補助を全くなしにしてもいいので、毎月の給料の底あげをしてあげてほしい。じゃあ、もう一人産もうかなって思えるんじゃないかな？って思います。虐待もお母さんがしっかりみたら、時間に余裕、お金に余裕があったら減ると思います。(40歳代女性)

仕事に出たいが3才以下の幼児を預ける場が少なく保育料も高いため、ためらう (30歳代女性)

男女共同参画社会よりも、子育てに取り組んだ事をしてほしいです。(30歳代男性)

子育てと、仕事を両立できる社会を作って頂けたら、女性も働きやすいので、保育の場の充実をお願いします。(30歳代女性)

男女共同参画社会とは関係ないかもしれませんが、保育園のあきがなく、働きたくても働けません。主人の転勤で、初めて岩出市に移住し、実家もかなり遠方のため、4月の入園まで待っている状態です。まずは保育などのサービスを充実していただかないと、男女共同参画も何もできません。(30歳代女性)

保育所や、0才児保育岩出は県下で最底と思う。学校ももう少し小人数のクラスにして欲しいコロナがあつて切実に思う。15～20人学級くらいどんどん、児童数が減っているのも実現可能と思う。子供達を安心して学校や保育園に預けての男女共同参画と思う。学童もっと安価に利用出来ればいいのでは (60歳代女性)

子育て、介護等、家庭生活においての仕事は女性の負担が大きく、女性が社会や仕事にでていくには、保育園、介護施設等の拡充がまだまだ必要だと思います。娘も子供をかかえ仕事を続けるために保育園の3才までの人数の枠に入るために保育園活動をしています。家族の協力も必要でしょうが、男女共同参画社会を実現させるためには、公助、共助、自助だと思います。特に今年のようなコロナ禍の時には、公助が特に必要で、自助には限度があると思います。医療従事者は、コロナ患者のため心身を粉にして

働いてくれているのに、岩出市内の保育園でも感染症に対する警告を受けたそうです。男女共同どころではないですね。(60 歳代女性)

制服の選択制、女性＝スカートしかないというのはどうなんだろうと思っています。幼稚園、小学校、中学校、高校、いずれを見てもそうなっている現状です。男女ともに選択できたらいいのに。(パンツスタイル、スカート、キュロット等)(30 歳代女性)

男女の身体的・生理的な差があり、男女が平等であるのは無理な事。お互いの思いやり、話し合いが大切で理解しようとする心を育てましょう。そのためには、小さい頃からの家庭環境が影響するので、落ちついた性格形成ができるようまず大人が頑張りましょう。(50 歳代女性)

今はコロナの影響で無理かもしれませんが、各種手続き、市役所やあいあいセンターなどでの、母子手帳発行や子どもに関する事業、健診など、母親が主に行っていることを、父親と共に、夫婦 2 人で参加、共に説明を聞くなどといった案内をして頂き、父親にもしっかりと育児や、家族の各種手続きなどの内容を理解してもらうことで、男女共同参画へとつながる意識がつくと思う。できるだけ 2 人で参加、もしくは父親がメインで行っていくことも大切なのではないかと共働き、家事育児分担をやっている立場で思います。(40 歳代女性)

男女平等の社会の実現には、幼少期からの教育が重要だと思います。結婚・出産を機に、どうして女性がキャリアを変更しなければならないのでしょうか。自分のペースで仕事に行き、帰宅が遅くても晩ご飯が出来ていたり、おフロが用意されていたり・・・子育ては夫婦 2 人ですべきもののなのに、現状は、女性の負担が多く、また、それがどこか当たり前の社会となっています。人権問題は、男女に関係なく、弱者になっていない立場の人の意識をいかに変えていくかが大切だと思います。北欧社会のように、岩出市が日本の中でも浮いているくらいに、男女平等が実現された市になることを願っています。(30 歳代女性)

男女間に起こりうる法律での問題、子供の事などに力を入れるべきだと思います。(20 歳代男性)

一親世帯に対しての助言や援助、キャリアアップや、資格取得等の援助金等の案内や、相談窓口の広報等を色々な機関や団体で、詳しい助言者をおき、行ってほしい。(60 歳代男性)

父子家庭の制度の充実が必要。保育所の数を増やすことにより、働ける女性も増えるか。(30 歳代男性)

アンケートには関係ありませんが、、もっと教育に力を入れてほしいと思っています。小・中学校の 1 クラスの数の多さに不安を感じます。教育へお金を使って下さい。どうぞよろしくお願いします。(40 歳代女性)

・性教育(どの年令から・・・特に 3 才ー年少 小学低学年 継続的に中学ー高校まで) ・性に関する医療機関が岩出市にないのは異常 医療機関の充実を。 ・そのなかで連絡しあう 教育ー医療ー行政 (60 歳代男性)

もっと子供達が小さい時から、男女の生まれ持った心と体の違いや、性のことをもっともっと包みかくさず理解させるべきだと思います。相手の体のことや心理を知ること（中学高校の時に知っていたら）これからきっと若い子とかの男女のつきあい方もかわっていくと思います。あと、避妊の仕方も、きちんと教えるべき。中絶はどんな風にして小さい命が失われるとか。女の人が子供がうみにくくなるとか……。勉強と共に教えてあげて欲しい。世の中を変えてほしいです。隠さない方が本当の性を伝えれると思います。時代はどんどん変化しています！！（30 歳代女性）

最近よく思うことは、若い主婦（ヤンママ）のモラルの低下がひどい。子供を車に乗せているのに、たばこをすっているのをよく見る。見た目が派手な恰好をしている。子供の教育について、まったく考えていないようなバカな親が多すぎる。（60 歳代男性）

【労働・産業に関すること】

男性も育児や家事に協力できるように、育休の充実をしてほしい。特に官公庁関係は未だに整備されていないと思う。（30 歳代男性）

実際、育児、介護で仕事を辞めざるを得なかった事もありましたが、過去も現在もこの事はあまり変化しているとは思えません（60 歳代女性）

岩出市には、人口減がこの5年～10年である。男女共同参画社会実現向け、さまざまな考えがありますが、わからず（どうすれば）岩出市には、サービス業が多いが、物作り企業が少なく不安に感じています このままでは、岩出市さびれた町になる。自分には「力」がなく困っています。「ミレニア後は？」（40 歳代男性）

講座やセミナーを開催した所で、女性が働き続けられるかを左右するのは、結局働き先の企業次第だと思います。セミナーに参加してくれるような真面目な方は、もともとセクハラやDVなどあまりやらない人だと思います。セクハラ加害者の処罰の強化と企業（職場）への働きかけを希望します。（20 歳代女性）

岩出市内への法人誘致。働く場、機会がなければそもそも男女共同参画の社会にはなりにくいのではと考えます。（20 歳代女性）

子育てをする環境、パートなどで休みが取りやすかったり、突然の時間調整（子供の急な時の対応）ができやすいと、子育て世代のお母さんは、もっと働きやすくなると思います。最初から、決まっていれば、気にせず働きやすいかと思います。なかなか、難しいのが現状ではないかと思います。とても気を使ったりするので、働きにくいかなあと思います。（40 歳代女性）

若い人が働ける職場をもっと作る。岩出の駅前どうにかして下さい。今の市長さんは、建設業ばかり優遇しすぎ！！いない工事しすぎおもに水道！！もっと岩出市に大きなお店を作して下さい。駅前 駅、もっと人をよべる町にして！！（50 歳代男性）

岩出市は、もっと企業の誘致をすすめるべきです。高齢者が増える中、そういった人々が働ける場所があれば、健康な人々が社会に復帰出来、しいては、岩出市の財政にも貢献出来ると思います。（60 歳代女性）

個人的な話ですが、私は妊娠 9 ヶ月です、職場で産休育休を含めて現場復帰は最低 5 か月と言われそれまでに復帰できなければ正社員ではなくパートとしての扱いになると言われました。私は周りに助けてくれる家族があるので 5 か月で復帰しようと考えていますが、このような事例に対して地域で話し合いこんなことがあるということを知ってもらえる機会を増やしていくことが大切だと思います。このようなことが多くなっていくと女性は子どもを出産することをためらってしまい少子化の原因にもなると考えます。（20 歳代女性）

【DV・ハラスメントに関すること】

DVに対して、問いが「5 年以内」と限定されているが、35 以上前に夫にDVを受け、ショックの為、胃に穴があき、人にも相談できず、頼りになる親も亡くなっており、帰る家もなく本当に悔しい思いをしました。ただ子どもの事を考えると、離婚する事もできず我慢するしかありませんでした。さらに、38 年休む事なく働いてきましたが、子どもの事を考え、フルタイムでしたがパートタイムだった為、「パートタイムごときが、と愚弄され、家を守り、子どもを守り、一生懸命にやって来た事。を女性をバカにした男尊女卑は未だに残っている様に思います。女の人の頑張りがなければ、何もできないと思います。（70 歳代以上未回答）

職場のパワハラは、働いて生活している上でがまんしてる人が多いように思う。周りの人達もわかっていても言えない状況のように思う。本人ではなく周りの人たちも相談できる窓口もあればと思う。（60 歳代女性）

講座やセミナーを開催しても、元々関心のある人しか集まらないと思いました。条例の制定や、警察、相談所などとの連携の強化が必要だと思います。今のままではDVやハラスメントを受けた側の泣き寝入り状態になることがほとんどに思います。（30 歳代女性）

私は他県から来ましたが、和歌山県は、男女平等に近い環境と思う。女性も、しっかりしている方が多いので成り立っている？と感じました。講座やセミナーを開催しても、参加する人は、もうできあがっている人だけになると思う。DVやハラスメントをしている人は、そもそも開催しても聞かないと思います。（30 歳代男性）

講座やセミナーなどは希望者参加ですから、そもそも関心がある、あるいは加害者にならない人達が多いのであまり意味はないように思う。被害者の方にしてもセミナーより、実際話を聞いてもらえる場や、医学的、法律的な面からも、それほど気負わずに楽な気持ちで相談できる場がよいと思う。そういう話は、お茶を飲みながらとか何気ない雑談の中から出てくるものだと思うのです。(50 歳代女性)

男女問題以外にも、職場いじめ（パワハラ行為）、学校でのいじめ問題にも力を入れてください。いじめ問題を解決することで、よりよい社会を築くことにもなります。また、いじめは、いじめる側、いじめられる側の両方が傷つきます。職場であれ、学校であれ、理由はどうあれ、いじめとパワハラ行為は犯罪行為であることを子どもと大人に教育すべきだと思います。(40 歳代男性)

年令の事もあり働く事に関してはあまり不自由も不平等も感じる事無く過せたと思います。でもDVやハラスメントについては経験ありませんが怒りを感じます。(60 歳代女性)

我が家では、夫婦共働きでなく私が働き、妻が家事、と役割を決めて、協力し合って生活しています。疲れて帰ってきて、それをフォローしてくれるのが妻だと思っています。自分でも掃除等やっているつもりです。ハラスメントとかDVとかなく、男女、夫婦仲よくやっていく、方向をさぐりながらやっています。ハラスメントとかDVとか法律の事はよく分かりませんが、それを伝えることが、逃げる場所とか施設とかを充実し相手に法律ではこうなりますよとか伝える、市の職員、警察の協力、の充実をよろしくお願いします(60 歳代男性)

【講演会セミナー開催に関すること】

セクシャルマイノリティへの理解や研修の機会。(50 歳代女性)

セミナーや講演をひらいてもその時でおわってしまう。男女平等と言えど、お互いを尊重し合うことがこれから考えていくべきこと。議員にしても男性が多くまた年を重ねている方が多い中、根本的な考えをかえなければ何もかわらないと思う。時代時代に合った政策を求めます。(50 歳代女性)

上記セミナーの講師の多くは女性であり、課題や問題の指摘をするが、具体的な解決方法の提案を殆んど聞かない。常々評論家であり、解説員であることが多い。(70 歳代以上男性)

私見としては、啓発とか講座とかセミナーというのは、主催側の好むやり方ではあるが、本当に必要な人たちには伝わらず対費用効果の薄い施策であると感じている。これは、市への批判という意味ではなく自分自身への批判でもあり、うまい解決策を見出せない課題でもある。(50 歳代男性)

【啓発・周知に関すること】

やはり、問２３の１２についての「地域活動や、ボランティア活動の機会を増やす」現場での啓発が、効果あると思う。(70 歳代以上男性)

岩出市として理想の男女共同参画とはどういうものかよく議論していただき、啓発や情報を発信していただきたい。各個人の思っている男女共同参画に違いがあることと、家庭の事情により異なるケースも考えられる。(60 歳代男性)

「男女共同参画に向けた推進や啓発」が市民に見えていないですよ。少なくとも私には届いていません。かれこれ３５年以上住んでいますが。市政の責任あるそれぞれのポストにもっと女性を登用しましょう。トップやヘッドが女性であれば、教育現場のように共同参画があたりまえになります。(60 歳代男性)

家庭、職場での男女の差、ハラスメントは、本人（被害者も含む）が無自覚なことも多いと思う。無知からもたらせるもの。子ども、大人にかかわらず、周知したり、学ぶ機会が大切。啓発も大切。(40 歳代女性)

問１１（２）の⑦⑧には、「家族以外あてはまらない」に○をしていますが、私は同居してるのが配偶者のみだからです。子供も同居親族もいません。このアンケートを手にするまで、「男女共同参画プラン」は、耳にしたこともありませんでした。私の知識不足かと思いますが、もっと充実させて、周知していただけるようにして欲しいです。(40 歳代女性)

岩出市民に周知してもらうには、まずは、市役所の中から、変化していくべきだと思います。それを、市民に理解・周知すれば、広がると思います。(40 歳代女性)

年令が高い方は昔のならわしや慣習にとらわれているので、無自覚でセクハラや心理的DVをしてしまっていると感じます。高令者が増える中、日常生活でも見かけます。男性も被害者の女性も自分が被害者だという自覚がないように感じます。若い方の啓発はもちろん大切ですが、大人、高令者にむけての啓発もとても大切だと感じます。(40 歳代女性)

P 1 2 の⑧～⑩について、全く知らずに、毎日を過ごしておりました。岩出の広報誌は見ているつもりだったのですが、今回のアンケートでそれらについて知らないということに気づくことができたので、男女共同参画に関する情報提供がもう少し充実したものになっていればと感じました。(20 歳代男性)

男女共同参画とは何？というところからなるのですが。その必要と利があるのであれば、それを理解させれば皆取り入れるでしょう。必要なモノで利が無いのであれば行政の補助が必要でしょう。必要性をしっかりと説いていただきたい。(40 歳代男性)

男女共同参画社会という言葉の意味を知らない人が多いと思います(40 歳代女性)

【男女の役割・生活について】

男女が同じ仕事をしていても、女性が補佐的な役割をすることが暗黙の了解となっていると感じる事が多いです。ですが、仕事の合い間に幼児の送り迎えや預け先の確保、家事などをしてしていると正直心身も疲れて、男性に関らず正社員、フルタイム勤務の人の「お手伝いでいい」と責任を負わなくて良い方に逃げたくはなります。女性が男性と同じように働くのではなく、どんな人もそれぞれの事情に合わせて働いたり生活しながら必要なサポートを受けられるのが理想です。すごく小さい子供でももう男女の固定観念を身近な人から得てしまっているように思うので、大人の意識改革と、子供への早期教育は重要だと思います。(40 歳代女性)

離婚したい。同居疲れた。子供達はかわいい。中年でパート女、今家を出て実際死ぬまで生活していけるのか？住む所は？税金は？国保支払えるの？生活水準は？福祉はどこまでカバーしてくれる？健康不安は？防犯への不安は？自分が介護される側になったら？いつまで働けるのか？（正社員は無理、何の資格もない）趣味を楽しむ心の余裕もなく生きていける？・・・という不安を並べると「生存権」（第25条）が維持される婚姻という現状（制度）を継続した方がましと考えざるを得ない。そんな女性がこの国には数えきれない程いると思う。そんな人が希望を持って生きていけない国なんですよ。(40 歳代女性)

権利の上では男女平等だが、男女それぞれの役割分担があって当然だと思うので、女性はいくまでも母性を発揮して、優しさ品性などをなくさないようにしてほしい。最近の女性は、殺人子どもに対する育児放棄、また配偶者に対する暴力など考えられないようなニュースにあふれていて、本当の意味での男女平等とは何か、疑問に思うことが多い。(60 歳代女性)

日常生活の中で自治会や社会活動等でも女性が前に出ることが「生意気」という雰囲気が感じとられます。地域性かといやになる事があります。1人1人が尊重されいろんな立場で自由に意見が言えて交流しあえてよりお互いの理解が深まり高めあえるような岩出市にするためにどうすべきか考えてほしいです。力のある人が弱い立場の人の声をきかず牛耳っているような古いところを改善していくことが男女共同参画や他の面でも近道ではないかと思います。(60 歳代女性)

農家の嫁に男女平等などなかった。人権もなかった。女中以下だった。義妹にまで名を呼び捨てにされ、本当に女中以下だった。こんな思いを息子のお嫁さんには味わわせたくないと思い、大事にしている。大正生まれの義父母は、本当に鬼のような存在だった。その分、夫は、今、優しい。(70 歳代以上女性)

女性の社会進出には賛成。ただし、数合せによる場合は反対。(30 歳代男性)

どんな事業をやってくれても、そもそもその人の考え方を変えないと難しい気がします。どうしたら個人の考えを変えられるか。長年、女は家事をするもの、みたいな考えで生きてきた人の考えを変えるのはなかなか。そう思っている時点で私もダメなのかもしれませんね。(50 歳代女性)

様々な場所で女性の意見を取り入れていく必要がある。年配の女性も必要だが 10 代の女性がこれからどのようにしていきたいか聞いたり、働く世代や子供のいる女性の意見をどんどん取り入れるべきだと

思う。男性も仕事だけをさせる環境から家事をたくさんできるような時間が作れるようにする。(40 歳代男性)

家事・育児は男性が手伝えればいいというものではないのです。責任をもって一緒にやるものです。都会の人や若い人に参画していただき、今までの常識や雰囲気を変えていっていただきたいものです。(40 歳代女性)

法制度は十分に制度化されていると思うが、男性、女性の意識の向上。女性は権利だけを主張するのではなく、男性と同程度までの働きを要求されていることを理解しなければいけないと思う。女性の理解できている人とそうでない人の差があまりにも大きく、そうでない人の中には権利だけを主張しまるで保護されていると勘ちがいしている人がいる。それは社会自体が女性保護を前面に出しすぎ男性よりも女性を保護することがクローズアップしすぎているためと思う。(50 歳代男性)

共同参画には、男女は身体的生理的な差がある。その特性を十分理解の上、男女の特性を活かし、拘束時間等も考慮し進めて行くことが今後の成功につながると思います。又、この件とは、直接関係が無いと思いますが、長年の経験から女性は子供を育てるのに男には出来ない身体能力を持っている。幼児期の小学校1年生までは母親が育児が出来る体制を整えること、減税や、手当の支給を行い、現在深刻な少子化を待った無しの対応が必要だと思います。地道な活動ですが頑張ってください。(70 歳代以上男性)

【男女共同参画全般に関すること】

この様な活動をされている方で、男女平等というより、勝手な偏見を自分の意見とし、他の人の意見を否定し自分の意見を押し通そうとする人をよく見かける。そういう人の考えを改めるか、排除したほうが良いと思う。(40 歳代男性)

教育と福祉が最も重要だと思います。(30 歳代男性)

人と人とのかかわりかたが昔より弱いのも。話し合いの場が出来ない理由として考えられるかと。相手の立場を理解し合える社会、人間性が大切だと思うが、決まり事としてルール等が社会にないと変化はむずかしいと考えます。(50 歳代女性)

男女は、身体がちがい有る為、全て、平等は、むずかしい。いかに女性を思いやる心だと思います。(50 歳代男性)

・日本独特な歴史上の問題もある。 ・国も特に国会議員や国の運営から見直すこと！ ・なかなか日本は、この件「男女の社会」について今まで何をしてくてきたのか？ギモン！ (50 歳代男性)

すべてにおいて少数意見を理解できる人材・集団がなければ、「絵にかいたもち」で終わると思います。
(60 歳代男性)

上記（問 2 3）特に必要だと思うもの 3 つに○印という事ですが、一つ一つ実践実行にして頂きたいと思います。全て後まわしにせず真剣に取り組んで頂きたいしまた私たちもよりよい生活をするために感心を持って参加していきたいと思います。(60 歳代男性)

全然関心がありません (70 歳代以上女性)

差別と区別はちがう (50 歳代男性)

他にも、やる事があるのではないのでしょうか？ (40 歳代男性)

正社員の頃も、自営業の頃も、アルバイトの現在も非常に職業の取組み場面の状況が厳しく現実問題として、男女共同参画の推進に關与する余地がない。唯、同業者である場合や同地区社会人である場合は、男女共同にて事態打開に向け協調してゆく心づもりは有している。市長が有り、一般公務員が有るので有れば、どこに於いても同種の形態が生じる。(60 歳代男性)

災害だらけの今、男女共同、岩出市民で災害マップなどにそった避難訓練やコロナなどの今にあわせた避難所作りなどをして行く事が大切だと、言葉にしても実現出来ない事が多いと思いますが、今だからこそ、出来る事を考えていければと思います。(50 歳代女性)

男女の性質を理解と心構え。また、個々や企業による他人への迷惑は社会の劣化になりうる。防災面は、公的対策整備に委ねる。(50 歳代男性)

パートナーシップ制の導入 (50 歳代女性)

岩出市が男女共同参画社会を推進していることは良くわかったが、和歌山県自体がまだまだ取り組みが劣っていると感じている。よって今後岩出市が先駆けとなって他の市町村、ひいては県をリードする位の活気ある社会づくりを実践していただきたい。(50 歳代男性)

男女共にあらゆる分野で活躍できるまちは素晴らしいと思います。現在は、I TやS N Sが普及し個人情報保護法もあり人と直接触れ合う機会が少なく淋しい人が多いように思います。男女共同参画社会を実現させるには、人としての心の豊かさや思いやり、優しさが重要だと思います。そのために市への要望としては、①夕方の市内放送に一言添える（確か、上富田町の夕の町内放送は一日の自分を振り返るような一言を添えていたのを聞いたことがあります）②木々や花を多く育てる街（市民参加型）以上です。(50 歳代女性)

・市長さんを女性にする。 ・女性の経営者が、働きやすい街づくり。(40 歳代男性)

男女共同参画についての会合の案内を見ても、今さら年寄りがと思って話を聞いたり内容の理解をしておりませんでした。今後少しでも体のゆるす限り協力させていただけることがありましたら、やらせていただきたいと思います。3月の市ふれあいまつりであいあいセンターで行事をしてくださっているのは知っていましたが、歩き回れずつい出不精で申し訳ありません。お許してください。(70歳代以上女性)

昔の考えの持っている年配の方を少なくし新しい考えや、やり方の出来る人を入れてほしい(議員さんなど)(40歳代女性)

【アンケートに関すること】

恋人がいるのが当たり前のように質問しないでほしいです(30歳代男性)

・問9. 意味がよく分らないので、その事例を具体的に書いて下さらないと・・・。(60歳代男性)

男女どちらに問いかけているのかわからない質問があるように思う。何を目的としたアンケートなのかよくわからない点がある。(60歳代男性)

アンケートは、答えにくい設問でした。岩出市にとって今一番必要な問題は何かを問う質問をお願いしたいと思います。(60歳代女性)

大変失礼ではありますが、質問の題材、それに対する答えの選択肢の内容が少しズレていると感じます。あらゆる面での男女平等を理解し、目指すのはとても大変で難しいとは思いますが、正直、自分の世代と、このアンケートを作った方の世代との考え方の違いをすごく感じます。それを理解するためのアンケートなのかも知れませんが、男女だけでなく、世代を交えての議論や調査が必要であり、アンケート作成1つにしてもそれは言えると思います。(20歳代男性)

後半のアンケートの設問において「男女共同参画」の定義ないし説明がないため、言葉の意味がわからなければ、重要性や必要性を考えることができない。岩出市のアンケートについては、これまでも何度か回答してるがいつもアンケートの設計に問題がみられる。これまでも、このことについて指摘してきたが、改善されているのだろうか？(50歳代男性)

このアンケートの結果がどの様に生かされるのかわからないです。すでに老老介護に近づきつつある私達には他の方面での市の協力が必要になるかも。(60歳代男性)

80才を目前にした今、色々な要望への関心が薄れて来て居る事を痛感しました。今後はテーマに合わせた年令層にアンケートをしぼるべきだと思います。無作為で人選する事に疑問を感じざるを得ません。(70歳代以上女性)

私は 86 才ですのでこの用件は必用ありません もっと調べてから出して下さい。(70 歳代以上女性)

男女共同参画というのが理解していません。アンケートの意味もわかりません。無作為とされえますが、50 才～60 才～70 才～は子育ても終わっております。60 才～70 才以上の方は仕事にも就かれていないでは…介護とは出てきますが、あまり質問の内容と違うのでは…回答しにくいアンケートでした。すみません。(50 歳代女性)

本人は理解出来ません。(50 歳代女性)

この調査は無記名でお書き下さいと記入されていますが、封筒にバーコードがあることがどなたかわかる仕組みになっているのでは？これこそおかしいと思います。正直には書けません。(50 歳代女性)

引越して数ヶ月なので岩出市の事はまだ分かりません (60 歳代女性)

岩出に住まわせていただいて、一年そこそこでコロナ問題があり、人との接触もなくなったので、何も解りません。(70 歳代以上女性)

【市政に関すること（新型コロナウイルス感染症）】

紀の川市などと比較すると、市の催し物の内容は充実していないように思う。コロナ関連でも給付金やマスクの支給は紀の川市やかつらぎ町ではありましたが岩出市ではありませんでした。男女共同参画社会を実現することも大切ですが、幅広い世代が住みやすい町づくりの方が先ではないでしょうか。(50 歳代女性)

岩出市は和歌山市や紀の川市に比べて何かと遅れている？！伝わってこない？！予算がないのか？！意見が上ってこないのか？マンネリ化しているのか？！コロナ対策でも他の市町村のような事もない（マスクの配布、一人一万、商品券、など）人口の割りには紀の川市、和歌山市、高野町串本町の方が住民対策が行き届いている (50 歳代女性)

コロナの対策で、他の（紀の川市や、和歌山市等）と比べて、手厚さを感じない。又、市の文化教室のお知らせ等も遅い (60 歳代女性)

コロナにおいて、岩出市は何もしない街である事がよく理解できた。もっと市民のために行動してほしいものです。(30 歳代男性)

コロナの時に他の所ではマスクやお金を出してくれているのに岩出市は何も出してくれない もっと援助を (60 歳代女性)

日々、災害、コロナのニュースに心がいたみます。かなしいこと、つらいこともすべて相手のことを自分におきかえられる社会になりますよう お祈りしてます ありがとうございます。(70 歳代以上未回答)

【市政に関すること（全般）】

岩出市は県下でも出生数が多い若い世代の町となっており、住みやすい町だと思っています。以前 20 代 30 代の為に基本健診を実施してくれていたのに、いつのまにかなくなっていました。若い世代の人の中には就職ができずに職場で健診する機会のない人もあると思います。どうか若い人に健康づくりを促す、基本健診（血液検査）の復活をお願いします。今年は市長選もあり、よろしくお願いします。(50 歳代女性)

活気あふれる街づくりのために努力していただいていることに感謝するとともに、その活動が真に実行、実現されることに期待いたします。(50 歳代男性)

ゴミ袋代の一部を使ってでも、お年寄りにはホント少ない年金で生活をしています。そんな人の為に少しでも補助してあげてほしいと思います。年に 1~3 回とかでもいいので、食料品代券みたいなプレゼントでも何でもいいので!!助けてあげてほしいです。(40 歳代女性)

社会全体が老人に対する認識不足を感じる。何でもインターネットでとか、インターネット出来る老人が何人いるか、男女平等とかは、今の時代すでにクリア出来ている。人口の 25%が老人である。長い間、社会に貢献してこられた、老人が安心して暮せる様な市政を構築して頂きたい。又人材育成を希望しています。期待しています。(70 歳代以上男性)

- ・精神疾患をもっていると、病名を聞いただけで何の知識もないのに、面接すら断われます。
- ・職場で、休けいなどをとる時 1 人になれないのがつらい！障害者を雇う側も少しは知識をもっていてほしいので、そういう説明会なり、して頂きたい。男女の区別なく (50 歳代女性)

障害のある人に対して支援などを増やして欲しいです。お金の面精神の面などを和らげる方法などをもっともっと考えて欲しいです。苦しんでいる家族を支援してくれる所、救命救急センターを兼ね備えた病院を作って欲しいです。車乗れないなどで病院通いが大変な人などは、すぐ助かるし、災害などおきた時すぐ受け入れる病院があれば、助かると思いますが、一度皆様で考えて欲しいです。病院の費用など沢山のお金かかるとは思いますが、のちのち市民には助かる事だと思います。(50 歳代男性)

男女平等だけでなく、精神の病気や、障害に対する理解やサービス、意識等が岩出市はとても低いと思います。実際妻の精神病に対する対応がとても酷かったです。大変だとは思いますが、一市民の声として受け止めて頂けると幸いです。字が汚くてすみません。(20 歳代男性)

生活するのに困らない（経済的にも）岩出にして下さい。（20 歳代女性）

- ・男女共同参画の取り組み、おつかれ様です。今後も頑張って下さいね。
- ・あと、市役所 1 F に行くと、若い職員の皆様のお顔が暗いのが気になります。とても気になります。（60 歳代男性）

今回のアンケートにはまったく関係無いが、市役所の窓口担当者が皆さん暗い。男女共に。昼食を机の上で食べていた。食堂は無いのか？休憩室みたいな部屋は無いのですか？（60 歳代男性）

市が本当に男女共同参画社会づくりを本当に進める気があるのか、やる気があるのか疑しい。例えば今年中止になったが市政懇談会では、幹部職員が出席しているが女性の姿は全く見られない。市のトップは女性の能力が低いと感じているからこそ女性の幹部登用が少ない。まず、このあたりの市のトップが意識を変えないとこの計画は形だけのものになり進むことはないだろう。（70 歳代以上男性）

岩出市は頭が硬い。柔軟に動けるように組織改革が必要。老人の市議員をさっさと辞めさせ世代交代するべき。でないと男女平等以前に、コロナや諸問題、これからについてもまともに動けないだろう。紀ノ川市や他の市を見ろ！！（20 歳代男性）

市長の存在があまりない。今までの市政の改革が必要 地方公務員のあり方。市民の為になるように自分達だけで納得し、それ以上の仕事はしない。 窓口の対応はその人（市民）を思ってしなければならない。（60 歳代女性）

のびのびと、子供達が遊べる公園が近くになく、家ばかり建っていて。狭い道から急に車がでて来て危険。 便利な交通手段が無い 災害が起きた場合コロナで密集できないので避難場所は大丈夫ですか。（70 歳代以上女性）

ジェンダー平等を実現しようだけではなく SDG s 全ての項目があらゆる取り組みの共通の課題になればいいと思う。こころ豊かに相手を思いやれることができる住み続けられるまちづくりのためにもこれからも積極的に女性の意見を取り入れてほしいと思います 今回この様な機会をいただきありがとうございました。（70 歳代以上女性）

いつも岩出市民の暮らしや幸せのために活動していただきありがとうございます。色々と困難な事柄もあり大変な仕事かと思いますが、これからも応援しています。（30 歳代男性）

多くのご意見をお寄せいただきましたこと感謝いたします。今後一層取り組んでまいります。ご意見のうち他機関へのもの、宗教的なものについては、掲載は割愛させていただきました。

2 （事業所用）問 13

男女共働く意識は同じものがあるが、男性に向いている仕事と女性に向いている仕事があり、それぞれ無理なく受け入れが出来るような事業所や会社が多くある社会になるように望みます。我が事業所も特に男女の差別なくほぼ同等の仕事量を与えています。私がもう少し配慮しなければと思いつつ、その分別がわかりづらい職種なのでどうしても同じ仕事量を与えています。行政の方々にも御協力を頂き、誰もが働き易い岩出市であるように。

女性を採用したら支援金などを出す制度があればいい。

当事業所では、来月からテレワーク（在宅勤務）を導入し、女性の出勤回数を減少させていきます。同業者もテレワークが拡大しています。

学業の間は、男女共同の形態であるが、社会人となり、職業人となった頃から男女で取組が分かれてくる。第一には、男女の違いを認識する事が肝心要の事だと思います。第二には、男女がお互いを尊重し、敬意を払う事が求められます。第三には、各々の現状をある程度知り譲り合ったり、融通し合ったりする事が大事な点だと思えます。第四には、成果主義や競争の意識を緩和し、マナーや方式の存在を知る機会を得る場の提供を主軸とすべきと考えています。産業活性化の為に優劣を競い合う事が大事だから、そこを一步離れた憩い癒しの場として善だ。

男女の能力ではなく、個々の違いだと思います。が、まだまだ管理職＝男性の世の中です。女性議員や、管理職に立候補者が少ないのも問題です。進んで手を上げれる、廻わりも応援せねばと思います。地位が偉いのでなくて、周囲に認め慕われた方が男、女問わず凄い方なのだと思います。昔ながらで“俺は部長になったから偉い”はまず、違う。上、下関係でもなく、◎考えを持った人、実現する人を創る社会教育が必要です。

経営者、管理職ともに古い価値観を持った昭和脳の男性であるため、女性をかなり見下している。就業規則には、産後や育児、介護休業の表記はあるものの、実際は取らせるつもりなどない。弊社経営陣においては、男女共同参画社会を実現する気などさらさらないと思われる。

男女共同参画は大都市と地方で、大きく異なると思われます。又業種によっても異なります。このようなアンケート等で意識を啓発し、少しずつ、企業や個人に男女共同参画の意義を理解してもらえとりくみが必要だと思います。以上

個人商店のため設問には答える内容でなかった

事業主と専従者で経営している為回答内容に考え方の相違があるかも知れません

男女共同参画社会と言われてから、ずい分と時が流れているが、社会全体より個々の意識が性別・世代により違いすぎる感がある。相変わらず家事・育児・介護を負担するのは女性が多く、女性が仕事をすると、相当なしわよせがあると思う。会社によっては、休みも取りづらい状況もさらに働く女性（主婦？）にとって負担となっている。結局朝～夜まで働きつづける働く主婦があたり前になっている？主婦の休業する日もない・・・と疲弊してストレスをため体をこわしたり、イライラしたりという方の声をよく聞く。そういう社会では、男女共同参画社会はなり立たない。男女でわけるでなく、1個人としてそれぞれ独立して働き社会の一員として存在することをお互い尊重できる社会が実現すればいいと思います。女性・男性それぞれが意識改革するには、子供時代からの教育の中ではもちろん、親世代・祖父母世代にも働きかけ意識改革が必要ではないでしょうか？それがひいては差別や人権問題にも通じると思います。

民間では女性が働いているところ（家）が多いと思う。各種団体、奉仕団体などで無理やりでも、女性の三役ポストへついてもらうようにするとよい。意識がかわるはずです。いろいろ見方がかわるはずで

す。

弊社では男女関係なく、女性の雇用も大事だと考えています。女性ならではの配慮、対、お客様への接客対応にも期待しています。ただ、税制等の問題も大きく、正社員登用には経営側、非正社員側も同意見として考えています。（正社員になりたくても税制の関係でなることが難しい）子育ても一段落し、パートではなく正社員として働いてほしいと思える方は弊社にもたくさんいらっしゃいますが、上記の問題でなかなか進まないという状況です。

和歌山県で唯一人口の増加傾向にあるのは、住みやすさや市の取り組みが大きいと感じます。

多くのご意見をお寄せいただきましたこと感謝いたします。今後一層取り組んでまいります。

岩出市 市長公室

和歌山県岩出市西野209番地

電話：0736－62－2141

FAX：0736－63－5229

Mail：koushitsu@city.iwade.lg.jp